

仙台市文化財調査報告書第 445 集

# 王ノ壇遺跡第 6 次調査

—都市計画道路「郡山折立線」関係遺跡発掘調査報告書—

2016 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会



仙台市文化財調査報告書第 445 集

# 王ノ壇遺跡第 6 次調査

—都市計画道路「郡山折立線」関係遺跡発掘調査報告書—

2016 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会



# 序 文

仙台市の文化財保護行政に、日頃からご理解、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

仙台市内では、旧石器時代から近世に至るまで約700か所を超える埋蔵文化財を確認しております。当教育委員会といたしましても、貴重な文化財の保存・保護を図りながら活用し、地域の歴史を解き明かしていくことは地域の発展にも繋がる重要なことと考えております。

本報告書は、平成25年度から27年度にかけて実施した都市計画道路「郡山折立線」の建設工事に伴う王ノ壇遺跡第6次調査の成果をまとめたものです。王ノ壇遺跡は、昭和62年度に実施した都市計画道路「川内柳生線」（現「県道仙台館腰線」）の建設工事に伴う試掘調査で発見した遺跡であり、これまでに道路建設や「富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う発掘調査など、5次にわたる発掘調査を実施しております。これらの調査では、縄文時代の堅穴遺構や配石遺構、古墳時代の古墳群、古代の堅穴住居跡や大規模な畑跡、中世の屋敷跡や道路跡などを発見しており、大野田地区の縄文時代から中世にかけての歴史を知るうえで欠かすことのできない重要な遺跡であることがわかりました。今回の調査では、古代の堅穴住居跡や掘立柱建物跡、畑跡などを発見し、新たな知見を得ることができました。本報告書が地域の歴史を解き明かす資料となり、学術研究のみならず市民の皆様に広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、仙台市では、平成23年3月11日の東日本大震災からの復興に向け「ともに、前へ仙台 ～3・11からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。未曾有の大震災から5年を迎えました。そうした中、発掘調査並びに本報告書の作成にご指導、ご協力をいただいた多くの皆様や関係機関各位に心より感謝申し上げますとともに、文化財保護行政に対しまして、さらに大きなご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、刊行のご挨拶といたします。

平成28年3月

仙台市教育委員会

教育長 大越 裕光



## 例 言

1. 本書は、平成25年度から平成27年度に仙台市教育委員会が実施した、都市計画道路「郡山折立線」の建設工事に伴う王ノ増遺跡第6次発掘調査の成果についてまとめたものである。
2. 発掘調査および本書の作成業務は、仙台市教育委員会が株式会社バスコに委託して実施した。
3. 報告書の作成および刊行は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係 佐藤 淳・高橋純平・結城慎一の監理の下、株式会社バスコが担当した。
4. 本書の執筆については第1章第1節・第4章を高橋純平が、第2章を高橋純平と川又理枝が、それ以外は川又理枝(株式会社バスコ)が執筆した。
5. 発掘調査及び資料の整理に際して、次の方々から多くのご指導・ご助言・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。  
(五十音順・敬称略) 小林一剛、吉田酒店
6. 本書の調査成果については、平成27年度宮城県遺跡調査成果発表会資料などで紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
7. 調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡 例

1. 本書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1:50,000地形図「仙台」の一部を改変して使用している。
2. 遺構図中の座標値は、「世界測地系」を基準とし、図中および本文記載の方位北は、全て座標北を基準としている。
3. 断面図中の数値は、海拔高度(T.P)を示す。
4. 本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2000年版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
5. 調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。  
SB: 掘立柱建物跡 SD: 溝跡 SI: 竪穴住居跡 SK: 土坑 SR: 河川跡 SX: 性格不明遺構 P: ピット
6. 遺構図の縮尺はスケールとともに図中に示した。
7. 遺構図に関する凡例は、必要に応じ、その都度図中に示した。
8. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別毎に番号を付した。  
A: 縄文土器 B: 弥生土器 C: 土師器(非ロクロ調整) D: ロクロ土師器 E: 須恵器 I: 陶器 J: 磁器  
K: 打製石器・磨製石器・礫石器・石製品
9. 出土状況図・写真図版に掲載した出土遺物の番号は、実測図を掲載したものと及び、写真を掲載したものについては登録番号をゴシック体で示した。その他の遺物は、取り上げ番号を明朝体で示した。
10. 遺物実測図の縮尺は、土器1/3、石器1/1・2/3・1/3とし、必要に応じて図中に示した。
11. 遺物観察表において( )は土器は復元値、石器は残存長を示している。なお、器高は原則として断面で計測した。
12. 遺構一覧表において( )は推定、[ ]は検出長を示している。
13. 掲載した遺物写真の縮尺は原則として遺物実測図に準じた。ただし、その縮尺での掲載が困難な場合は、適宜縮尺を変更した。
14. 本文中の「灰白色火山灰」(山田・庄子1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年(延喜15年)と推定されており、本書もこれに従う。  
山田一郎・庄子真雄 1980「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』  
仙台市教育委員会2000「沼向遺跡第1～3次調査」仙台市文化財調査報告書第241集  
小口雅史2003「古代北東北の広域テララをめぐる問題—十和田aと白頭山(長白山)を中心に—」『日本律令の展開』吉川弘文館
15. 本文中では、人為堆積土を埋土、自然堆積土を堆積土と表現している。

# 目 次

序文	
例言	
凡例	
第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
1. 調査経緯	1
2. 調査要項	1
第2節 遺跡周辺の地理的環境と歴史的環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
第3節 調査の方法と経過	4
1. 調査の方法	4
2. 調査の経過	5
第2章 基本層序	6
第3章 検出遺構と出土遺物	14
第1節 V層・Ⅷ層検出遺構	14
1. 竪穴住居跡	14
2. 掘立柱建物跡	28
3. 土坑	34
4. 溝跡	51
5. 小溝状遺構群	53
6. 性格不明遺構	58
第2節 遺構外出土遺物	59
1. 遺物集中範囲	59
2. その他の出土遺物	61
第4章 まとめ	62
第1節 検出遺構について	62
第2節 出土遺物について	64
引用参考文献	65
写真図版	69
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 王ノ塚遺跡の位置と周辺遺跡分布図	3
第2図 調査区位置図・グリッド配置図	5
第3図 調査区壁断面図(1)	7・8
第4図 調査区壁断面図(2)	9・10

第5図	基本層柱状図	11・12
第6図	調査区全体図	15・16
第7図	SI1 竪穴住居跡 平面図・断面図	17
第8図	SI1 竪穴住居跡 出土遺物	17
第9図	SI2 竪穴住居跡 平面図・断面図	19
第10図	SI3 竪穴住居跡 平面図・断面図	21
第11図	SI3 竪穴住居跡 出土遺物	23
第12図	SI4 竪穴住居跡 平面図・断面図(1)	25
第13図	SI4 竪穴住居跡 平面図・断面図(2)	26
第14図	SI4 竪穴住居跡 出土遺物	27
第15図	SB1 掘立柱建物跡 平面図・断面図	28
第16図	SB2 掘立柱建物跡 平面図・断面図	29
第17図	SB3 掘立柱建物跡 平面図・断面図	30
第18図	SB3 掘立柱建物跡 出土遺物	31
第19図	SB4 掘立柱建物跡 平面図・断面図	32
第20図	SB5 掘立柱建物跡 平面図・断面図	33
第21図	SK1 ～ 3 土坑 平面図・断面図	34
第22図	SK4 ～ 6 土坑 平面図・断面図	35
第23図	SK7 ～ 10 土坑 平面図・断面図	36
第24図	SK11 ～ 13 土坑 平面図・断面図	37
第25図	SK14 ～ 16 土坑 平面図・断面図	38
第26図	SK17・18 土坑 平面図・断面図	39
第27図	SK17 土坑 出土遺物	39
第28図	SK19 ～ 21 土坑 平面図・断面図	40
第29図	SK22・23・33・35 土坑 平面図・断面図	41
第30図	SK39・40・42 土坑 平面図・断面図	42
第31図	SK43 ～ 45 土坑 平面図・断面図	43
第32図	SK46 ～ 48 土坑 平面図・断面図	44
第33図	SK49 ～ 51 土坑 平面図・断面図	45
第34図	SK52 ～ 54 土坑 平面図・断面図	46
第35図	遺構配置図(東半部)	47・48
第36図	遺構配置図(西半部)	49・50
第37図	SD1・2 溝跡 平面図・断面図	51
第38図	SD5 溝跡 断面図	52
第39図	SD6 溝跡 断面図	52
第40図	小溝状遺構群 出土遺物	54
第41図	小溝状遺構群 断面図(1)	54
第42図	小溝状遺構群 断面図(2)	55
第43図	SX1 性格不明遺構 平面図・断面図	58
第44図	SX3 性格不明遺構 平面図・断面図	58
第45図	遺物集中範囲 平面図	59
第46図	遺物集中出土範囲 出土遺物	60
第47図	その他の出土遺物	61
第48図	周辺の遺構配置図	63
第49図	小溝状遺構群の分布	64
第50図	王ノ塚遺跡第6次調査の出土遺物	65

## 挿表目次

第1表	河川跡 土層註記表	13
第2表	S11 竪穴住居跡 土層註記表	18
第3表	S13 竪穴住居跡 土層註記表	22
第4表	S14 竪穴住居跡 遺物観察表	28
第5表	SB1 掘立柱建物跡 遺構計測表・土層註記表	29
第6表	SB2 掘立柱建物跡 土層註記表	30
第7表	SB3 掘立柱建物跡 遺構計測表・土層註記表	31
第8表	SB4 掘立柱建物跡 土層註記表	33
第9表	SD1・2・5・6溝跡 土層註記表	52
第10表	小溝状遺構群 計測表(1)	56
第11表	小溝状遺構群 計測表(2)	57

## —写真図版—

図版1	1年次調査区全景	69
図版2	2年次調査区全景	70
図版3	3年次調査区全景	71
図版4	3年次調査区全景、3年次調査区壁A断面	72
図版5	3年次調査区中央トレンチ、2年次調査区壁E・F断面	73
図版6	2年次調査区壁F断面、1年次調査区壁G断面	74
図版7	1～3年次調査区壁断面	75
図版8	S11 竪穴住居跡	76
図版9	S11～3 竪穴住居跡	77
図版10	S13 竪穴住居跡	78
図版11	S14 竪穴住居跡	79
図版12	SB1～3 掘立柱建物跡	80
図版13	SB3～5 掘立柱建物跡	81
図版14	SK1・3～5 土坑	82
図版15	SK7～12・16 土坑	83
図版16	SK17・18・20～22 土坑	84
図版17	SK23・40・42～44 土坑	85
図版18	SK45～52 土坑	86
図版19	SK53・54 土坑、SD1・2・5溝跡	87
図版20	SD6溝跡、小溝状遺構群	88
図版21	小溝状遺構群、SX1-3性格不明遺構、遺物集中状況	89
図版22	S11・3 竪穴住居跡 出土遺物	90
図版23	S14 竪穴住居跡 出土遺物	91
図版24	SB3 掘立柱建物跡、SK14・17・40・52 土坑、小溝状遺構群、遺構外(VII層遺物集中範囲) 出土遺物	92
図版25	遺構外(VII層遺物集中範囲) 出土遺物	93
図版26	遺構外(基本層I・II・VII・X層) 出土遺物・写真掲載遺物観察表	94

## 第1章 調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

#### 1. 調査経緯

王ノ壇遺跡第6次調査は、都市計画道路「郡山折立線」（大野田工区）の道路改築工事に伴い実施した発掘調査である。王ノ壇遺跡は、昭和62年度に実施された都市計画道路「川内柳生線」（現「県道仙台館腰線」）の建設工事に伴う試掘調査で発見された遺跡であり、これまで都市計画道路建設や富沢駅周辺土地地区画整理事業に伴う発掘調査など、5次にわたる発掘調査が実施され、これらの調査成果から中世の屋敷跡、古代の大規模な畑跡の他、古墳や縄文時代の遺構・遺物も確認されている。

平成25年7月11日付で仙台市長より、宮城県教育委員会にH25建道南第895号「都市計画道路「郡山折立線」（大野田工区）道路改築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて（協議）」が提出された。予定地区は王ノ壇遺跡の北東部を横断しており、昭和63年度から平成3年度にかけて発掘調査を実施した「川内柳生線」の東側にあたる。「川内柳生線」の調査では、中世から縄文時代にかけての遺構・遺物が発見されており、平成10年度に実施した「郡山折立線」の予定地南に隣接する調査区でも同様の調査結果であったことから、各時代の遺構・遺物が「郡山折立線」予定範囲まで広がっていることが予想された。このことから仙台市教育委員会は仙台市建設局道路部と協議し、平成25年8月5日より予定地の本発掘調査を第6次調査として実施することとした。

#### 2. 調査要項

遺跡名	王ノ壇遺跡（宮城県遺跡番号01428）
所在地	仙台市太白区大野田二丁目112外
調査原因	都市計画道路「郡山折立線」建設
調査主体	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課

##### （1）平成25年度（1年次）

調査面積	700㎡
調査担当	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課
調査体制	主査 主濱光朗 主査 荒井格 専門員 結城慎一 株式会社パスコ仙台支店・株式会社パスコ文化財センター 主任調査員 岩崎祥（現場代理人兼任） 調査員 河内公男（平成25年8月27日～10月31日） 計測員 佐野喜一郎 計測補助員 戸部孝一
調査期間	野外調査：平成25年8月27日～平成25年11月11日 ；平成26年2月3日～平成26年3月31日 資料整理：平成25年11月12日～平成26年12月13日

##### （2）平成26年度（2年次）

調査面積	本調査面積1308㎡
調査担当	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課
調査体制	主査 主濱光朗 主査 荒井格 主事 庄子裕美 株式会社パスコ仙台支店・株式会社パスコ環境文化事業部文化財センター

主任調査員 岩崎 祥（現場代理人兼任）

調査補助員 田中美徳

計 測 員 阿部 篤

計測補助員 草薙敏宏

調査期間 野外調査：平成26年6月2日～平成26年11月12日

資料整理：平成26年11月13日～平成26年12月26日

### （3）平成27年度（3年次）

調査面積 対象面積 1,576 m<sup>2</sup>

調査担当 仙台市教育委員会生涯学習部文化財課

主査 佐藤 淳 主事 高橋純平 臨時職員 結城慎一

調査体制 株式会社パスコ仙台支店・株式会社パスコ環境文化事業部文化財センター

主任調査員 川又理枝（現場代理人兼任）（平成27年6月15日～平成27年11月3日）

秋本雅彦（現場代理人兼任）（平成27年11月4日～平成28年3月31日）

調査補助員 田中美徳

計 測 員 播間 太輔（平成27年6月15日～平成27年9月10日）

（平成27年11月9日～平成28年3月31日）

阿部 篤（平成27年9月11日～平成28年11月6日）

計測補助員 門脇 智

調査期間 野外調査：平成27年9月14日～平成27年11月3日

報告書作成：平成27年6月15日～平成27年8月21日

平成27年11月4日～平成27年3月31日

## 第2節 遺跡周辺の地理的環境と歴史的環境

### 1. 地理的環境

王ノ塚遺跡は仙台市太白区大野田二丁目に所在し、仙台市営地下鉄南北線富沢駅から東へ約0.8kmに位置する。この地区は南縁を名取川、北縁を広瀬川、北西縁を青葉山丘陵に囲まれた沖積地で、郡山低地と呼称されている。郡山低地内には名取川の支流である荒川をはじめとした複数の小河川が曲流し、これにより自然堤防・旧河道跡・後背湿地が複雑に入り組んだ地形が形成されている。遺跡は主に荒川によって形成された標高10～12m前後の自然堤防上に立地し、南西から北東方向へと緩やかに傾斜する微高地上に存在する（仙台市教育委員会2000）。

### 2. 歴史的環境

王ノ塚遺跡ではこれまで5度にわたる発掘調査が行われており、調査の結果、縄文時代から中世におよぶ複合遺跡であることが明らかになっている。今回の第6次調査区は第1次調査Ⅲ区の東側に位置し、第4次調査区の北側に隣接する。遺跡の東方約1.5kmには国指定史跡の「仙台郡山官衛遺跡群 郡山官衛遺跡 郡山廃寺跡」が位置し、遺跡の近隣西側の「大野田官衛遺跡」（仙台市教育委員会2011）と密接な関係を有していたと考えられる。

縄文時代 名取川及び荒川流域の自然堤防上の微高地を中心に、生活の場が展開されていたことが明らかとなっている。六反田遺跡では中期後葉から後期初頭の集落が、下ノ内遺跡では中期末葉から晩期の集落が、それぞれ確認されている。王ノ塚遺跡ではこれまでに、後期中葉から晩期初頭にかけての遺物の出土が確認されているが、環状配石遺構・堅穴遺構・土坑・埋設土器遺構といった検出遺構の主体は後期中葉である。



No.	遺跡名	位置	種別	時代	No.	遺跡名	位置	種別	時代
1	王ノ塚遺跡	自然発露	集落跡・埋藏物	縄文(後)～中世	36	上平内遺跡	古墳	集落跡・生原遺跡	縄文・古墳
2	伊古古ノ遺跡	自然発露	埋藏物	古墳～平安	37	上平内遺跡	古墳跡	古墳～奈良	
3	下ノ内遺跡	自然発露	集落跡・瓦跡	縄文(中～後)～中世	38	上平内遺跡	古墳跡	古墳	
4	大野宮古墳群	自然発露	古墳・高冨跡	古墳～中世	39	井ノ口遺跡	古墳	集落跡	平安
5	王ノ塚古墳	自然発露	古墳	古墳	40	三神集落跡	跡土	集落跡	縄文
6	春日社古墳	自然発露	古墳	古墳	41	金山遺跡	跡土	瓦跡	古墳
7	高塚原古墳	自然発露	古墳	古墳	42	三神集落群	跡土	古墳	古墳
8	大野宮瓦葺遺跡	自然発露	瓦葺跡	古墳～奈良	43	新井遺跡	跡土	瓦跡	古墳～平安
9	穴ノ内遺跡	自然発露	集落跡	縄文(中～後)～近世	44	金洗沢古墳	跡土	古墳	古墳
10	新野遺跡	自然発露	集落跡	縄文・古墳～平安	45	鹿野東遺跡	跡土	集落跡	平安
11	八反井古墳	自然発露	古墳	古墳	46	鹿野古墳	跡土	古墳	古墳
12	石川原古墳	自然発露	古墳	古墳	47	足家遺跡	跡土	集落跡	奈良～中世
13	新井木戸遺跡	自然発露	古墳跡	古墳～平安	48	足家遺跡	跡土	集落跡・古墳	奈良～中世
14	伊古古遺跡	自然発露	集落跡	縄文～平安	49	新井遺跡	跡土	瓦跡	奈良～平安
15	下ノ内遺跡	自然発露	古墳跡・瓦跡	縄文(前・中・後)～中世	50	新井上ノ内遺跡	跡土	野倉跡	縄文～平安
16	新井遺跡	自然発露	古墳跡	古墳・平安	51	野倉跡群	自然発露	埋藏物	中～近世
17	山ノ口遺跡	自然発露・後発露	集落跡・木井跡	縄文～平安	52	金山遺跡・遺跡	自然発露	集落跡・生原遺跡	縄文・奈良～中世
18	野倉遺跡	後発露	集落跡・木井跡・瓦跡	古墳～近世	53	金山遺跡群	自然発露	集落跡	縄文・奈良～中世
19	新野成遺跡	自然発露	木井跡・瓦跡	縄文(後)・奈良～古墳・平安	54	金山遺跡群	自然発露	集落跡・古墳跡	縄文・奈良～中世
20	鹿塚古墳	後発露	古墳	古墳	55	鹿ノ塚遺跡	自然発露	集落跡	奈良～平安
21	穴ノ内遺跡	自然発露	集落跡	奈良～平安	56	石本古墳群	後発露	集落跡	平安
22	大野宮遺跡	自然発露	集落跡	縄文(後)・奈良(中)・古墳～平安	57	鶴山遺跡	自然発露	古墳跡・古墳・寺跡	縄文(後・前)・奈良(中・古墳)～近世
23	鹿塚遺跡	自然発露	集落跡・生原遺跡・野倉跡	奈良～平安・中世	58	石台原遺跡	自然発露	集落跡・古墳跡・瓦跡	縄文・奈良(中)・古墳～近世
24	鹿野下ノ内遺跡	自然発露	集落跡	奈良～平安	59	高野野東遺跡	自然発露	集落跡	縄文・平安
25	高野野東遺跡	自然発露	集落跡	奈良～平安	60	北目塚群	自然発露	埋藏物・集落跡・木井跡	縄文(後)・奈良～近世
26	新井遺跡	自然発露	集落跡	奈良～平安	61	穴家遺跡	自然発露	生原遺跡・古墳跡	古墳～平安
27	足家遺跡	自然発露	集落跡	奈良～平安	62	野倉遺跡	自然発露	集落跡	奈良～平安
28	高野清水遺跡	自然発露	古墳跡	古墳跡	63	鹿ノ塚遺跡	自然発露	集落跡	古墳～平安
29	高野清水遺跡	自然発露	集落跡	奈良～平安	64	穴ノ上ノ内遺跡	自然発露	生原遺跡	平安～中世
30	鹿ノ内遺跡	自然発露	集落跡	古墳～平安	65	穴ノ上遺跡	自然発露	集落跡	古墳～平安・近世
31	奈良八幡古墳	後発露	古墳	古墳	66	穴ノ上遺跡	自然発露	集落跡	古墳～平安・近世
32	一塚古墳	古墳	古墳	古墳					
33	二塚古墳	古墳	古墳	古墳					
34	新野野東遺跡	跡土	集落跡	奈良～平安					
35	新野古墳	古墳	古墳	古墳					

第1図 王ノ塚遺跡の位置と周辺遺跡分布図

**弥生時代** 中期には荒川対岸の後背湿地に水田が営まれ、後背湿地から自然堤防にかけて立地する山口遺跡では水田跡が、下ノ内浦遺跡では後期の土壌墓や土器棺墓、堅穴遺構が確認されている。

**古墳時代** 前期の住居跡が下ノ内遺跡・伊古田遺跡・六反田遺跡で確認され、中期には大野田古墳群として知られる古墳群が東側一帯に形成されている。六反田遺跡の遺跡範囲内では五反田古墳、五反田石棺墓が確認されている。

**奈良時代** 山口遺跡、下ノ内浦遺跡、下ノ内遺跡、六反田遺跡などで集落跡が営まれている。

**平安時代** 荒川右岸の微高地全域で集落が営まれている。荒川対岸の富沢遺跡では10世紀前半以降の水田跡が全域で確認されている。六反田遺跡では水田跡や堅穴住居跡が確認されている。荒川対岸の山口遺跡では平安時代末葉の河川跡が確認されている。また多くの遺跡で確認されている小溝状遺構からは、自然堤防上を生産域として利用した人々の活動に関する多くの成果が得られている。

**中世** 王ノ壇遺跡第1次調査において、屋敷跡や塚・火葬墓・土葬墓などの宗教施設跡、道路跡、区画溝などが確認されている。また、大野田周辺には板碑が数多く残っており、中世の道路跡も確認されている。

### 第3節 調査の方法と経過

#### 1. 調査の方法

平成25年度調査に際し本調査区の設定のため、調査区に近接する国家座標 QE611002 (3級基準点 世界測地系 X=198,043.325m Y=3,904.088m) 及び X=198,120.000 Y=3,900.000 を基点とし、調査区を網羅する X=198,050.000 Y=4,000.000 までを方眼座標として設定した。また一括取り上げ遺物の管理と出土遺構の地点管理のため、X=198,120.000 Y=3,900.000 を起点座標 (A1) とする10mの任意グリッドを設定した。平成26年度調査もこれらを踏襲して調査を行っている。

平成27年度調査に先立ち1・2年次の測量成果を再検討したところ、現在最新の成果である「測地成果2011」との間には、X座標南へ約1m・Y座標南へ約3m・標高約-0.1mの相違があることが判明した。これは、平成25年度・26年度調査の基準点測量が東日本大震災前の「測地成果2000」で実施されていたことに起因する。協議の結果、水平位置については過去の調査成果との整合性を考慮して「測地成果2000」を採用し、標高値については最新の「測地成果2011」を採用した上で、過去2年分の発掘調査成果の標高値を改正する事とした。平成27年度調査範囲の設定に用いた国家座標は、QE611002 (X=198046.229m Y=4001.300m)、QE611005 (X=198043.325m Y=3904.088m)、基-12 (平成21年度補助基準点網図：仙台市太白区長町二丁目南～大野田地内、仙台市建設局) (X=198034.861m Y=3924.992m) の3点である。これらを基に、X=198,120.000 Y=3,900.000 を起点座標 (A1) とする10mの任意グリッドを再度設定し、一括取り上げ遺物の管理と出土遺構の地点管理を行った。

検出した遺構の計測及び遺構平面図の作成はトータルステーションを用いて行い、出土遺物はグリッドごとの取り上げを基本とし、遺構内出土遺物については、出土層位別に取り上げを行った。重要遺物は出土地点を平面図に展開できるように記録を行い、出土状況の微細図は写真測量を併用して記録保存に努めた。遺構の土層断面図は、基準点測量の標高値をもとに手実測で作図を行った。基本層序把握のために実施した調査区壁の土層断面図についてはトータルステーション及び写真計測による作図を行い、CADソフトを用いて作図編集を行った。

写真撮影は一眼レフのフィルムカメラとデジタルカメラを用いて行った。フィルムはモノクロ35mmとカラーリバーサルフィルム35mmで撮影した。遺構の検出状況や遺物の出土状況・土層堆積状況等、遺構調査の各段階で適宜撮影を実施するとともに、作業風景や調査の経過・機材等の搬入の状況等については、コンパクトデジタルカメラを用いて補足した。

## 2. 調査の経過

平成25年度の1年次調査は、平成25年8月24日に調査区南西範囲より野外調査を開始した。9月6日に遺構検出作業に着手し、11月7日に終了した。11月11日に撤収工を終了し調査区南西範囲の野外作業を完了した。平成26年2月3日から2年次調査予定範囲の表土除去に着手し、遺構検出作業を3月31日に完了した。現場作業を中断した平成25年11月12日から12月13日までは南西範囲調査に伴う出土遺物の水洗・注記、撮影写真整理、計測図修正等の基礎整理作業を実施した。

平成26年度の2年次調査は、平成26年6月2日から野外調査を開始し、前年度確認した調査区東範囲の遺構掘り下げ・記録保存作業を行った。10月6日からは調査区切り替えて残っていた北東範囲338㎡の調査に着手し、11月7日に終了した。平成26年11月10日から撤収作業及び環境整備・安全対策を行い、11月14日に野外作業を完了した。現場作業を終了した平成26年11月13日から12月27日までは、出土遺物の水洗・注記・分類や図面整理・写真整理等の基礎整理作業を実施した。

平成27年度の3年次調査は、野外調査に先立ち平成27年6月16日から8月21日まで、平成25年度・平成26年度の本報告書作成作業の一部実施した。8月24日から野外調査の準備を開始し、9月14日から調査区北西範囲の調査を開始した。10月22日に北西範囲の調査を終了し、進入路となっていた113.8㎡について10月26日から表土掘削を開始した。翌27日には遺構検出を終了し、10月29日の遺構完掘全景写真撮影及び測量をもって調査区全範囲の野外調査を終了した。その後、調査区埋戻し・整地作業を行い、11月2日に野外調査の全工程を終了した。11月4日から平成28年3月31日まで、平成27年度調査の基礎整理作業と並行して、平成25年度～平成27年度の3年間の発掘調査報告書の作成刊行作業を行った。



第2図 調査区位置図・グリッド配置図

## 第2章 基本層序

王ノ壇遺跡第6次調査の調査区は東西約80m・南北約60mである。現地表面はほぼ平坦であるが、南北4グリッドライン付近を境に、西側は約1.0m、東側は約1.6mの厚さで盛土されており、表土掘削後の地形は東西で段差を有する。この段差は南北4～5グリッドライン付近の調査区で南北方向の河川跡として確認され、その西側と東側では土層の堆積状況に若干の違いが認められる。河川跡西側で観察される土層の堆積状況は、西側に隣接する王ノ壇遺跡第1次調査（仙台市教育委員会2000）および南西に隣接する王ノ壇遺跡第4次調査（仙台市教育委員会1999）の調査成果と概ね対応している。以下、今回の調査で確認された各層の特徴を整理し、周辺調査との対応関係を踏まえて記載する。

### I層 2.5YR4/2（暗灰黄色）シルト質粘土

近現代の水田耕作土層。酸化鉄が層状に集積し、最下面にはマンガン粒が集積する。層の下面は比較的平坦だが、段差が見られる箇所がある事から、地形を利用して水田段差が設けられていた可能性も考えられる。

### II層 河川跡により落ち窪んだ範囲内のみ確認され、a～dに細分される。

#### II a層 10YR4/3（にぶい黄褐色）シルト質粘土

水田耕作土。酸化鉄が層状に集積する。層上面から近世陶磁器片が出土し、近現代の遺物を含まない。層下面は若干の起伏はあるがほぼ平坦である。

#### II b層 10YR4/3（にぶい黄褐色）シルト

水田耕作土。砂を多く含み、層中に酸化鉄が層状に集積する。層上面から近世陶磁器片が出土しており、近現代の遺物を含まない。層下面は若干の起伏はあるがほぼ平坦である。

#### II c層 10YR4/3（にぶい黄褐色）砂質シルト

砂を多く含み、酸化鉄が斑紋状に集積する。残存する河川跡の東端部に堆積する。

#### II d層 10YR4/3（にぶい黄褐色）シルト

砂とシルト質粘土をやや多く含む。灰白色シルトの薄層をごくわずかに含む。

### III層 王ノ壇遺跡第1次調査における中世の検出面だが、今回の調査では確認できなかった。

### IV層 10YR3/3（暗褐色）シルト質粘土

小溝状遺構群・堅穴住居など古代の遺構の掘り込み面と考えられる。調査範囲内に部分的に残存し、B2～B3グリッド付近の南壁および河川跡西側のD2～D3・E3グリッド付近の遺構検出面、調査範囲北東端G9付近の調査区東壁面で確認された。遺物の出土は少なく、調査区東端では須恵器・土師器等の破片が出土している。王ノ壇遺跡第1次調査におけるV層に相当する。

### V層 2.5Y4/3（オリーブ褐色）～10YR4/3（にぶい黄褐色）シルト～粘土質シルト

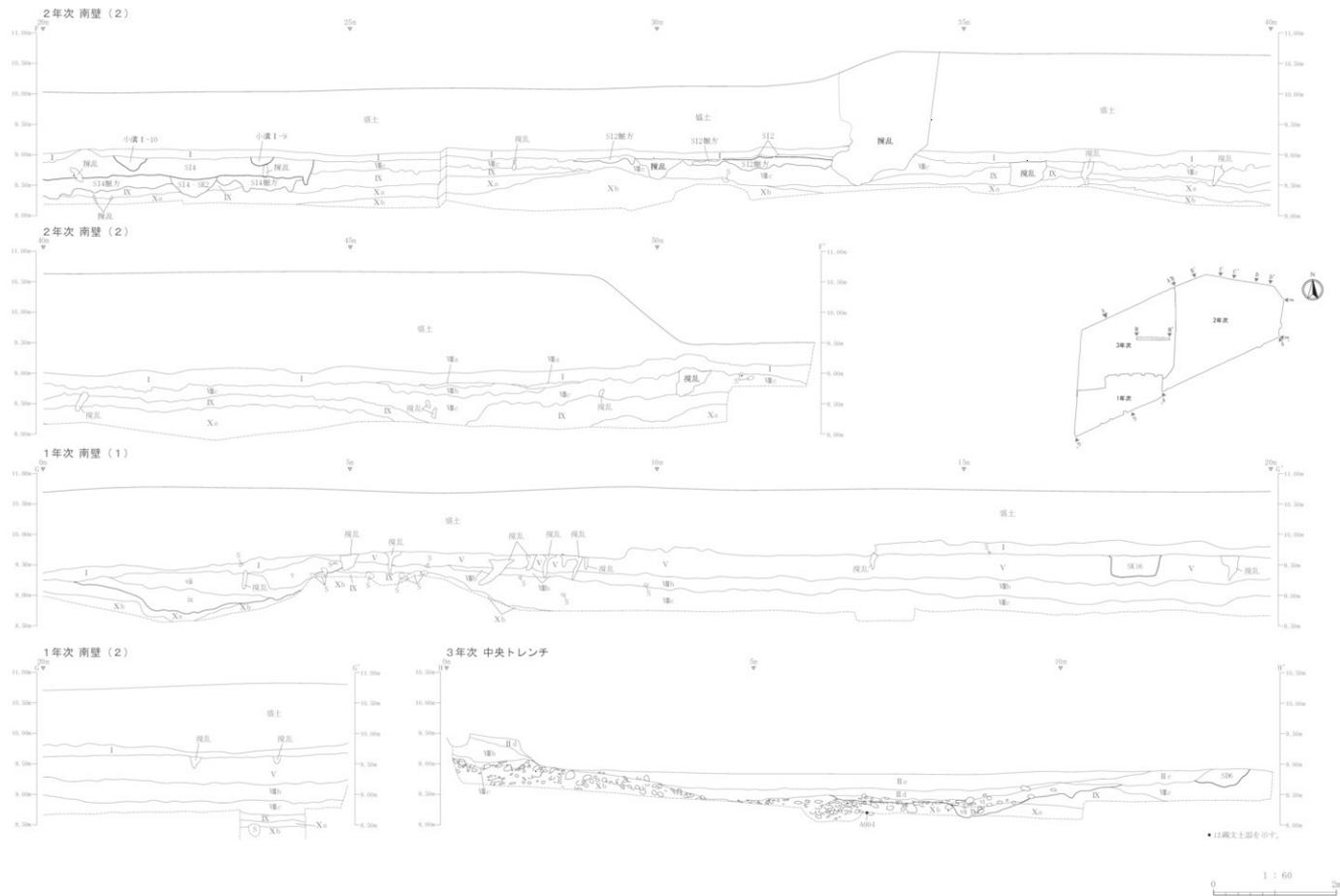
河川跡より西側で確認された古代の遺構の確認面である。今次調査においては弥生時代の遺物の出土は確認できなかったが、層序から王ノ壇遺跡第1次調査におけるVI層に相当すると考えられる。

Ⅶ層 縄文時代後期の遺物包含層。X層上面の起伏に影響されていると見られ、X層上面の標高の低い地点で厚く、それ以外の地点では薄く堆積する傾向が観察される。a～cに細分される。

#### Ⅶa層 2.5Y4/3（オリーブ褐色）粘土質シルト

主に南北8グリッドラインより東で確認された古代の遺構の確認面である。全体的に酸化鉄、マンガンを多く含み、北東壁付近では上位にIV層類似層が確認される。層下面はやや凹凸が見られる。層序からは基本層V層に相当する可能性も考えられるが、Ⅶ層の細分層として扱った。





第4図 調査区壁断面図 (2)



## Ⅷb層 10YR3/4 (暗褐色) シルト

Ⅷa層の下位で確認され、土質はⅧa層に類似するがやや色調は暗い。層序からは基本層Ⅵ層に相当する可能性も考えられるが、層中からの出土遺物が認められないためⅧ層の細分層として扱った。南壁ではD8グリッドより以東で確認される。

## Ⅷc層 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 砂質シルト

主にD～F・5～7グリッド付近の確認面である。I層の直下に確認され、古代の遺構確認面として堅欠住居跡や溝などが検出されるとともに、縄文時代の遺物を包含する。Ⅷa・Ⅷb層より砂の割合がかなり多い。C6・C7グリッド付近の南壁Ⅷ層はかなり起伏が見られ堆積も乱れている。出土遺物により王ノ壇遺跡第1次調査におけるⅧ層相当とした。

## Ⅸ層 10YR4/4 (褐色) シルト～砂質シルト

2.5Y4/1(黄灰色)の砂を多く含み、色調はやや暗い。D～F・5～7付近では特に砂を多く含み、厚く堆積する。王ノ壇遺跡第1次調査における縄文時代後期中葉の遺物包含層(Ⅸ層)に相当する。

X層 調査区のほぼ全域に確認されると推測される。a～bに細分される。

## Xa層 10YR4/3 (にぶい黄褐色) 砂質シルト～砂礫

シルト～砂～砂礫が互層状に堆積する。調査区南東の標高の低い部分では、壁断面の観察により安定した堆積が確認されたが、ほとんどの範囲では上位層の影響で消失している。

## Xb層 砂礫～礫

10cm以上の礫および砂礫を主体とする層で、王ノ壇遺跡第1次調査におけるX層下部の礫層に対応する。層の上面は所により大きく起伏しながら、東へ向かって下り傾斜しているものと考えられ、壁面調査の際に深堀トレンチを設定し確認作業を行った。

確認面上でXb層が露呈していた範囲は調査範囲西側のD2グリッド周辺である。また南西B3～C4グリッド付近の調査区壁断面、南東D7～D8グリッド付近の調査区壁断面でも確認面の直下で礫層を確認した。壁面調査において、礫層が確認されなかった範囲に深掘りトレンチを設定した結果、Xb層は概ね起伏しながら北東に向かって下り傾斜する状況が確認されたが、調査範囲東端の北壁(東)トレンチでは掘削深度との兼ね合いでXb層まで確認し得なかった。王ノ壇遺跡の各時代の遺構面に見られる微地形の変化は、本層上面の起伏に由来すると考えられており、以後の堆積が本層の上面標高が高い部分には薄く、低い部分には厚く堆積した結果として、次第に起伏がなだらかになっていったものと推測されている(仙台市教育委員会：2000)。

なお、第1表に河川跡内で確認した堆積層の特徴を記載した。河川跡の影響で落ち窪んだ範囲内では、近世の水田耕作土と考えられる基本層Ⅱ層が確認されており、この水田耕作の影響によって本来の河川堆積土の上半部は消失したものと考えられる。層中からの出土遺物も少ないため、河川が実際に流れていた時期については不明である。

遺跡	層位	土色	土性	備考	
河川跡	I	10YR6/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	砂と粘土をやや多く含む。礫化跡を複数認め、部分的に層状に堆積する。
	II	10YR2/4	暗褐色	シルト	グライ化した粘土とサンゴ殻を多量に含む。自然形をやや多く含む。
	III	10YR2/3	暗褐色	砂質シルト	サンゴ殻を多量に含む。2.3cm～5.0cm程度の礫を少量含む。
	IV	10YR2/4	暗褐色	粘土質シルト	0.3cm～5.0cm程度の礫を多量含む。
	V	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	0.3cm～5.0cm程度の礫、砂礫を少量含む。礫化痕跡が認められ少量含む。
	VI	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	0.3cm～5.0cm程度の礫を多量含む。
	VII	—	—	礫層	0.3cm～5.0cm程度の礫が互層状に堆積する。
Ⅷ	Ⅷa	10YR3/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	グライ化した粘土とサンゴ殻を多量に含む。自然形をやや多く含む。
	Ⅷb	10YR4/4	褐色	シルト～砂質シルト	グライ化した粘土と砂を多量に含む。

第1表 河川跡 土層註記表

## 第3章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 V層・Ⅷ層検出遺構

調査区西側では水田耕作が基本層V層に及んでおり、遺構検出作業はV層中で行った。東側では、さらに下位層まで水田耕作の影響が及んでいるため、基本層Ⅷ層中で遺構検出作業を行った。よって本項で扱う各遺構の正確な帰属層と時期については不明瞭なものがある。

調査区中央部には南北方向の河川跡を確認しており、これより西側の基本層V層で検出した遺構には、掘立柱建物跡2棟(SB4・5)、土坑31基(SK1～23・42～45・47・52～54)、溝跡1条(SD1)、小溝状遺構1群(Ⅶ群)、性格不明遺構1基(SX1)他、多数のピットなどがある。河川跡東側は基本層Ⅷ層中で遺構検出作業を行い、小溝状遺構8群(I～Ⅶ・IX群)、溝跡2条(SD2・5)、土坑9基(SK33・35・39・41・46・48～51)、性格不明遺構1基(SX3)、竪穴住居跡4軒(SI1～4)、掘立柱建物跡3棟(SB1～3)の他、多数のピットを検出した。また調査区中央南側のⅧ層中で遺物がまとまりを持って出土した範囲をSX2としたが、遺構プランが明確に確認できなかったことから、遺物出土分布図として第44図に示した。以下、検出された遺構と遺構内出土遺物について、遺構の種類ごとに報告する。

#### 1. 竪穴住居跡

Ⅷ層上面では4軒の竪穴住居跡SI1～4をまとまった範囲で検出した。SI1およびSI3は調査区内で遺構の全範囲を確認したが、SI2およびSI4は遺構南半を調査区内で確認することは出来なかった。またSI2付近は、南壁土層断面の観察により、Ⅷ層の標高が周囲より若干高いことが確認できた。このため水田耕作による削平が他の竪穴住居跡より著しく、住居掘り方のみの確認にとどまった。以下、各竪穴住居跡について個別に記載する。

##### SI1 竪穴住居跡(第7・8図、第2表、図版8・9)

[位置] 調査区中央南側D5～E5で検出した。

[重複関係] P153より新しく、P151・229より古い。

[規模・形態] 南北約4.1m、東西約3.4mで、平面形は隅丸方形を呈する。

[主軸方位] カマド基準でN-19°-Eである。

[堆積土・構築土] 17層を確認した。1～5層は住居廃絶後の堆積層で、1層は粘土質シルトブロックを多く含むシルトを主体とする堆積土、2～5層は住居内堆積土である。6～7層は焼土ブロックを主体とするカマド崩落土、8層は煙道崩落土である。9層は灰を多量に含むカマド内堆積土である。10層はカマド前で確認された炭化物・焼土を含む住居内堆積土である。11～12層はカマド袖構築土である。13層は周溝内堆積土である。14層はカマド掘り方の埋土、15層は煙道掘り方の埋土、16～17層は住居掘り方の埋土である。

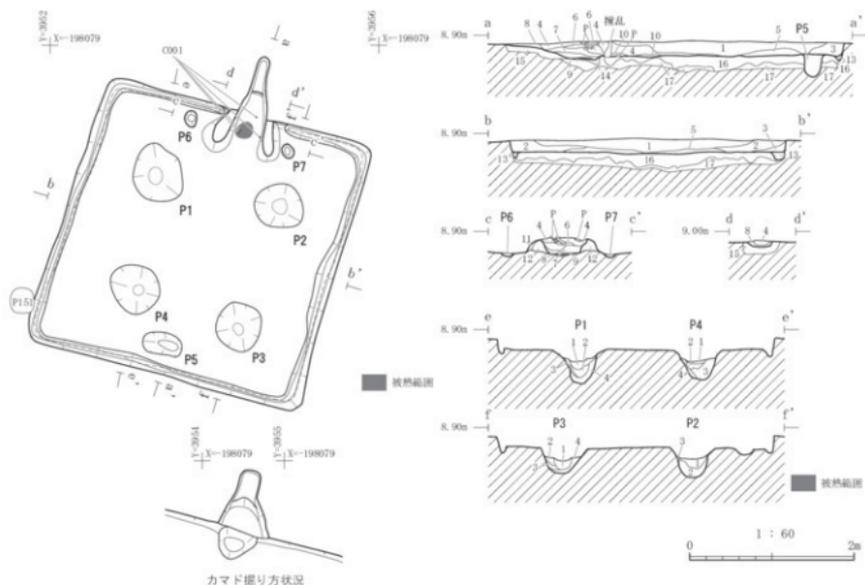
[壁面] やや外傾しながら立ち上がる。残存する壁高は、北壁で20cm前後、南壁で15cm前後、東壁で15cm前後、西壁で15cm前後である。

[周溝] カマドを除く全周で確認した。溝幅約10～20cm、深さ約5～10cmである。

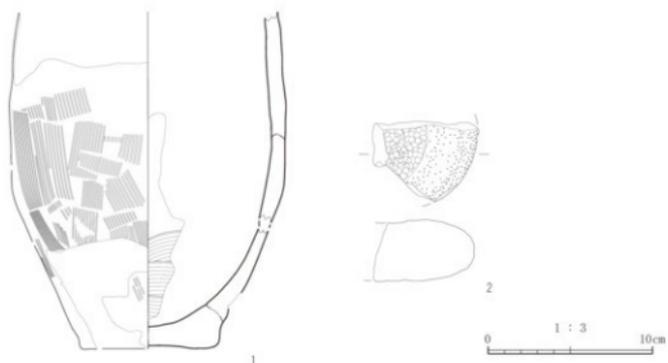
[カマド・煙道] 住居の北壁中央に位置する。残存する煙道は幅約40cm、長さ約60cmで、深さ約5～20cmである。住居内で燃焼部を確認し、カマド袖の残存範囲と火床面は著しく被熱している。両袖ともに焼土粒・炭化物が多く混入していることから、カマドの作り替えを行った可能性がある。カマドの掘り方形状は住居跡外へ半円状に広がっており、作り替え以前のカマドは住居外まで張り出す形状だったと推測される。



第6图 调查区全体图



第7図 S11 竪穴住居跡 平面図・断面図



図版番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	器種	部位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	外面調整	内面調整	備考
第8図 -1	C001	図版 22-1	カマド内厚様上	赤ロクロ土師器	釜	胴部～底部	—	(30.3)	(6.7)	胴部へラナゲ・ハンケメ	胴部下端へラナゲ	外面被熱
図版番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	器種	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	備考	
第8図 -2	A007	図版 22-2	1層	雑石器	石皿	菊灰石質 質(石皿)	(4.9)	(6.4)	3.71	(77.3)	被熱による変色顕著。	

第8図 S11 竪穴住居跡 出土遺物

層位	層位	土色	土性	備考	
S11	1	10181/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	10182/2(暗褐色)粘土質シルトブロックを多数、10181/2(黄褐色)シルト質粘土ブロックを少量、 $\phi 1.0\text{mm} \sim 3.0\text{mm}$ の炭化物粒を少量含む。埋戻し。
	2	10181/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	10182/3(暗褐色)粘土質シルトを少量、10181/2(黄褐色)シルト質粘土を多数含む。住居内埋戻し。
	3	10182/3	暗褐色	砂質シルト	10181/3(にじみ黄褐色)砂質シルトを多数、10181/4(褐色)シルト質粘土ブロックを少量、 $\phi 1.0\text{mm} \sim 3.0\text{mm}$ の炭化物粒を多数含む。住居内埋戻し。
	4	10181/3	にじみ黄褐色	シルト	10181/2(黄褐色)シルト質粘土を多数、10182/3(暗褐色)シルト質粘土+ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。住居内埋戻し。
	5	10181/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	10182/3(暗褐色)粘土質シルトを少量、10181/2(黄褐色)シルト質粘土を多数含む。住居内埋戻し。
	6	10181/4	暗赤褐色	粘土質シルト	地上ブロックを主体とする。カマド跡上。
	7	10181/3	暗褐色	シルト質粘土	10181/4(褐色)砂質シルト小ブロックを少量、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量、10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを多数含む。地上+炭化物粒をやや少量含む。カマド跡上。
	8	10181/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	10181/4(褐色)砂質シルト小ブロックを少量、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量、地上粒を多数、炭化物粒を少量含む。埋戻し跡上。
	9	10182/2	暗褐色	粘土質シルト	2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量、10181/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを多数、炭化物粒を少量含む。地上小ブロック、灰を多数含む。カマド内埋戻し。
	10	10181/3	にじみ黄褐色	シルト質砂	10182/3(暗褐色)砂ブロックを少量、炭化物粒を少量、地上小ブロックをやや少量含む。
	11	10182/4	暗褐色	砂質シルト	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒、地上粒を多数含む。カマド跡上。
	12	10181/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロック、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量、10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを多数、10181/4(褐色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。カマド跡上。
	13	10182/4	暗褐色	粘土質シルト	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを少量、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。埋戻し。
	14	10181/3	暗灰色	シルト質砂	10182/3(暗褐色)シルト質砂ブロックを多数、地上粒を多数、炭化物粒を多数含む。カマド跡上。
	15	10181/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを多数、10181/4(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒を少量含む。埋戻し跡上。
	16	10181/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロック、10181/4(褐色)砂質シルト小ブロックを少量、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを多数、炭化物粒を少量含む。住居跡上。
	17	10181/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを多数、炭化物粒を少量含む。住居跡上。
P1	1	10182/2	暗褐色	粘土質シルト	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。柱跡、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを多数、10181/4(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒を少量含む。柱跡。
	2	10181/4	褐色	粘土質シルト	10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。埋戻し。
	3	10181/4	褐色	シルト質砂	1015/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを多数、10181/4(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。埋戻し。
	4	10181/4	褐色	シルト質砂	1015/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを多数、10181/4(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。埋戻し。
P2	1	10182/3	暗褐色	粘土質シルト	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒、融け跡分粒を少量含む。柱跡。
	2	10181/4	褐色	粘土質シルト	2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを多数、10181/4(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。柱跡。
	3	10181/4	褐色	シルト質砂	10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを多数、1015/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを多数含む。埋戻し。
	4	10181/4	暗褐色	シルト質砂	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを少量、炭化物粒、融け跡分粒を少量含む。柱跡。
	5	10182/3	暗褐色	シルト質粘土	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを少量、炭化物粒を少量含む。埋戻し。
P3	1	10181/4	褐色	粘土質シルト	10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。埋戻し。
	2	10181/4	暗褐色	シルト質砂	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量含む。埋戻し。
	3	10182/3	暗褐色	シルト質粘土	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを少量、炭化物粒を少量含む。埋戻し。
P4	1	10181/4	褐色	シルト質砂	10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを少量含む。埋戻し。
	2	10181/4	暗褐色	粘土質シルト	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。埋戻し。
P5	1	10181/4	褐色	シルト質砂	10182/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土小ブロックを多数含む。埋戻し。
	2	10181/4	暗褐色	粘土質シルト	10181/4(褐色)砂質シルト小ブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量、炭化物粒を多数含む。
P6	1	10182/3	暗褐色	粘土質シルト	10181/4(褐色)砂質シルト小ブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを多数、炭化物粒を多数含む。
P7	1	10182/3	暗褐色	粘土質シルト	10181/4(褐色)砂質シルトブロックを多数、2.515/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。

第2表 S11 竪穴住居跡 土層記表

〔床面の施設〕床面はほぼ平坦で、カマド周辺の床面構築土は炭化物粒を少量含んでいる。床面でビットを7基(P1～7)確認した。P1～4は主柱穴に相当する。

P1は北西の主柱穴である。平面形は不整形円で、検出規模は長軸約65cm、短軸約63cm、深さ約40cmである。P2は北東の主柱穴である。平面形は不整形形で、検出規模は長軸約62cm、短軸約56cm、深さ約32cmである。P3は南東の主柱穴で、検出規模は直径約56cm、深さ約33cmである。P4は南西の主柱穴で、検出規模は長軸約64cm、短軸約60cm、深さ約35cmである。いずれの主柱穴も柱痕を確認できず、上端がやや開いた逆台形状を呈する断面形と柱穴内の堆積土の状況から、柱の抜き取りが行われた可能性が考えられる。

P5は南壁沿い中央付近で確認され、その平面位置から出入口施設に関連する可能性が考えられる。平面形は東西に長い不整形円で、検出規模は長軸約48cm、短軸26cm、深さ約30cmである。P6・7はカマドの両側脇に位置する。平面形は不整形形で、検出規模は直径15cm前後の小ビットである。埋土には炭化物や焼土が多量に混入していることから、カマドに関わる施設であった可能性も考えられる。

〔掘り方〕平坦だが、中央がやや低くなる形状を持つ。埋土はⅧ層およびIX層に類似する。

〔出土遺物〕出土数は多くなく、カマド付近の7層～10層でまとまって出土している。土師器は裏破片が最も多い。非クロコ土師器の破片も少量出土しており、内面黒色処理されたものとされないものが出土している。Ⅷ層

から混入したと思われる縄文土器破片、礫石器、被熱した自然礫等も出土している。図化し得た遺物は住居内堆積土の5層からカマド崩落土である6層にかけて出土した非ロクロ土器器裏と、1層から出土した石皿片で、第8図に図示した。第8図-1は土器器裏胴部から底部である。外面は縦径ハケメ、内面は横径のヘラナデ調整が施され、外面は被熱している。第8図-2は比較的扁平な自然礫を素材とする不整形石皿の破片で、上下左半部を大きく欠損する。本来は、中央部がやや窪んだ素材形状を活かし、そこを主な使用面として敲打痕が顕著に累積していたと考えられる。凝灰岩質安山岩を素材とし、全体的に被熱の影響で変色している。

#### S12 竪穴住居跡 (第9図、図版9)

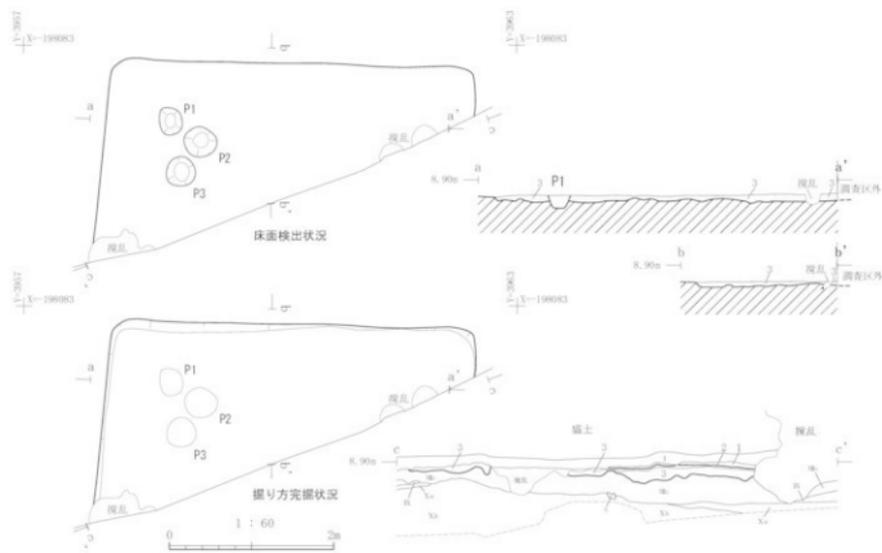
[位置] 調査区中央南側 D6～D7 で竪穴住居跡全体の約1/2を検出した。この周辺はⅧ層確認面の中で最も標高値の高い範囲であるため、水田耕作により遺構の上部は大きく削平されている。このため調査区南壁断面の一部で竪穴住居跡の床面と思われる堆積層を確認したのみで、平面での確認は掘り方にとどまった。

[重複関係] 他遺構との重複はない。

[規模・形態] 東西約4.5m、南北約2.4m以上で、遺構の南半部は調査区外へ延びる。

[主軸方位] 北壁基準でN-88°-Wである。

[堆積土・構築土] 3層を確認した。1層～2層は調査区南壁断面で確認され、平面では確認されていない。1層は住居内堆積土と考えられる。2層は層厚3～5cmの水平堆積で、床面構築土と考えられる。3層はⅧa層に類似するシルトで、住居掘り方の埋土と考えられる。



遺構	層位	土色	土性	備考
S12	1	109K/1 暗褐色	粘土質シルト	2. 915/21 (暗灰褐色) 粘土質シルトブロックを多量、109K/11 (褐色) 砂質シルトブロックを少量含む。床土堆積上。
	2	109K/2 濃い黄褐色	粘土質シルト	109K/2/41 (暗褐色) シルト質粘土ブロックを多量、315/2 (暗灰褐色) シルト質粘土ブロックを少量含む。掘り方。
	3	109K/3 濃い黄褐色	シルト	109K/3/1 (暗褐色) シルト質粘土ブロックをやや多量、109K/3/11 (暗褐色) 粘土質シルトブロックを少量含む。掘り方。
S13	P1	109K/1/2 濃い黄褐色	粘土質シルト	2. 915/21 (暗灰褐色) シルト質粘土ブロックを少量、109K/3/11 (暗褐色) シルト質粘土ブロックを少量含む。
	P2	109K/1/4 褐色	粘土質シルト	109K/2/1 (黄褐色) シルトブロックを少量、109K/2/11 (灰黄褐色) 砂ブロックを微量、同化微分粒を少量含む。
	P3	109K/3/4 暗褐色	粘土質シルト	109K/3/2 (灰黄褐色) 砂ブロックを少量、109K/3/21 (黄褐色) ブロックを微量含む。

第9図 S12 竪穴住居跡 平面図・断面図

〔壁面〕残存範囲からは立ち上がり形状は判然としなない。

〔周溝〕残存しなない。

〔カマド・煙道〕カマド本体は不明である。竪穴住居跡の北壁寄り3層上面では焼土ブロックを多量に含む範囲を確認しており、カマド等の施設が位置していた可能性が考えられるが、煙道・煙出しのピットともに確認されておらず判然としなない。

〔床面の施設〕竪穴住居跡北西の下面でピット（P1～3）を確認した。P1～3は近接しており、平面形はP1はやや隅丸方形に近い形状、P2・3は不整円形を呈する。P1は長軸約34cm、短軸約27cm、深さ約20cmである。P2は長軸約39cm、短軸約36cm、深さ約60cmである。P3は直径約35cm、深さ約40cmである。いずれのピットも規模から柱穴の可能性が考えられるが、対応する東側の柱穴を確認できず、また柱痕跡も確認できなかったため詳細は不明である。

〔掘り方〕やや細かい起伏はあるが概ね平坦である。調査区南壁の断面観察では、掘り方底面からおよそ15～20cm埋戻した後（3層）、貼り床として床面（2層）を構築したと推測される。竪穴住居跡の中央部で掘り方がやや高まる形状を呈すると考えられる。埋土はⅦ層およびⅨ層に類似する。

〔出土遺物〕出土量は少ないが、土師器甕の破片、内面黒色処理された非クロロ土師器杯の破片、土師器高坏脚部と思われる破片等が出土している。いずれも小破片である。

#### S13 竪穴住居跡（第10・11図、第3表、図版9・10）

〔位置〕調査区中央南側D6～D7で検出した。

〔重複関係〕P230・234・237・238より古い。

〔規模・形態〕東西約3.8m、南北は約3.3mで、平面形は隅丸方形を呈する

〔主軸方位〕カマド基準でN-2°-Wである。

〔堆積土・構築土〕21層を確認した。1～2層は粘土質シルトを主体とする埋土、3層は住居廃絶後の壁際の崩落土と考えられる。4～9層はブロック状の焼土・炭化物等を含むカマド内崩落土、10層は灰を多く含んでいる事からカマド廃絶時の堆積土と考えられる。11層は焼土・炭化物等を含む煙道崩落土である。12層は焼土粒・炭化物粒を若干含む住居廃絶時の堆積土、13層は周溝内堆積土である。14～16層はシルトを主体とするカマド袖構築土、17層は床面構築土である。18～21層は砂質シルトを主体とする掘り方の埋土である。

〔壁面〕やや外傾しながら立ち上がる。残存する壁高は、北壁で25cm前後、南壁で20cm前後、東壁で20cm前後、西壁で25cm前後である。

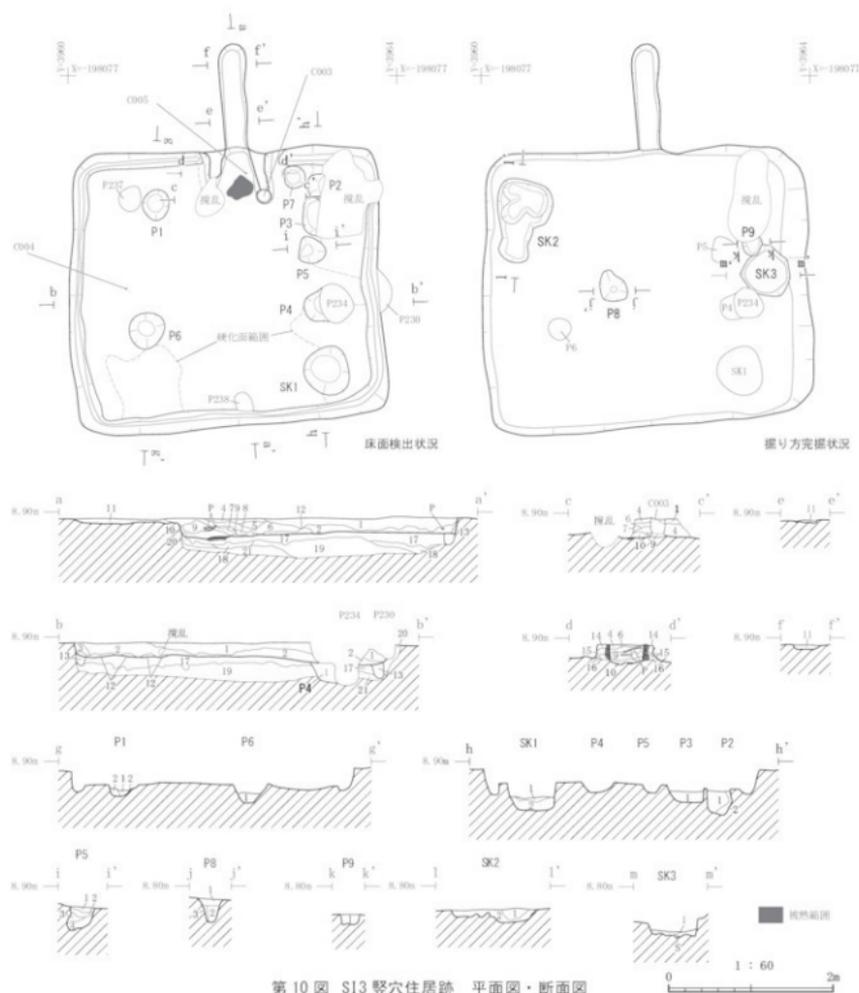
〔周溝〕カマドを除く全周で確認した。溝幅約10～20cm、深さ約5～10cmである。

〔カマド・煙道〕住居の北壁中央に位置しており、住居内で燃焼部を確認した。カマド袖の残存範囲と火床面は著しく被熱している。東側袖焚き口付近には、芯材として土師器長胴甕を逆位で使用している。甕の焚口内部に面する部分は二次焼成を受けており、露呈していた可能性がある。西袖の焚口部分は攪乱されている。残存する袖構築土の上位層は焼土粒・炭化物粒等を含むが下位層は混入物が少ないことから、上部構造の修復等の可能性がある。煙道は残存長約1.2m、幅約30～35cmを確認したが、深さは5cm未満と残存状況が悪く、詳細は不明である。

〔床面の施設〕床面はほぼ平坦で全体的に硬化した状況が見られ、カマド前面から竪穴住居跡中央は特にその傾向が強い。床面の構築土は焼土粒・炭化物粒等を少量含んでいることから、床面の貼り直し等が行われた可能性が考えられるが、断面観察では判然としなかつた。床面施設はピット（P1～7）、土坑（SK1）を確認した。この内P1・2・4・6は主柱穴の可能性が強い。

P1は竪穴住居跡北西に位置する。平面形は不整円形で、検出規模は長軸約40cm、短軸約33cm、深さ約20cmである。堆積状況と位置から北西の主柱穴と考えられる。遺物は出土していない。P2およびP3は竪穴住居跡北東に位置し、

東側を大きく攪乱される。平面形はP2が不整形形、P3は楕円形で、P2は長軸約30cm、短軸20cm以上、深さ約40cm、P3は長軸約35cm、短軸17cm以上、深さ約15cmである。P2は堆積状況と位置から、北東の主柱穴の可能性ある。両ビットから遺物は出土していない。P4は竪穴住居跡南東に位置し、東側1/2程度をP234に攪乱される。平面形は不整形形で、検出規模は長軸約40cm、短軸約20cm、深さ約12cmである。位置と規模から南東の主柱穴の可能性ある。遺物は出土していない。P5は竪穴住居跡北東に位置する。平面形は不整形形で、検出規模は直径約45cm、深さ約30cmである。埋土には焼土・炭化物を多量に含んでいることから、カマドに関連する施設の可能性も考え



第10図 S13 竪穴住居跡 平面図・断面図

遺構	層位	土色	土性	備考	
S13	1	109R/3	12.01(黄褐色)	粘土質シルトブロックを多量、109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物、焼土ブロックを少量、白色粒を少量含む。住居跡上。	
	2	109R/2	12.01(黄褐色)	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを多量、109R/1(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。住居跡上。	
	3	109R/2	暗褐色	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。住居跡跡上。	
	4	109R/2	暗褐色	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物ブロック、焼土ブロックを多量含む。カマド跡跡上。	
	5	109R/2	暗褐色	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、カマド跡跡上。	
	6	109R/2	暗褐色	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物、焼土ブロックを少量含む。カマド跡跡上。	
	7	109R/2	暗褐色	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物、焼土ブロックを少量含む。カマド跡跡上。	
	8	109R/2	暗褐色	シルト	109R/4(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物ブロックを多量含む。カマド跡跡上。
	9	109R/2	12.01(黄褐色)	シルト	炭化物ブロックを多量、焼土ブロックを多量含む。カマド跡跡上。
	10	109R/2	茶褐色	シルト質粘土	炭化物ブロックを多量、焼土ブロックを多量含む炭、カマド内側上。
	11	109R/2	茶褐色	粘土質シルト	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを多量、焼土、炭、炭化物、白色粒を少量含む。住居内埋土。
	12	109R/4	褐色	砂質シルト	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、焼土、炭、炭化物、白色粒を少量含む。住居内埋土。
	13	109R/3	12.01(黄褐色)	粘土質シルト	109R/2(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量、砂を少量含む。河原。
	14	109R/3	12.01(黄褐色)	シルト	109R/4(褐色砂質シルト)ブロックを少量、炭化物、焼土ブロックを多量含む。カマド跡跡上。
	15	109R/4	褐色	シルト	109R/3(12.01(黄褐色)シルト)ブロックを少量含む。カマド跡跡上。
	16	109R/4	褐色	シルト	109R/3(12.01(黄褐色)シルト)ブロックを多量含む。カマド跡跡上。
	17	109R/3	茶褐色	砂質土	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。河原跡上。
	P1	1	109R/2	12.01(黄褐色)	シルト
2		109R/2	12.01(黄褐色)	砂質土	
3		109R/2	12.01(黄褐色)	砂質シルト	
4		109R/2	12.01(黄褐色)	砂質シルト	
5		109R/2	12.01(黄褐色)	砂質シルト	
6		109R/2	12.01(黄褐色)	砂質シルト	
7		109R/2	12.01(黄褐色)	粘土質シルト	
8		109R/2	12.01(黄褐色)	粘土質シルト	
9		109R/2	12.01(黄褐色)	粘土質シルト	
10		109R/2	12.01(黄褐色)	粘土質シルト	
P2	1	109R/2	12.01(黄褐色)	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを多量、109R/1(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物、焼土粒を多量含む。住居跡上。	
	2	109R/2	暗褐色	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物、焼土ブロックを多量含む。	
	3	109R/2	暗褐色	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物、焼土粒を多量含む。住居跡上。	
	4	109R/2	暗褐色	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物、焼土粒を多量含む。住居跡上。	
P3	1	109R/3	暗褐色	109R/4(褐色)シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物を少量、焼土ブロックを多量含む。	
	2	109R/2	12.01(黄褐色)	109R/4(褐色)砂ブロックを少量、ワゴン跡を少量含む。	
	3	109R/2	暗褐色	109R/4(褐色)シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物を少量、焼土ブロックを多量含む。	
	4	109R/1	12.01(黄褐色)	109R/4(褐色)シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物を少量、焼土ブロックを多量含む。	
S13	1	109R/4	褐色	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。	
	2	109R/4	茶褐色	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物、焼土ブロックを多量含む。	
	3	109R/4	12.01(黄褐色)	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物、焼土ブロックを少量含む。	
	4	109R/3	褐色	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、109R/4(褐色)砂質シルトブロックを少量含む。焼土跡跡上、炭化。	
P6	1	109R/4	褐色	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。	
	2	109R/4	茶褐色	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物、焼土ブロックを多量含む。	
P8	1	109R/2	12.01(黄褐色)	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。	
	2	109R/2	12.01(黄褐色)	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。	
P9	1	109R/3	12.01(黄褐色)	109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、109R/4(褐色)砂質シルトブロックを少量含む。焼土跡跡上、炭化。	
	2	109R/2	12.01(黄褐色)	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物、焼土粒を少量含む。	
SK1	1	109R/3	暗褐色	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物、焼土ブロックを多量含む。	
	2	109R/3	12.01(黄褐色)	109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、109R/2(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。	
SK2	1	109R/3	暗褐色	109R/4(褐色)砂ブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。	
	2	109R/3	暗褐色	109R/4(褐色)砂質シルトブロックを少量、109R/3(12.01(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物、焼土粒を少量含む。	

第3表 S13 竪穴住居跡 土層記表

られる。遺物は出土していない。P6は竪穴住居跡南西に位置する。平面形は不整形円で、検出規模は直径45cm、深さ約25cmである。位置と規模から南西の主柱穴と考えられる。P7はカマドの東に近接する。平面形は不整形円で、検出規模は直径約25cm、深さ約7cmである。掘り込みは他のピットに比べ浅い。埋土に焼土・炭化物を多量に含む。その平面位置からもカマドに関連する施設の可能性があると考えられる。SK1は竪穴住居跡南東に位置する。平面形は不整形円で、検出規模は長軸67cm、短軸45cm、深さ約35cmである。埋土に焼土・炭化物を多量に含む。土師器細片が少量出土している。

[床下の施設]17層は掘り方の最上層で床面構築土である。この層の掘り下げ中の床面下位から、ピット(P8・9)、土坑(SK2・3)を検出した。各遺構の掘り込み面が不明瞭であったため、これらの遺構も本来は床面の施設であった可能性を否定できないが、ここでは調査時の所見に従って床下の施設として報告するものである。

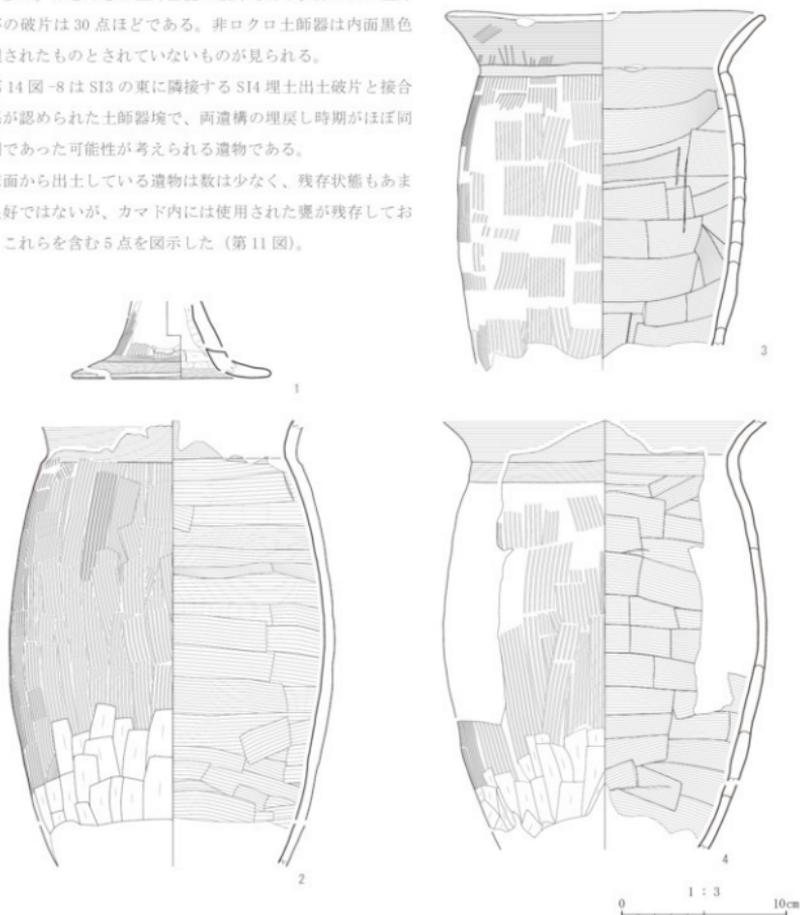
P8は堆積状況から柱穴と考えられるが、床面構築土に類似する土で埋め戻されており、住居使用時には機能していなかった可能性が考えられる。平面形は不整形形で検出規模は長軸約35cm、短軸約30cm、深さ約30cmである。P9は北側を攪乱され、平面形や規模の詳細は不明である。直径約25cm前後、深さは10cm程で焼土を多量に含む。SK2は竪穴住居跡北西に位置する。平面形は不整形で、長軸約1m、短軸約65cm、深さ約5～15cmである。底面は起伏する。

〔掘り方〕掘り方はやや中央が深い形状を呈する。住居壁沿いでは床からの深さ約15～20cmで、住居中央部では約30cmである。埋土はⅧ層およびⅨ層に類似する。

〔出土遺物〕遺物は破片数で約160点ほどが出土しており、堆積土である1層および2層から出土しているものが最も多い。ほとんどが土師器甕の破片であり、非ロクロ土師器杯の破片は30点ほどである。非ロクロ土師器は内面黒色処理されたものとされていないものが見られる。

第14図-8はS13の東に隣接するS14埋土出土破片と接合関係が認められた土師器境で、両遺構の埋戻し時期がほぼ同時期であった可能性が考えられる遺物である。

床面から出土している遺物は数は少なく、残存状態もあまり良好ではないが、カマド内には使用された甕が残存しており、これらを含む5点を図示した(第11図)。



図版番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	器種	部位	口径 cm	器高 cm	直径 cm	外面調整	内面調整	備考
第11図 -1	C002	図版 22-3	S13/1層	土師器	高杯	脚部	-	(4.7)	11.4	胴部縦位ハケメ、脚部縦位ヘラナデ	胴部縦位ヘラナデ、脚部縦位ヘラナデ	スラン型状不明
第11図 -2	C004	図版 22-5	S13/堆積土	土師器	甕	胴部～脚部	-	(27.3)	-	胴部ヨコナデ、脚部ハケメ	胴部上位ヨコナデか、横位ヘラナデ	
第11図 -3	C003	図版 22-4	S13/カマド跡	土師器	甕	口縁部～胴部	19.5	(22.0)	-	口縁部ハケメ・ヘラナデ・ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	
第11図 -4	C005	図版 22-6	S13/カマド跡堆積土	土師器	甕	胴部～脚部	-	(26.0)	-	胴部ヨコナデ、胴上部ハケメ、脚下部ケズリ	胴部ヨコナデ、脚部ヘラナデ	

第11図 S13 竪穴住居跡 出土遺物

第11図-1は1層から出土した高坏の脚部破片である。三方に透かしを持ち、裾部は強く屈曲する。外面は胴部を縦位ハケ調整、裾部をヨコナデ調整される。内面には横位から斜位のケズリ調整が施されている。

第11図-2～4は土師器甕である。3はカマド袖の芯材として使用されていた。2は堆積土から出土し、4はカマド崩落土である6層と9層から出土した。いずれも頸部と胴部の境に段を有しており、凹部外面は縦位ハケ調整の後、胴部下位を縦位ヘラケズリで調整する。内面は概ね横位のヘラナデ調整が施され、頸部から口縁部にかけて内外面ともにヨコナデ調整される。外面はいずれも被熱している。

#### S14 竪穴住居跡 (第12～14図、第4表、図版11)

[位置] 調査区中央南側D6～D7で検出した。

[重複関係] SK35、小溝VII群より古い。

[規模・形態] 東西約4.8m、南北は2.7m以上で遺構の南半程度は調査区外へ広がる。平面形は隅丸方形を呈する。

[主軸方位] カマド基準でN-2°-Wである。

[堆積土・構築土] 15層を確認した。1～4層は粘土質シルトを主体とする埋土、5層はカマド崩落土、6層及び7層は灰を多量に含むカマド内堆積土、8層はカマド袖構築土である。9層は煙道崩落土で煙道壁が崩落したと思われる大型の焼土ブロックを含む。10層は煙道内の堆積土で炭化物や焼土を少量含む。11層は周溝から壁面にかけて堆積しており、壁面の土止め板等の痕跡と考えられる。12層は床面構築土で、13～16層は掘り方である。

[壁面] やや外傾しながら立ち上がる。残存する壁高は、北壁で30cm前後、調査区南壁で30～35cm、東壁で35cm前後、西壁で35cm前後である。

[周溝] カマドを除く残存範囲で確認した。溝幅約10～20cm、深さ約5～10cmである。

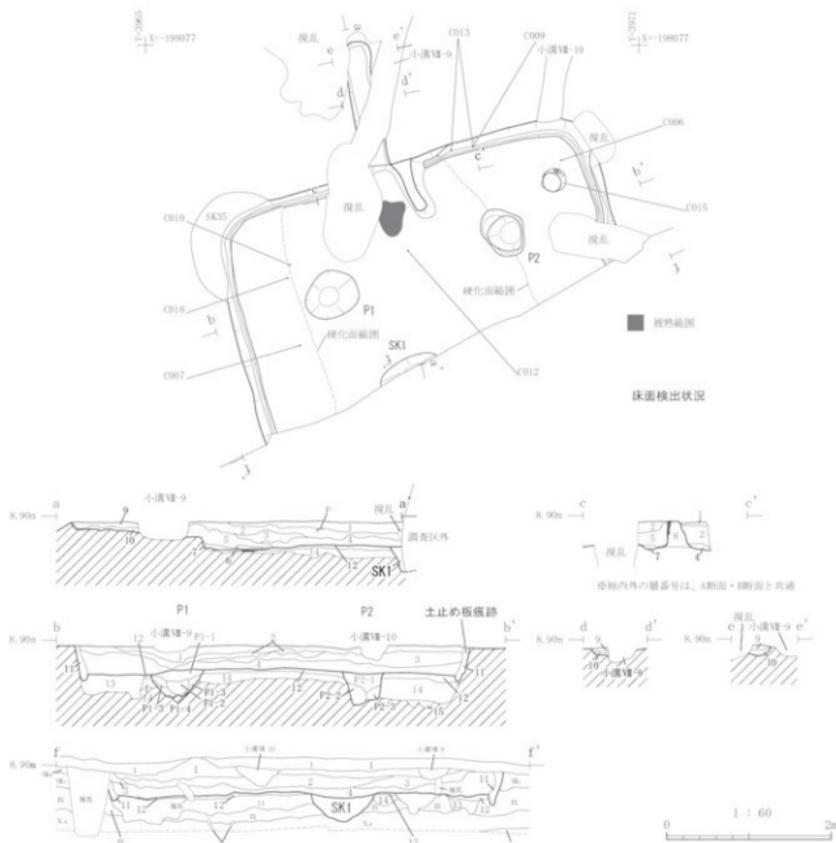
[カマド・煙道] 住居の北壁中央に位置する。住居内で燃焼部を確認した。カマド袖の残存範囲と火床面は著しく被熱している。西袖の全てと煙道の一部は攪乱および後続する遺構によりにより失われ、検出した煙道は幅約30cm、長さ約1.5m、深さ10cm前後である。煙出しのピットは確認されていない。

[床面の施設] 床面はほぼ平坦で、12層を床面構築土として確認している。上面は特にカマド付近から竪穴住居跡中心部にかけて硬化しているが、住居西側の床面で掘り方埋土13層との境が直線状のプランとして確認できることから、西側では床構築後に再度掘り戻しを行っている可能性がある。床面施設は(ピットP1・2)、土坑(SK1)を確認した。P1・2は主柱穴の可能性があり、P1は竪穴住居跡北西に位置する。平面形は不整形円で、検出規模は長軸約65cm、短軸約60cm、深さ約30cmである。遺物は出土していない。P2は竪穴住居跡北東に位置する。平面形は不整形円で、検出規模は長軸約65cm、短軸約50cm、深さ約35cmである。遺物は出土していない。P1、P2ともに抜き取りの痕跡がある。SK1は竪穴住居跡の中央に位置し、南側は調査区外へ延びる。平面形は不整形円と考えられる。残存規模は南北約15cm、東西約80cmである。埋土に焼土・炭化物を多量に含む。

[床下の施設] 床面12層の掘り下げ後、ピット(P3～6)と土坑(SK2)を確認した。P3・6は住居跡の北西隅に位置する。平面形状は不整形円形とともに深さ15cm前後と浅く、その性格は不明である。P4は平面形がほぼ円形で直径約50cm、深さ約15cmである。P5はP1に隣接する。平面形状はほぼ円形で直径約40cm、深さ60cmで、堆積土から柱穴と考えられる。SK2の平面形状は長軸約60cm、短軸約50cmのやや歪な方形を呈する。深さ30cm前後で南東隅をP2で切られている。遺構の性格は不明である。

[掘り方] 掘り方はやや中央が高い形状を呈する。断面観察から、13層は床面構築土である12層や掘り方の14層より新しい埋土と考えられる。13層の範囲は住居の西側に限定されており、長方形を呈す状況を確認したが、壁や底面は明瞭に確認できなかった。

[出土遺物] 遺物は破片数で約200点ほどが出土しており、埋土である1～4層から出土しているものが多い。土師器甕の破片が最も多く、非黒ロ土師器杯の破片もやや多く出土している。非黒ロ土師器杯は内面黒色処理さ



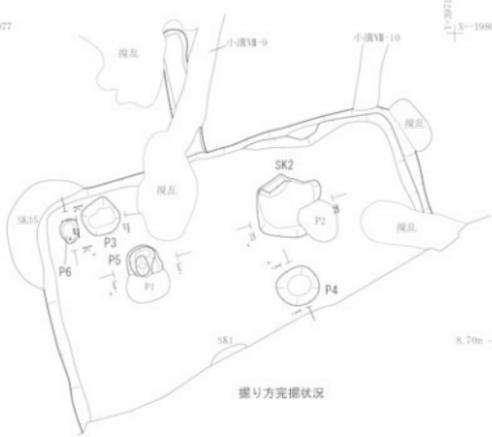
第12図 S14 竪穴住居跡 平面図・断面図(1)

れたものとされていないものが、ほぼ同量出土している。床面では破片数で約80点ほどが出土しており、土師器甕、非ロクロ土師器環、高環の脚部が出土している。またカマド内堆積土の7層から非ロクロ土師器が出土している。カマド前ではほぼ完形の状態です師器環(C012)が出土し、住居北東隅には埋設された土師器甕(C015)が出土している。これらの遺物から13点を図示した(第14図)。

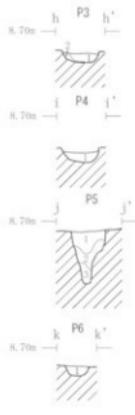
第14図-1～3は埋土中から出土した高環である。第14図-1・2はともに高環の脚部片で、環部を欠損する。三方に透かしを持ち、裾部は強く屈曲する。2はやや器壁が厚い。外面は胴部を縦にハケ調整、裾部をヨコナデ調整される。内面は横位から斜位のケズリ調整される。第14図-3は高環の環部で脚部を欠損する。外面は胴部下位をヘラケズリ調整、口縁部から胴部はヨコナデ調整される。内面はミガキ調整される。

第14図-4～7は土師器環である。いずれも外面は胴部下位をヘラケズリ調整、口縁部から胴部はヨコナデ調整される。内面はミガキ調整される。第14図-8はやや大形の碗でSK13出土の破片と接合したものである。内外ともに摩耗が著しく調整痕は明瞭に観察し得ないが、ヘラナデ調整で仕上げられたものと思われる。第14図-9は小

13-3015  
13-198077



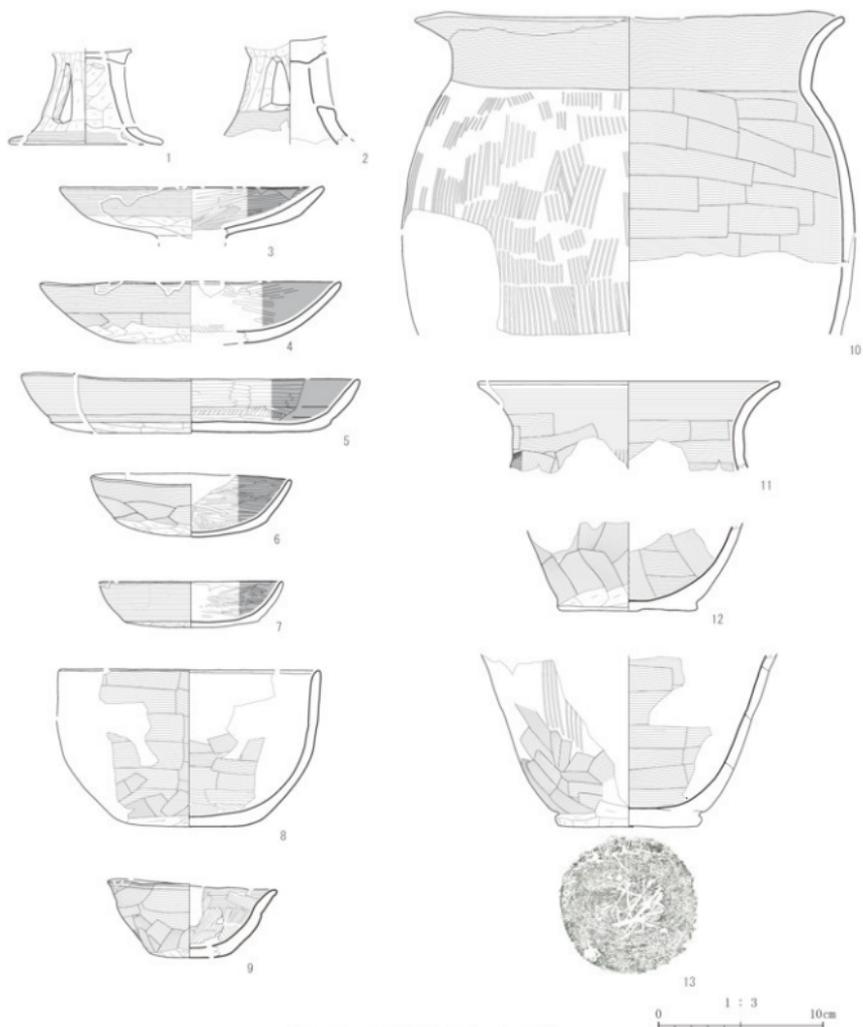
13-3015  
13-198077



遺構	層位	土色	土性	備考		
S14	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)シルトブロックを多量、10YR4/2(灰黄褐色)粘土質シルトブロックを多量、10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量、炭化物・焼土粒ブロックを多量含む。埋土。	
	2	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	シルト	10YR4/1(褐色)粘土質シルトブロックを多量、10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。埋土。	
	3	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)粘土質シルト小ブロックを多量、10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量、炭化物・焼土粒を少量含む。埋土。	
	4	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量、10YR4/1(褐色)砂質シルトブロックを少量、炭化物を少量、焼土粒を微量含む。埋土。	
	5	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3(暗褐色)粘土質シルト小ブロックを少量、埋土粒(焼土)ブロックを多量含む。カマド内層部。	
	6	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(黒褐色)シルト質粘土ブロックを多量、炭化物粒・焼土ブロック・灰を多量含む。カマド内層部。	
	7	10YR3/2	黒褐色	シルト質粘土	炭化物・焼土粒・ブロックを多量含む。カマド内層部。	
	8	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	シルト	10YR4/1(褐色)砂質シルトブロックを少量、炭化物粒・焼土粒を微量含む。カマド内層部。	
	9	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	5YR4/6(赤褐色)シルトブロックを多量、10YR2/2(灰褐色)シルトブロックを多量、10YR4/1(褐色)シルトブロックを少量含む。焼土ブロックを多量、炭化物を少量含む。埋土部。	
	10	10YR4/4	褐色	シルト	5YR4/6(赤褐色)シルトブロックを少量、5YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物粒・焼土粒・酸化鉄を微量含む。埋土内層部。	
	11	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)粘土質シルトブロックを多量、10YR1/2(12.5Y-黄褐色)シルトブロックを多量含む。住居壁面の土まめ板敷跡と考えられる。	
	12	10YR4/4	褐色	シルト	10YR1/2(12.5Y-黄褐色)シルトブロックを多量、10YR3/2(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。炭化物・焼土ブロック・酸化鉄粒を少量含む。埋土部。	
13	10YR4/4	暗褐色	シルト	10YR4/1(褐色)シルト-砂質シルトブロックを多量、10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。住居壁面あり。		
14	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)シルトブロックを多量、10YR2/2(灰褐色)粘土質シルトブロックを多量、10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。炭化物・焼土粒・焼土粒を少量含む。住居壁面あり。		
15	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3(暗褐色)シルト質粘土(砂)ブロックを微量、10YR4/1(褐色)粘土質シルトブロックを微量含む。住居壁面あり。		
16	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3(暗褐色)シルト質粘土(砂)ブロックを微量、10YR4/1(褐色)粘土質シルトブロックを微量含む。住居壁面あり。		
P1	1	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。埋土。	
	2	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。埋土。	
	3	10YR4/4	褐色	シルト	10YR4/2(12.5Y-黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。	
	4	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	シルト質砂	10YR4/2(12.5Y-黄褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。	
	P2	1	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。後敷あり。
		2	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、炭化物・焼土ブロックを少量含む。柱間。
		3	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	シルト質粘土	10YR4/1(褐色)砂質シルトを少量含む。
	P3	1	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量、10YR4/1(褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物・焼土ブロックを少量含む。
		2	10YR4/4	褐色	シルト	10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物・焼土ブロックを少量含む。
		3	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、炭化物粒・焼土ブロックを多量含む。
	P4	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)粘土質シルトブロックを多量、炭化物粒・焼土ブロックを多量含む。
		2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR4/2(12.5Y-黄褐色)焼砂粒との互層部を定する。10YR4/1(褐色)粘土質シルトを多量含む。
P5	1	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。柱間。	
	2	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	粘土質シルト	10YR3/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量、10YR4/1(褐色)シルトブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒を微量含む。	
SK2	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)粘土質シルトブロックを少量、炭化物・焼土ブロックを多量含む。	
	2	10YR3/2	褐色	シルト質砂	10YR4/2(12.5Y-黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、10YR4/1(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。	
	3	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	シルト	10YR4/2(12.5Y-黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、10YR4/1(褐色)シルトブロックを微量含む。	
4	10YR3/2	12.5Y-黄褐色	シルト質砂	10YR4/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、焼土粒を少量含む。		
5	10YR4/2	12.5Y-黄褐色	砂質シルト	10YR4/2(12.5Y-黄褐色)シルト質砂を多量含む。		

第13図 S14 竪穴住居跡 平面図・断面図(2)

型の鉢である。口縁部と胸部の境に段を有す。口縁部はヨコナデ調整が端部に付ける様子が確認できる。内面はミガキ調整される。第14図-10～13は土師器甕である。第14図-10は胸部がやや膨らむ形状を持ち、外面は口縁部をヨコナデ調整し、胸部はハケメ調整される。第14図-11は土師器甕の口縁部のみが残存する。後底部をヨコナデ調整される。第14図-12・13は底部を有する。胸部は底部付近をケズリ調整される。



第14図 S14 竪穴住居跡 出土遺物

図版番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	部種	部位	口径 cm	跡高 cm	底径 cm	外面調整	内面調整	備考
第14図 -1	C006	図版 23-1	S14/ 住居層上	土師器	高杯	脚部 (口ノ程度)	—	5.9	9.2	脚下部をユビオサナ後へ調整 ケズリ。脚部コソナダ	脚部ケズリ、杯との結合付近は 2段へ傾位ケズリ。脚部コソ ナダ	
第14図 -2	C007	図版 23-2	S14/ 住居層上	土師器	高杯	脚部	—	(6.6)	9.0	脚部にコソナダか、脚部に 傾位ヘラケズリか。	傾位ヘラケズリか。	摩耗顯著
第14図 -3	C008	図版 23-3	S14/ 床面高上	井ノコロ 土師器	高杯	杯部 (1/2程度)	(16.4)	(3.2)	—	ヘラナダ、ヘラケズリ	着色処理、ヒガキ	脚部欠損
第14図 -4	C009	図版 23-4	S14/ 埴輪上	土師器	杯	口縁部～底部	(18.0)	3.75	9.0	口縁部コソナダ、脚部～脚上 平ヘラナダ後ヘケメ。脚部上 端ヘラナダ。脚部下端～底部 ヘラケズリ	着色処理、ヒガキ	
第14図 -5	C010	図版 23-5	S14/ 住居層上	土師器	杯	口縁部～底部 (口縁1/4程度)	(20.6)	2.7	16.5 17.0	口縁部～脚部コソナダ後に底 部ケズリ。底部ヘラケズリ	着色処理、ヒガキ	
第14図 -6	C013	図版 23-6	S14/ 2層位	土師器	杯	注ぎ足形	12.2	3.8	8.0	脚部コソナダ、底部ヘラケズ リ	着色処理、ヒガキ	
第14図 -7	C014	図版 23-7	S14/ 埴輪上・床成	土師器	杯	口縁部～底部	(11.2)	2.8	(8.25)	口縁部～底部コソナダ後ヘラ ケズリ	着色処理、ヒガキ	摩耗顯著
第14図 -8	C011	図版 23-8	S13・S14/ 埴輪上	土師器	埴	口縁部～底部 (口縁1/4程度)	(16.0)	9.6	9.0	脚部傾位ヘラナダ、底部ケズ リ。底部1/4平直	脚部ヘラナダ、底部ヘラナダ (口ノヒガキ)	摩耗顯著
第14図 -9	C012	図版 23-9	S14/ 床土成上	土師器	小杯	口縁部～底部	10.3	4.8	5.0	口縁部～脚部ヘラナダ後ナダ、 底部ヘラケズリ	口縁部～脚部ヘラナダ後ヘラ ヒガキ	
第14図 -10	C015	図版 23-10	S14/ 床面高上	土師器	奘	口縁部～脚部	(26.1)	(19.8)	—	口縁部コソナダ、脚部ヘケ メ	口縁部コソナダ、脚部ヘラナ ダ	
第14図 -11	C016	図版 23-11	S14/ 住居層上	土師器	奘	口縁部 (1/4程度)	(18.25)	—	—	口縁部コソナダ、脚部～脚上 平ヘラナダ後ヘケメ	口縁部コソナダ、脚部～脚上 平ヘラナダ	
第14図 -12	C017	図版 23-12	S14/ 住居層上	土師器	奘	脚部～底部	—	(5.4)	8.5	脚立ち上がり傾位、底部ヘラ ナダ後ケズリ。底部1/4平直	ヘラナダ	
第14図 -13	C018	図版 23-13	S14/ 住居層上	土師器	奘	脚部～底部	—	(10.6)	8.5	脚下部ヘケメヘラナダ、底 部ケズリ	ヘラナダ	

第4表 S14 竪穴住居跡 遺物観察表

## 2. 掘立柱建物跡

確認面としたV層およびVI層上面では400基近くのピット・小柱穴を確認した。これらのピット・小柱穴は、規模約20～30cmで平面形は円形ないしは不整形円形を呈するものが大半を占めている。

その中で、規模が約50～60cmで平面形が隅丸方形を呈し、深さ約40～60cmを測るものが複数基のまとまりを持って確認される一群や、他とはやや異なった特徴を持つ柱穴として認識される一群が検出された。これらの平面的なまとまりを検討したところ、今次調査の調査区内では5棟の掘立柱建物跡が復元されるものと考えられる。以下、各建物跡について個別に記載するが、建物跡を構成する各柱穴の規模は遺構計測表に示す。

### SB1 掘立柱建物跡 (第15図、第5表、図版12)

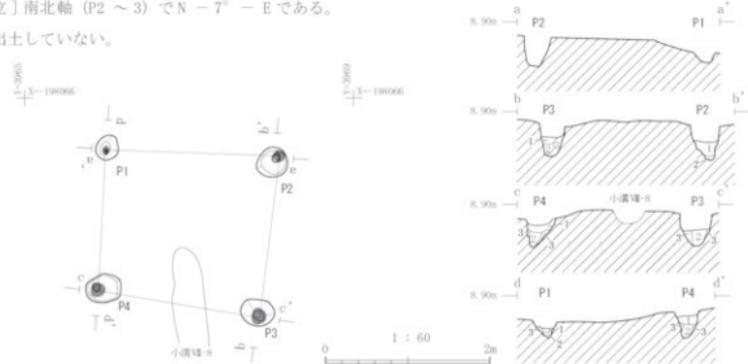
[位置] P7で検出した。

[重複関係] 小溝状遺構VII群と重複関係にあるが桁行間での重複のため、新旧は不明である。

[規模・形態] 東西1間×南北1間の建物跡で、4基の柱穴により構成される。柱穴間の距離は、P1～2間が2.1m、P2～3間が2.0m、P3～4間が2.0m、P1～4間が1.7mである。各柱穴の規模は遺構計測表に記載した。柱穴の平面形状は不整形円形である。

[主軸方位] 南北軸 (P2～3) でN-7°-Eである。

[遺物] 出土していない。



第15図 SB1 掘立柱建物跡 平面図・断面図

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	東西柱六間の距離	
P1	33	27	25	P1～2	2.3m
P2	38	34	30		P1～3
P3	43	33	47	P2～3	2.9m
P4	44	35	42		P1～4

遺構	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR/1 褐色	シルト質粘土	φ1mm～3mm級の炭化物粒を数量含む。10YR/1(褐色)シルト質粘土の周囲に酸化鉄が堆積する。柱底。
	2	10YR/1 褐色	粘土質シルト	φ1mm～3mm級の炭化物粒を数量含む。10YR/1(褐色)シルト質粘土の周囲と層下に酸化鉄が堆積する。柱底。
	3	10YR/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR/2(1.5)10YR/2(褐色)粘土質シルトブロックをやや多量。φ1mm～3mm級の炭化物粒を少量。酸化鉄を粒状に数量含む。
P2	1	10YR/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR/2(褐色)粘土質シルトブロックをやや多量。φ1mm～3mm級の炭化物粒を数量。酸化鉄を粒状に少量含む。
	2	10YR/2 褐色	粘土質シルト	10YR/2(灰褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。層下はグレイ化し、酸化鉄が堆積する。柱底。
	3	10YR/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR/2(1.5)10YR/2(褐色)粘土質シルトブロックをやや多量。φ1mm～3mm級の炭化物粒を数量。酸化鉄を粒状に少量含む。柱底。
P3	1	10YR/1 褐色	シルト質粘土	φ1mm～3mm級の炭化物粒を数量含む。10YR/1(褐色)粘土の周囲に酸化鉄が堆積する。柱底。
	2	10YR/1 褐色	粘土質シルト	10YR/2(1.5)10YR/2(褐色)粘土質シルトブロックを少量。φ1mm～3mm級の炭化物粒を数量。酸化鉄を粒状に少量含む。
	3	10YR/2 黒褐色	シルト質粘土	10YR/2(褐色)粘土質シルトブロックをやや多量。φ1mm～3mm級の炭化物粒を数量含む。
P4	1	10YR/1 褐色	シルト質粘土	φ1mm～3mm級の炭化物粒を数量含む。10YR/1(褐色)シルト質粘土の周囲に酸化鉄が堆積する。柱底。
	2	10YR/2 灰褐色	シルト質粘土	10YR/2(1.5)10YR/2(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。
	3	10YR/2 灰褐色	シルト質粘土	10YR/2(1.5)10YR/2(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。

第5表 SB1 掘立柱建物跡 遺構計測表・土層誌記表

## SB2 掘立柱建物跡 (第16図、第6表、図版12)

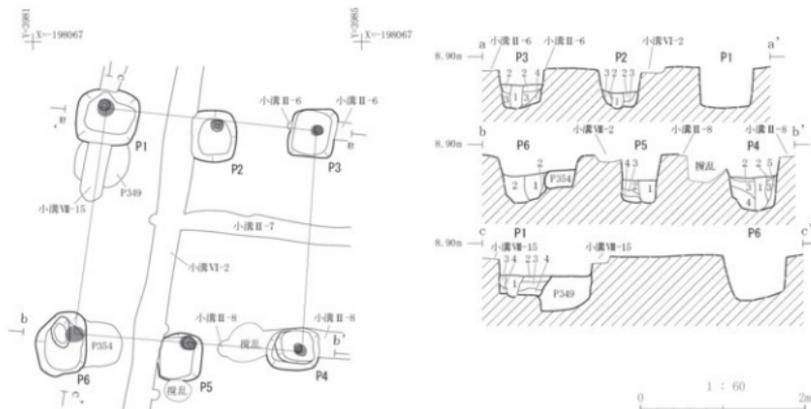
[位置] E9・F9で検出した。

[重複関係] 小溝状遺構Ⅱ・Ⅵ・Ⅶ群より古い。

[規模・形態] 東西2間×南北1間の建物跡で、P1～6の6基の柱穴によって構成され、6基ともに柱痕跡を確認した。東西はP1～3間が2.6m、P4～6間が約2.8mである。南北はP3～4間が約2.7m、P1～6間が約2.8mである。柱間は東西約1.2～1.4m、南北約2.7～2.8mである。各柱穴の規模と、柱穴間の距離は遺構計測表に記載した。柱穴の平面形状は概ね隅丸方形である。

[主軸方位] 南北軸 (P3～4) でN-4°-Eである。

[遺物] 出土していない。



遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	東西柱六間の距離	
P1	26	68	68	P1～2	1.6m
P2	54	64	68	P6～5	1.6m
P3	56	60	60		P5～4
P4	64	52	68	P3～4	2.7m
P5	34	60	60		P1～6
P6	42	76	56		

第16図 SB2 掘立柱建物跡 平面図・断面図

遺構	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3	暗褐色	10YR3/3(褐色)砂質シルトブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。層下に7.0Y4/1(灰色)シルト質粘土を多量含む。層下面に酸化鉄が混入する。柱状。
	2	10YR3/1	暗褐色	10YR3/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
	3	10YR3/1	暗褐色	10YR3/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
	4	10YR3/1	暗褐色	10YR3/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
P2	1	10YR3/3	暗褐色	10YR3/3(褐色)砂質シルトブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。酸化鉄が混入し微量含む。柱状。
	2	10YR3/2	暗褐色	10YR3/2(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
	3	10YR3/1	暗褐色	10YR3/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。柱状。
P3	1	10YR3/3	暗褐色	10YR3/3(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。柱状。
	2	10YR3/1	暗褐色	10YR3/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。層下方。
	3	10YR3/1	暗褐色	10YR3/1(褐色)シルト質粘土ブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。層下方。
	4	10YR4/3	にじみ・黄褐色	10YR4/3(暗褐色)シルト質粘土ブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。層下方。
	5	10YR3/3	暗褐色	10YR3/3(褐色)シルト質粘土ブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。10YR3/1(褐色)砂質シルトブロックを微量含む。層下方に酸化鉄が混入し、柱状。
P4	1	10YR3/3	暗褐色	10YR3/3(褐色)砂質シルトブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。10YR3/2(暗褐色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
	2	10YR3/4	暗褐色	10YR3/4(褐色)砂質シルトブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。10YR3/2(暗褐色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
	3	10YR3/4	暗褐色	10YR3/4(褐色)砂質シルトブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。10YR3/2(暗褐色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
	4	10YR4/2	にじみ・黄褐色	10YR4/2(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。層下方。
	5	10YR3/4	暗褐色	10YR3/4(褐色)砂質シルトブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。層下方。
P5	1	10YR3/3	暗褐色	10YR3/3(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。10YR3/2(暗褐色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
	2	10YR3/4	暗褐色	10YR3/4(褐色)砂質シルトブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。10YR3/2(暗褐色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
	3	10YR3/4	暗褐色	10YR3/4(褐色)砂質シルトブロックを少量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。10YR3/2(暗褐色)シルト質粘土ブロックを微量含む。層下方。
P6	1	10YR3/3	暗褐色	10YR3/3(褐色)砂質シルトブロックを多量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを少量含む。層下方。
	2	10YR3/1	暗褐色	10YR3/1(褐色)砂質シルトブロックを多量、10YR3/2(暗褐色)シルト質粘土ブロックを微量、2.0Y5/2(暗灰黄色)シルト質粘土ブロックを多量含む。層下方。

第 6 表 SB2 掘立柱建物跡 土層記表

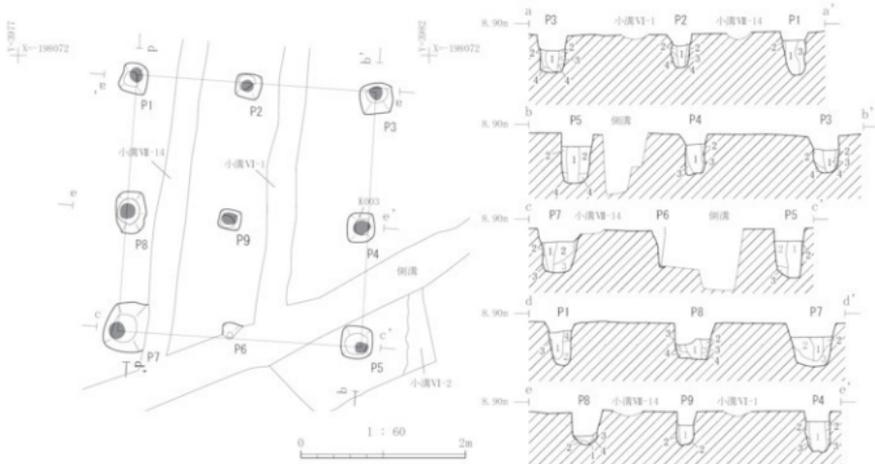
SB3 掘立柱建物跡 (第 17・18 図、第 7 表、図版 12・13)

[位置] E8・E9 で検出した。

[重複関係] 小溝状遺構 VII 群より古い。VI 群とも重複するが桁行間での重複のため、新旧は不明である。

[規模・形態] 東西 2 間×南北 2 間以上の総柱建物跡で、南側は調査区外へと広がる可能性がある。P1～9 の 9 基の柱穴によって構成され、P6 を除く 8 基で柱痕跡を確認した。東西は P1～3 間で約 2.9m、P5～7 間で約 3.0m である。南北は P3～5 間で約 3.1m、P1～7 間で約 3.1m である。柱間は東西約 1.3～1.7m、南北約 1.5～1.7m である。各柱穴の規模等は遺構計測表に記載した。柱穴の平面形状は概ね隅丸方形である。

[主軸方位] 南北軸 (P3～5) で  $N-4^{\circ}-E$  である。



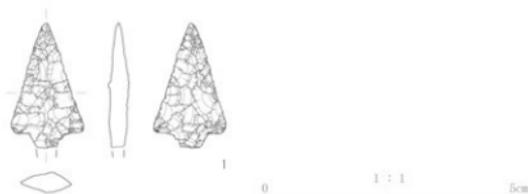
第 17 図 SB3 掘立柱建物跡 平面図・断面図

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	東西柱穴間の距離			
P1	22	27	53	P1～2	1.3m	P2～3	1.6m
P2	28	31	41	P6～9	1.3m	P9～4	1.7m
P3	27	40	46	P7～6	1.3m	P5～5	1.6m
P4	36	33	50	東西柱穴間の距離			
P5	50	29	41	P2～4	1.6m	P1～5	1.5m
P6	31	28	45	P2～9	1.7m	P9～6	1.5m
P7	31	61	54	P1～8	1.7m	P8～7	1.5m
P8	36	51	44				
P9	27	24	44				

遺構	層位	土色	土性	備考
P1	1	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。φ1mm～3mm程度の珪化物を数量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	2	10B3/4	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	3	10B3/5	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	4	10B3/4	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
P2	1	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。φ1mm～3mm程度の珪化物を数量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	2	10B3/3	12.0a-黄褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	3	10B3/3	12.0a-黄褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	4	10B3/3	12.0a-黄褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
P3	1	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	2	10B3/3	12.0a-黄褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、10B3/4 暗褐色1シルト質粘土ブロックを少量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	3	10B3/3	12.0a-黄褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、10B3/4 暗褐色1シルト質粘土ブロックを少量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	4	10B3/4	褐色	10B3/4 暗褐色1シルト質粘土ブロックを少量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
P4	1	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	2	10B3/3	12.0a-黄褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、10B3/4 暗褐色1シルト質粘土ブロックを少量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	3	10B3/3	12.0a-黄褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、10B3/4 暗褐色1シルト質粘土ブロックを少量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	4	10B3/3	暗褐色	10B3/4 暗褐色1シルト質粘土ブロックを少量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
P5	1	10B3/3	暗褐色	10B3/4 暗褐色1粘土質シルト小ブロックを多量、10B3/4 褐色1シルト質シルトブロックを少量、φ1mm～3mm程度の珪化物、酸化鉄を散在的に少量含む。柱状。
	2	10B3/4	褐色	10B3/4 暗褐色1シルト質シルトブロックを少量、φ1mm～3mm程度の珪化物、酸化鉄を散在的に少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
P6	1	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	2	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
P7	1	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	2	10B3/3	12.0a-黄褐色	10B3/4 暗褐色1シルト質シルトブロックを少量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
P8	1	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	2	10B3/3	12.0a-黄褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	3	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	4	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
P9	1	10B3/3	暗褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量、φ1mm～3mm程度の珪化物を数量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。
	2	10B3/4	12.0a-黄褐色	10B3/4 褐色1砂質シルト小ブロックを多量、2.0B/21 暗灰褐色1シルト質粘土ブロックを少量、酸化鉄を散在的に数量含む。層下面に酸化鉄が散在する。柱状。

第7表 SB3 掘立柱建物跡 遺構計測表・土層誌記表

[遺物]P4から石織と散石が出土している。このうち石織を図示した(第18図-1)。全体的に薄手に仕上げられており、左右対称の形状に整えられている。



図録番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	部種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
第18図-1	10B3	10B3 21-1	SB3P4/2層	打製石器	石織	磨石	12.00	1.30	0.28	10.80	表面磨光一辺欠損。

第18図 SB3 掘立柱建物跡 出土遺物

SB4 掘立柱建物跡 (第19図、第8表、図版13)

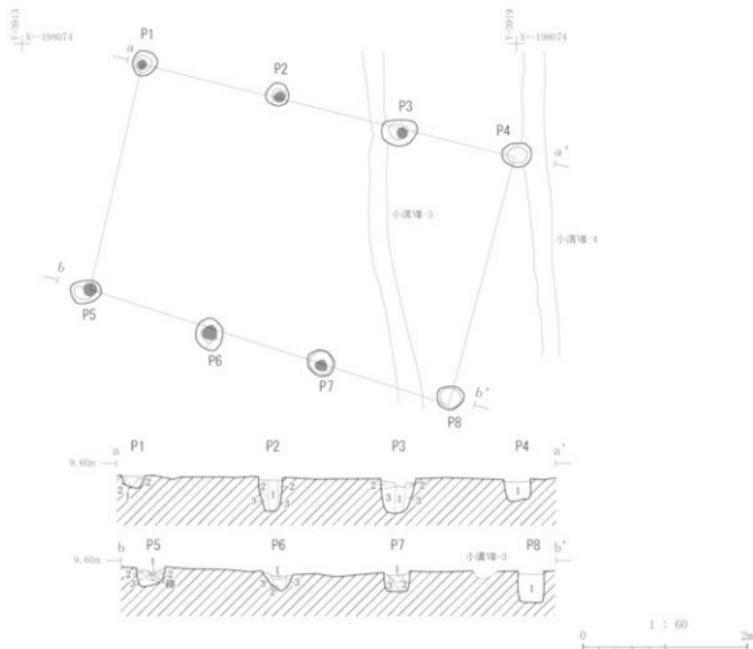
[位置] E2 で検出した。

[重複関係] 小溝状遺構Ⅶ群より新しい。

[規模・形態] 東西3間×南北1間の建物跡で、P1～8の8基の柱穴によって構成され、東端のP4とP8の2穴を除く6穴で柱痕跡を確認した。東西はP1～4間で約4.7m、P5～8間で約4.7mである。南北はP1～5間で約2.8m、P4～8間で約3.1mである。柱間は東西が約1.4～1.7m、南北は2.8～3.1mである。各柱穴の規模と、柱穴間の距離は遺構計測表に記載した。柱穴の平面形状は不整形円形で、掘り方底面に硬層が露出しているP1・5～7の深さは浅い傾向にある。

[主軸方位] 南北軸 (P4～8) で  $N-14^{\circ}-E$  である。

[遺物] 出土していない。



遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	東西柱穴間の距離				
SB4	P1	30	30	16	P1～2	1.7m	P2～3	1.5m
	P2	38	28	12	P3～4	1.5m	P5～6	1.5m
	P3	42	32	14	P6～7	1.5m	P7～8	1.5m
	P4	36	30	20	南北柱穴間の距離			
	P5	36	32	22	P1～5	2.8m	P4～8	3.1m
	P6	34	38	24				
	P7	34	32	26				
	P8	32	30	28				

第19図 SB4 掘立柱建物跡 平面図・断面図

遺構	層位	土色	土性	備考	
P1	1	10YR5/3	黒褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを少量含む。柱痕。
	2	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを少量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。釧り方。
	1	10YR2/1	黒褐色	シルト質粘土	10YR2/1 (黒褐色) 粘土質シルトブロックを少量含む。10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを少量含む。柱痕。
	2	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。釧り方。
	3	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。釧り方。
	2	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。釧り方。
P2	1	10YR2/1	黒褐色	シルト質粘土	10YR2/1 (黒褐色) 粘土質シルトブロックを多量含む。10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを少量含む。柱痕。
	2	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。釧り方。
	3	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。釧り方。
	1	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。釧り方。
	2	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。釧り方。
	1	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	10YR5/3 (褐色色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。釧り方。
P3	1	10YR5/3	黒褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。柱痕。
	2	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。釧り方。
	3	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。釧り方。
	1	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。柱痕。
	2	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。釧り方。
	3	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。釧り方。
P4	1	10YR5/3	黒褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。柱痕。
	2	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。釧り方。
	3	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。釧り方。
	1	10YR5/3	黒褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。柱痕。
	2	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。釧り方。
	3	10YR5/3	にじみ状褐色	シルト質粘土	基本土層由来の砂礫を多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を多量含む。釧り方。

第8表 SB4 掘立柱建物跡 土層記表

## SB5 掘立柱建物跡 (第20図、図版13)

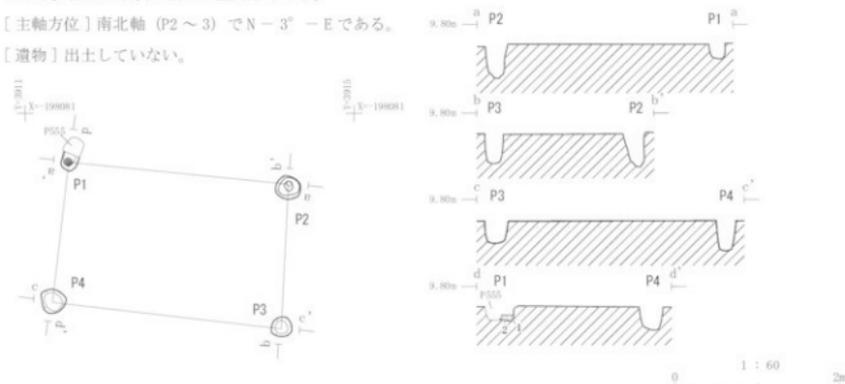
[位置] D2で検出した。

[重複関係] 北西の柱穴P1はP555より古い。桁行・梁行間でSK43と重複関係にあるが、新旧は不明である。

[規模・形態] 東西1間×南北1間の建物跡で、P1～4の4穴の柱穴によって構成され、P1・2の2基で柱痕を確認した。柱間は東西がP1～2間で約2.7m、P3～4間で約2.8m、南北はP2～3間で約1.7m、P1～4間で約1.8mである。柱穴の形状は概ね不整形円形である。

[主軸方位] 南北軸 (P2～3) でN-3°-Eである。

[遺物] 出土していない。



遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	東西柱穴間の距離				
SB5	P1	20	20	20	P1～2	2.7m	P3～4	2.8m
	P2	20	28	40	南北柱穴間の距離			
	P3	24	24	34	P2～3	1.7m	P1～4	1.8m
	P4	22	20	40				

遺構	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/3	黒褐色	10YR5/3 (灰黒褐色) シルト質粘土ブロックを少量含む。炭化植物を少量、マンガン粒を中や多量含む。柱痕。
	2	10YR4/2	灰黒褐色	10YR4/2 (黒褐色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。炭化植物を少量含む。釧り方。
	1	10YR2/1	黒褐色	10YR2/1 (黒褐色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。炭化植物を少量含む。マンガン粒を中や多量含む。柱痕。
P2	1	10YR4/2	灰黒褐色	10YR4/2 (灰黒褐色) シルト質粘土ブロックを中や多量含む。炭化植物を少量、マンガン粒を中や多量含む。柱痕。
	2	10YR4/2	灰黒褐色	10YR4/2 (黒褐色) 粘土質シルトブロックを中や多量含む。炭化植物を少量、マンガン粒を中や多量含む。釧り方。
	3	10YR2/1	黒褐色	10YR2/1 (黒褐色) シルト質粘土ブロックを中や多量含む。炭化植物を少量、マンガン粒を中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。
P3	1	10YR2/1	黒褐色	10YR2/1 (灰黒褐色) シルト質粘土ブロックを少量含む。炭化植物を少量、炭化植物を少量、マンガン粒を中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。
	1	10YR2/1	黒褐色	10YR2/1 (黒褐色) シルト質粘土ブロックを少量含む。炭化植物を少量、炭化植物を少量、マンガン粒を中や多量含む。φ 3.0cm×3.0cm程度の礎を少量含む。

第20図 SB5 掘立柱建物跡 平面図・断面図

### 3. 土坑

検出した土坑は40基を数える。このうち隅丸長方形を呈する土坑がSK1・40・45・53・54の5基あり、SK40を除く4基は調査区西側のやや標高の高い部分にまとまりをもって検出している。これらの土坑は形状から土壌墓の可能性もある。またSK40とSK52からは舶載青磁(碗)の小片が出土している。河川跡の東側では円形の土坑(SK46・48～51)がまとまりをもって確認された。これらの土坑はいずれも自然堆積により埋没したと考えられ、形状等からは同様の性格を持つ遺構と考えられるが用途等は不明である。その他の土坑は人為的に埋められているもの、不整形な形状の土坑が多く、遺構の性格は不明である。

#### SK1 土坑 (第21図、図版14)

[位置]D3で検出した。

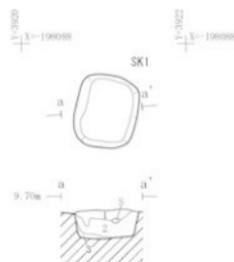
[重複関係]他遺構との重複は無い。

[規模・形態]平面形は隅丸長方形で、検出規模は長軸約0.9m、短軸0.75m、深さ約35cmである。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[主軸方位]長軸でN-10°-Eである。

[堆積土]3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物]クロコ土師器環口縁部破片・近世陶器(灰吹き)の破片が出土した。



#### SK2 土坑 (第21図)

[位置]C3で検出した。

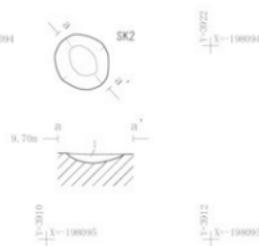
[重複関係]他遺構との重複は無い。

[規模・形態]平面形は不整形円で、検出規模は長軸約0.71m、短軸約0.65m、深さ約11cmである。断面形は浅いU字形を呈し、壁面は緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

[主軸方位]長軸でN-40°-Wである。

[堆積土]1層を確認した。

[遺物]須恵器環口縁部破片が出土した。



#### SK3 土坑 (第21図、図版14)

[位置]C2で検出した。

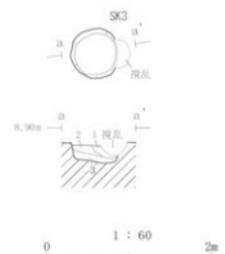
[重複関係]他遺構との重複は無く、東側を攪乱される。

[規模・形態]平面形はほぼ円形で、検出規模は長軸約0.61m、短軸約0.57m、深さ約21cmである。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや外傾して立ち上がる。底面は東側がやや深い。

[主軸方位]長軸でN-8°-Wである。

[堆積土]3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物]出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10B3/3 黄褐色	粘土質シルト	10B4/2(灰黄褐色)シルト質粘土ブロックを多量、10B4/3(白灰褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。マンガン粒を少量含む。埋上。
	2	2.10B4/3 オリーブ褐色	シルト	10B4/2(灰黄褐色)シルト質粘土ブロックを多量、10B4/3(白灰褐色)シルト質粘土ブロックを少量含む。埋上。
SK2	3	2.10B3/3 暗灰褐色	シルト質粘土	腐植層を少量含む。層下に腐植層が連続する。
	1	10B3/3 暗褐色	粘土質シルト	10B4/1(黄褐色)シルト質シルトブロックを少量含む。φ3cm~5cm程度の礫を少量含む。
	2	10B3/3 暗褐色	粘土質シルト	10B4/1(灰黄褐色)粘土質シルトブロックを多量、10B3/2(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。腐植層を部分的に多量含む。
SK3	2	10B4/3 白灰褐色	粘土質シルト	2.10B4/2(暗灰褐色)砂を多量、10B4/2(灰黄褐色)シルト質粘土ブロックを少量含む。
	3	10B3/3 黄褐色	粘土質シルト	10B3/3(暗褐色)シルト質粘土を多量、2.104/1(黄褐色)を少量含む。炭化物粒・粘土粒を少量含む。

第21図 SK1~3土坑 平面図・断面図

## SK4 土坑 (第22図、図版14)

[位置]C2で検出した。

[重複関係]他遺構との重複は無く、南西側の一部を攪乱される。

[規模・形態]平面形は不整形形で、検出規模は長軸約1.48m、短軸約1.3m、深さ約25～35cmである。断面形はU字形を呈し、壁面は緩やかに立ち上がる。底面は遺構中心から南西にかけてやや深い。

[主軸方位]長軸でN-83°-Wである。

[堆積土]3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物]須恵器甕破片、須恵器坏破片、不明鉄製品が出土している。

## SK5 土坑 (第22図、図版14)

[位置]C2で検出した。

[重複関係]他遺構と重複は無い。

[規模・形態]平面形は不整形形で、検出規模は長軸0.95m、短軸0.92m、深さ約25cmである。断面形はU字形で、壁面は緩やかに立ち上がる。底面はやや凹凸がある。

[主軸方位]長軸でN-7°-Wである。

[堆積土]2層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物]出土していない。

## SK6 土坑 (第22図)

[位置]C1で検出した。

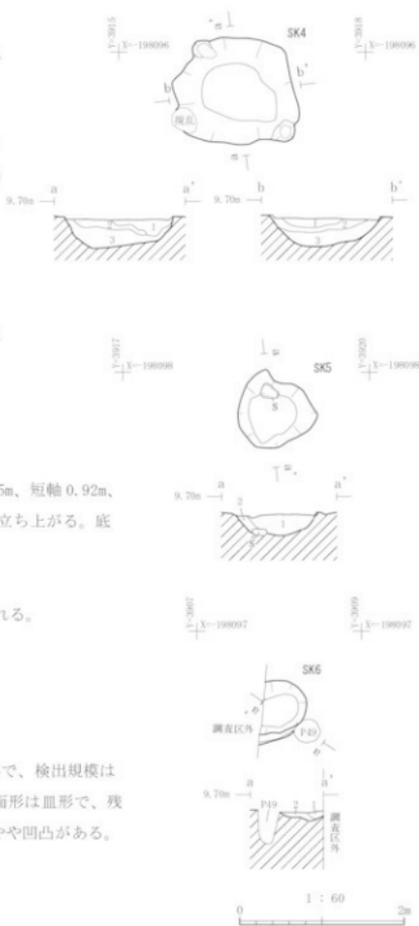
[重複関係]P49より古い。

[規模・形態]西側は調査区外へ延びる。平面形は楕円形で、検出規模は長軸約0.78m、短軸0.55m以上、深さ約10cmである。断面形は皿形で、残存状況が悪く壁面の立ち上がりは判然としない。底面はやや凹凸がある。

[主軸方位]N-74°-W

[堆積土]2層を確認した。

[遺物]出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR/2(1)に20%炭素(黒)シルト質粘土ブロックを多量、2.0YR/1(黄灰色)シルト質粘土ブロックを少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	10YR/2(1)炭素(黒)シルト質粘土ブロックを多量、2.0YR/1(黄灰色)シルト質粘土ブロックを少量含む。炭化物・焼土粒を微量、酸化鉄を微状に多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR/2(1)炭素(黒)シルト質粘土ブロックを多量、2.0YR/1(黄灰色)シルト質粘土ブロックを微量含む。酸化鉄を微状に多量、 $\phi$ 10 $\mu$ m程度の骨を含む。
SK5	1	2.5Y2/2 黒褐色	粘土質シルト	2.5YR/1(黄灰色)シルト質粘土ブロックを少量、10YR/1(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物・焼土粒を少量含む。
	2	10YR3/2 暗褐色	シルト	10YR/2(1)炭素(黒)シルト質粘土ブロックを多量、2.0YR/1(黄灰色)シルト質粘土ブロックを少量含む。
SK6	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR/2(1)炭素(黒)シルト質粘土を少量、10YR/4(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物・焼土粒を微量、酸化鉄を微状に多量含む。
	2	10YR2/3 暗褐色	粘土質シルト	10YR/2(1)炭素(黒)シルト質粘土を多量、10YR/4(褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。炭化物・焼土粒を微量含む。

第22図 SK4～6土坑 平面図・断面図

### SK7 土坑 (第23図、図版15)

[位置]C2で検出した。

[重複関係]他遺構との重複は無い。

[規模・形態]平面形は不整形形で、検出規模は長軸約0.87m、短軸約0.75m、深さ約15cmである。断面形は浅い逆台形で、壁面はやや外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

[主軸方位]N-7°-E

[堆積土]2層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物]出土していない。

### SK8 土坑 (第23図、図版15)

[位置]B1・B2で検出した。

[重複関係]他遺構との重複は無い。

[規模・形態]平面形は不整形形で、検出規模は長軸約0.95m、短軸約0.9m、深さ約25cmである。断面形は逆台形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦だが、最深部はやや北寄りに位置する。

[主軸方位]N-16°-W

[堆積土]3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物]出土していない。

### SK9 土坑 (第23図、図版15)

[位置]C2で検出した。

[重複関係]他遺構との重複は無い。

[規模・形態]平面形はほぼ円形で、検出規模は長軸約0.61m、短軸約0.57m、深さ約21cmである。断面形は逆台形を呈し、壁面はやや外傾して立ち上がる。

[主軸方位]長軸でN-8°-Wである。

[堆積土]3層確認した。人為的に埋められたと考えられる。

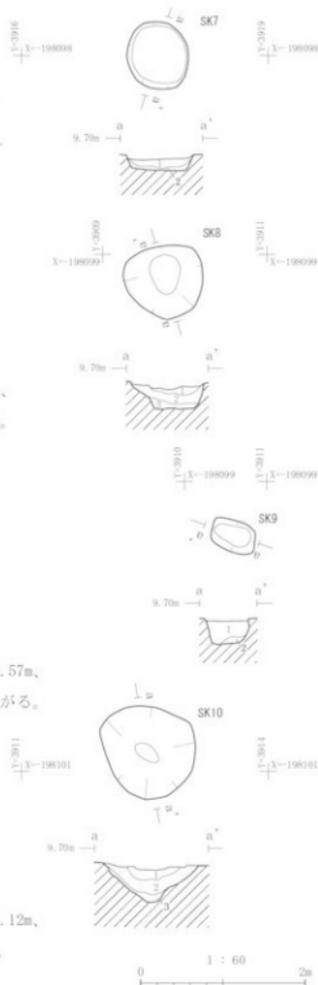
[遺物]出土していない。

### SK10 土坑 (第23図、図版15)

[位置]B2で検出した。

[重複関係]他遺構との重複は無い。

[規模・形態]平面形は不整形形で、検出規模は長軸約1.2m、短軸約1.12m、深さ約40cmである。断面形は逆三角形で、壁面は緩やかに立ち上がる。



遺構	層位	土色	土性	備考	
SK7	1	10B3/2	紫褐色	粘土質シルト	2.03/1(黄灰色)砂ブロック, 10B4/2(灰黄褐色)シルトブロックを多量含む。酸化鉄を局所的に多量, マンガン酸を少量含む。
	2	10B3/3	白~灰褐色	シルト質砂	2.03/1(黄灰色)砂を多量, 粘土質を局所的に少量含む。
SK8	1	10B3/2	紫褐色	粘土質シルト	2.03/1/2(黄灰色)シルト質粘土を多量, 2.03/1/1(黄灰色)砂を少量含む。炭化物・粘土粒を少量, 酸化鉄を局所的に微量含む。
	2	10B3/3	紫褐色	粘土質シルト	2.03/1(黄灰色)シルト質粘土を多量含む。炭化物・粘土粒を少量含む。
SK9	1	10B3/2	紫褐色	シルト	2.03/1/2(黄灰色)シルト質粘土を少量含む。酸化鉄を局所的に少量含む。
	2	10B3/3	紫褐色	シルト	2.03/1(黄灰色)砂ブロックを多量含む。炭化物・粘土粒を少量含む。
SK10	1	10B3/2	紫褐色	粘土質シルト	2.03/1/2(黄灰色)シルト質粘土を多量含む。炭化物・粘土粒を少量含む。
	2	10B3/3	紫褐色	粘土質シルト	2.03/1(黄灰色)シルト質粘土を多量含む。炭化物・粘土粒を少量含む。
	3	10B3/3	白~灰褐色	シルト質砂	10B4/3(灰黄褐色)シルト質粘土を少量含む。酸化鉄を局所的に少量含む。

第23図 SK7~10土坑 平面図・断面図

〔主軸方位〕長軸で $N-10^{\circ}-W$ である。

〔堆積土〕3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

〔遺物〕砥石破片、石皿破片が出土している。

#### SK11 土坑 (第24図、図版15)

〔位置〕B2で検出した。

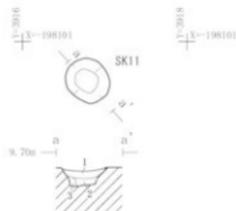
〔重複関係〕他遺構との重複は無い。

〔規模・形態〕平面形は不整円形で、検出規模は長軸約0.57m、短軸約0.5m、深さ約20cmである。断面形は逆台形で、壁面は南東側がやや緩やかに外傾する。底面は平坦である。

〔主軸方位〕長軸で $N-22^{\circ}-W$ である。

〔堆積土〕3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

〔遺物〕出土していない。



#### SK12 土坑 (第24図、図版15)

〔位置〕B2で検出した。

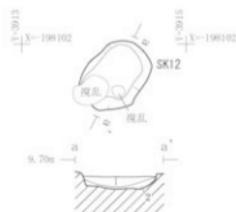
〔重複関係〕他遺構との重複は無く、南西の一部を擾乱される

〔規模・形態〕平面形は不整円形で、検出規模は長軸約0.95m、短軸約0.35m、深さ約15cmである。断面形は浅いU字形で、壁面はやや外傾して立ち上がる。底面はやや凹凸がある。

〔主軸方位〕長軸で $N-25^{\circ}-E$ である。

〔堆積土〕2層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

〔遺物〕須恵器甕底部破片、須恵器甕胴部破片、非クロロ土師器破片、敲石が出土している。



#### SK13 土坑 (第24図)

〔位置〕B1で検出した。

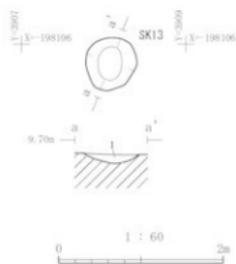
〔重複関係〕他遺構との重複は無い。

〔規模・形態〕平面形は不整円形で、検出規模は長軸約0.67m、短軸約0.6m、深さ約10cmである。断面形は浅いU字形で、残存状況が悪いため壁面の立ち上がりは判然としない。底面は平坦である。

〔主軸方位〕長軸で $N-21^{\circ}-E$ である。

〔堆積土〕1層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

〔遺物〕出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK11	1	10BK12 黒褐色	粘土質シルト	10BK12(1) 黒褐色(粘土)質粘土ブロックを多量、10BK12(2) 黒褐色(粘土)質粘土ブロックを少量含む。炭化物・焼土・灰を少量含む。
	2	10BK13 灰色(黄褐色)	シルト	10BK13(1) 黄褐色(粘土)質粘土を多量、2.05/11 黄褐色(粘土)質粘土ブロックを多量含む。
	3	10BK13 暗褐色	シルト質砂	2.074/21 暗褐色(粘土)質粘土ブロックを多量含む。
SK12	1	10BK12 黒褐色	粘土質シルト	10BK12(1) 黒褐色(粘土)質粘土ブロックを少量、2.05/11 黄褐色(粘土)質粘土を少量含む。炭化物・焼土を少量含む。
	2	10BK13 灰色(黄褐色)	シルト	10BK13(1) 黄褐色(粘土)質粘土ブロックを多量、10BK13(2) 黄褐色(粘土)質粘土を少量含む。
SK13	1	10BK13 暗褐色	粘土質シルト	10BK13(1) 暗褐色(粘土)質粘土ブロックを少量、0.30m~3.00mの層を少量含む。

第24図 SK11～13土坑 平面図・断面図

### SK14 土坑 (第25図)

[位置] B1・B2で検出した。

[重複関係] 他遺構との重複は無く、北西の一部を覆乱される。

[規模・形態] 平面形は不整形形で、検出規模は長軸約2.05m、短軸約1.85m、深さ約35～45cmである。断面形は逆台形で、壁面はやや外傾して立ち上がる。底面はやや凹凸がある。

[主軸方位] 長軸でN-4°-Eである。

[堆積土] 4層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 須石器燧石片、石皿破片、敲石破片が出土している。

### SK15 土坑 (第25図)

[位置] B2で検出した。

[重複関係] 他遺構との重複は無い。

[規模・形態] 平面形は不整形形で、検出規模は長軸約1.45m、短軸約1.0m、深さ約10cmである。断面形は浅いU字形で、残存状況が悪いため壁面の立ち上がりは判然としない。底面は平坦である。

[主軸方位] 長軸でN-3°-Wである。

[堆積土] 3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。

### SK16 土坑 (第25図、図版15)

[位置] B2で検出した。

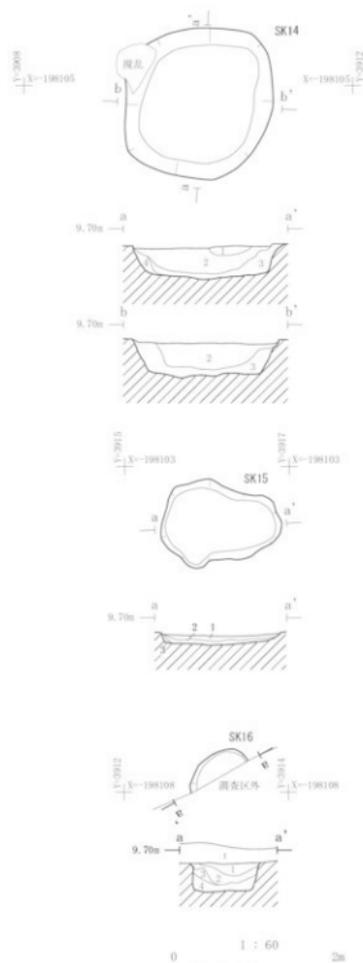
[重複関係] 他遺構との重複は無い。

[規模・形態] 平面形は楕円形で、検出規模は長軸約0.8m、短軸約0.28m以上、深さ約36cmである。南東は調査区外に延びる。断面形は逆台形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凹凸がある。

[主軸方位] 長軸でN-60°-Wである。

[堆積土] 4層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK14	1	10YR1/3 (にぶい)黄褐色	シルト質砂	10YR2/3(暗褐色)粘土質シルトブロック、2.0Y1/1(黄灰色)砂を少量含む。粘土粒・炭化物粒を少量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	10YR3/1(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。2.0Y1/1(黄灰色)シルト質粘土ブロックを少量含む。粘土粒・炭土ブロックを少量含む。
	3	10YR3/1 暗褐色	シルト	2.0Y1/1(黄灰色)砂を少量含む。10YR2/1(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。粘土ブロックを少量含む。
	4	10YR1/3 (にぶい)黄褐色	シルト質砂	10YR4/3(にぶい)黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。2.0Y1/1(黄灰色)砂を少量含む。炭化物・粘土粒を少量含む。
SK15	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	2.0Y1/2(暗黄灰色)シルトブロックを少量含む。2.0Y1/1(黄灰色)砂を少量含む。炭化物・粘土粒を少量含む。
	2	10YR1/3 (にぶい)黄褐色	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物粒・粘土粒を少量含む。
	3	10YR3/1 暗褐色	シルト	2.0Y1/1(黄灰色)砂を少量含む。10Y1/2(灰黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。
SK16	1	10YR1/2 灰黄褐色	シルト質砂	10YR3/1(黄褐色)シルトブロックを少量含む。10Y1/3(灰黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。10YR1/1(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。10YR3/3(暗褐色)シルトブロックを少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	2.0YR1/2(暗黄灰色)シルト質粘土ブロックを少量含む。10YR2/1(黒色)粘土質シルトブロックを少量含む。マンガン粒を少量含む。
	3	10YR1/3 (にぶい)黄褐色	シルト	10YR1/1(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。10YR3/1(黄褐色)シルトブロックを少量含む。10Y1/3(灰黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。
	4	10YR3/2 暗褐色	粘土質シルト	10YR3/2(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。10Y1/3(灰黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。

第25図 SK14～16土坑 平面図・断面図

## SK17 土坑 (第26・27図、図版16)

[位置] B2で検出した。

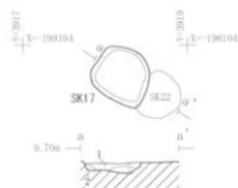
[重複関係] SK22より新しい。

[規模・形態] 平面形は不整形形で、検出規模は長軸約0.7m、短軸約0.66m、深さ約13cmである。断面形は浅いU字形で、壁面はやや外傾して立ち上がる。底面は凹凸がある。

[主軸方位] 長軸でN-67°-Wである。

[堆積土] 2層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 1層から凝灰岩製磨製石斧の刃部破片が出土しており、第27図に図示した。遺構に伴う遺物ではない。石斧の表面は使用に伴う衝撃によって節理面で剥落したと考えられる。表面には研磨による擦痕が顕著に残り、また、研磨に先行して施されていたと見られる敲打成形痕が部分的に観察できる。



## SK18 土坑 (第26図、図版16)

[位置] B2で検出した。

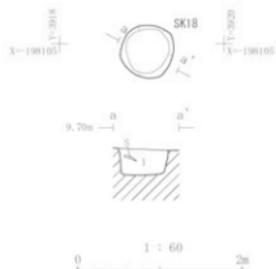
[重複関係] 他遺構との重複は無い。

[規模・形態] 平面形はほぼ円形で、検出規模は長軸約0.6m、短軸約0.55m、深さ約10cmである。断面形は浅いU字形で、残存状況が悪いため壁面の立ち上がりは判然としない。底面は平坦である。

[主軸方位] 長軸でN-3°-Wである。

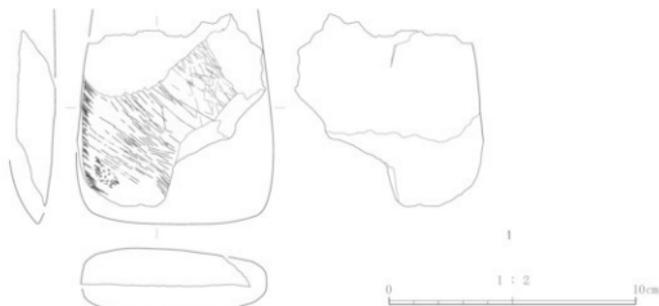
[堆積土] 3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK17	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	10YR3/2(灰褐色)シルト質粘土を多量含む。10YR3/2(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。酸化鉄を軽微に多量含む。
	2	10YR4/3 に灰み黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰褐色)シルト質粘土を多量。10YR3/2(黒褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。酸化鉄を軽微に多量含む。
SK18	1	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰褐色)シルト質粘土を少量。10YR4/1(褐色)シルト質粘土ブロックを少量含む。

第26図 SK17・18土坑 平面図・断面図



図版番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
第27図-1	8001	図版29-3	SK17/ 1層	磨製石器	石斧	凝灰岩	9.77	9.100	1.90	60.2	削落片。

第27図 SK17土坑 出土遺物

## SK19 土坑 (第28図)

[位置]C2 で検出した。

[重複関係]他遺構との重複は無い。

[規模・形態]平面形は不整楕円形で、検出規模は長軸約0.77m、短軸約0.63m、

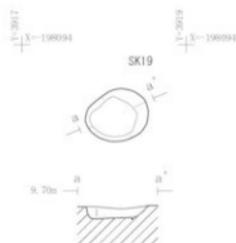
深さ約15cmである。断面形は浅い逆台形で、壁面はやや外傾して立ち上がり、

東側の立ち上がりはやや緩やかである。底面は平坦である。

[主軸方位]長軸でN-73°-Eである。

[堆積土]1層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物]出土していない。



## SK20 土坑 (第28図、図版16)

[位置]B3・C3 で検出した。

[重複関係]SD1、SK21 より新しい。北東を覆乱される。

[規模・形態]平面形は不整円形で、検出規模は長軸約1.09m、短軸約

0.97m、深さ約17cmである。断面形は浅いU字形で、立ち上がりは残存

状況が悪いため判然としない。底面は中央部にやや凹凸がある。

[主軸方位]長軸でN-76°-Wである。

[堆積土]2層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物]弥生土器破片が出土している。



## SK21 土坑 (第28図、図版16)

[位置]B3 で検出した。

[重複関係]SD1・SK20 より古い。

[規模・形態]平面形は隅丸方形で、検出規模は長軸約2.24m、短軸約1.4m、

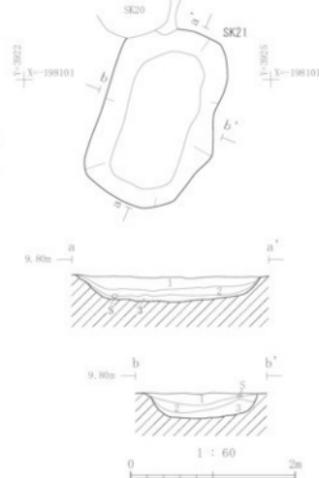
深さ約20～30cmである。断面形は逆台形で、壁面は緩やかに立ち上がる。

底面は平坦である。

[主軸方位]長軸でN-24°-Eである。

[堆積土]3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物]非クロコ土器器破片、台石破片、不明鉄製品が出土している。



## SK22 土坑 (第29図、図版16)

[位置]B2 で検出した。

[重複関係]SK17 より古い。

[規模・形態]平面形は不整円形で、検出規模は長軸約0.59m、短軸約

0.44m、深さ約19cmである。断面形は逆台形で、壁面はほぼ垂直に立ち

上がる。底面は平坦である。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK19	1	SK19/1 暗褐色	粘土質シルト	SK19/1(暗褐色)シルト質砂ブロックを少量含む。a 3cm~5cm程度の硬さを呈する。
	2	SK19/2 褐色	シルト	SK19/2(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化植物を少量、腐化跡を軽微に少量含む。
SK20	1	SK20/1 濃い黄褐色	粘土質シルト	SK20/1(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。腐化跡を軽微に少量含む。
	2	SK20/2 暗褐色	粘土質シルト	SK20/2(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化植物・埋土層を軽微に少量含む。
SK21	1	SK21/1 黄褐色	粘土質シルト	SK21/1(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化植物・埋土層を軽微に少量含む。
	2	SK21/2 暗褐色	粘土質シルト	SK21/2(黄褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化植物・埋土層を軽微に少量含む。
SK22	1	SK22/1 黄褐色	シルト質粘土	SK22/1(黄褐色)粘土を少量、SK22/2(褐色)シルト質粘土ブロックを少量含む。炭化植物・埋土層を軽微に少量含む。
	2	SK22/2 暗褐色	シルト質粘土	SK22/2(黄褐色)粘土を少量、SK22/1(褐色)シルト質粘土ブロックを少量含む。炭化植物・埋土層を軽微に少量含む。

第28図 SK19～21 土坑 平面図・断面図

〔主軸方位〕長軸で $N-32^{\circ}-E$ である。

〔堆積土〕3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

〔遺物〕出土していない。

#### SK23 土坑 (第29図、図版17)

〔位置〕B3で検出した。

〔重複関係〕他遺構との重複は無い。

〔規模・形態〕平面形は不整長楕円形で、検出規模は長軸約1.47m、短軸約0.56m、深さ約19cmである。断面形は浅い皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。底面は中央部に凹部、南側に段差を有する。

〔主軸方位〕長軸で $N-14^{\circ}-E$ である。

〔堆積土〕2層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

〔遺物〕出土していない。

#### SK33 土坑 (第29図)

〔位置〕E6で検出した。

〔重複関係〕SD3より古い。

〔規模・形態〕平面形は不整楕円形で、検出規模は長軸約0.48m、短軸0.44m以上、確認面からの深さ約10cmである。断面形は浅い逆台形で、立ち上がりは残存状況が悪いため判然としない。底面は平坦である。

〔主軸方位〕長軸で $N-22^{\circ}-E$ である。

〔堆積土〕1層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

〔遺物〕出土していない。

#### SK35 土坑 (第29図)

〔位置〕E7で検出した。

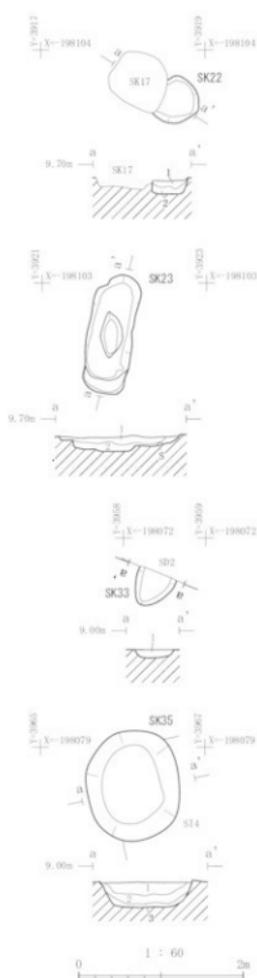
〔重複関係〕SI4より新しい。

〔規模・形態〕平面形は不整円形で、検出規模は長軸約1.35m、短軸約1.12m、深さ約30cmである。断面形は逆台形で、壁面は底面からやや鋭角に立ち上がり、底面は平坦である。

〔主軸方位〕長軸で $N-20^{\circ}-W$ である。

〔堆積土〕3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

〔遺物〕土師器細片が出土している。SI4 堅穴住居跡の遺物や堆積土が混入したものと考えられる。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK22	1	10YR4/3 濃い黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰褐色)シルト質粘土を多量含む。10YR2/2(黒褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。酸化鉄を中程度に多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(濃い黄褐色)粘土質シルトを多量含む。10YR3/1(暗褐色)粘土質シルトを少量含む。2.5YR4/1(黄褐色)シルト質粘土ブロックを多量含む。
	3	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	10YR3/1(黒褐色)粘土質シルトブロックをやや多量含む。10YR2/2(灰褐色)砂質シルトブロックをやや多量含む。
SK23	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	2.5YR4/1(黄褐色)砂を多量含む。酸化鉄・磁土を少量含む。部分的に酸化鉄が集積する。
	2	10YR2/1 暗褐色	シルト	2.5YR4/1(暗黄褐色)砂を多量含む。2.5YR4/1(暗黄褐色)粘土質シルトを多量含む。部分的に酸化鉄が集積する。
SK33	1	10YR2/3 暗褐色	粘土質シルト	10YR4/1(褐色)シルト質シルトを少量含む。2.5YR4/1(黄褐色)の磁土を少量含む。
	2	10YR2/2 黄褐色	粘土質シルト	10YR2/1(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。酸化鉄を少量含む。磁土を少量含む。中程度を少量含む。
SK35	1	10YR2/2 黄褐色	粘土質シルト	10YR3/1(暗褐色)シルトブロックを多量含む。10YR4/2(灰黄褐色)粘土質シルトを少量含む。酸化鉄を多量含む。
	2	10YR2/2 黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)粘土質シルト大ブロックを多量含む。10YR4/1(褐色)砂を多量含む。

第29図 SK22・23・33・35土坑 平面図・断面図

### SK39 土坑 (第30図)

[位置] F9で検出した。

[重複関係] SD5、小溝状遺構Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ群より古い。

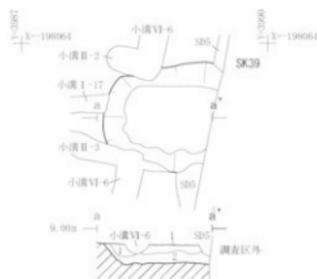
[規模・形態] 平面形は不整形形で遺構の東側は調査区外へ延びる。

検出規模は長軸約1.33m以上、短軸約1.28m、深さ約25cm～30cmである。断面形は逆台形で、壁面はやや外傾して立ち上がる。底面はやや凹凸がある。

[主軸方位] 長軸でN-80°-Wである。

[堆積土] 2層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 内面に同心円状の当具痕のある須恵器甕胴部の破片が出土している。



### SK40 土坑 (第30図、図版17)

[位置] G5で検出した。

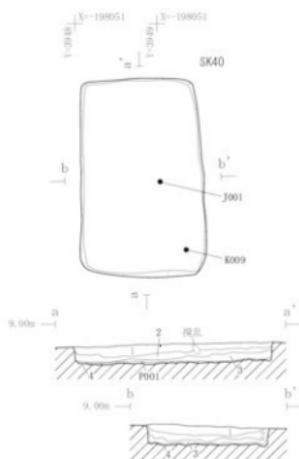
[重複関係] 他遺構との重複は無い。

[規模・形態] 平面形は隅丸方形で、長軸約2.44m、短軸約1.5m、深さ約27～30cmである。断面形は方形で、壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は酸化鉄の沈着で硬化し、ほぼ平坦である。

[主軸方位] 長軸でN-1°-Wである。

[堆積土] 4層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 4層から13～14世紀とみられる船載青磁細片が出土した(J001)。このほか、土師器細片、須恵器細片が出土しているが遺物の量は少ない。土壌墓の可能性が考えられるが、遺構の形状はやや大きく、方形堅穴遺構の可能性もある。



### SK42 土坑 (第30図、図版17)

[位置] D2で検出した。

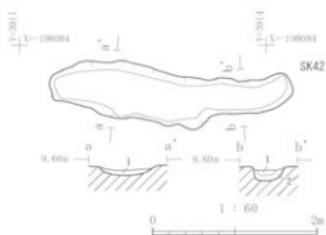
[重複関係] 他遺構との重複は無い。

[規模・形態] 平面形は不整形形で、長軸約3.0m、短軸約0.6m、深さは約15cmである。断面形は浅いU字型ないしU字型で、壁面は外傾して立ち上がり、底面は起伏する。

[主軸方位] 長軸でN-97°-Wである。

[堆積土] 2層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考	
SK39	1	100R3/3	暗褐色	シルト質粘土	100R3/3(褐色)砂質シルトを少量、S35/2(暗灰色)シルト質粘土ブロックを少量含む。
	2	100R2/3	暗褐色	シルト質粘土	100R2/3(褐色)粘質シルトを少量、S35/2(暗灰色)シルト質粘土を少量含む。
SK40	1	03/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	03/1(灰色)シルト質粘土ブロックを少量含む。腐植物・細粒の自然粒を少量含む。グライ化。
	2	03/1	灰色	粘土質シルト	03/2(1)オリーブ黒色)粘土質シルトブロックをやや多量、03/2(1)オリーブ黒色)粘土質シルトブロックをやや多量含む。炭化物粒を少量、腐化粒を微量に少量含む。グライ化。
	3	03/1	灰色	粘土質シルト	03/2(1)オリーブ黒色)粘土質シルトブロックを少量、03/2(1)オリーブ黒色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物粒を少量、腐化粒を微量に少量含む。腐化したシルトを少量含む。グライ化。
	4	03/1	灰色	シルト質粘土	03/2(2)黄褐色)シルト質粘土を少量、100R3/4(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物粒を少量、腐化粒を少量含む。
SK42	1	100R3/1	黄褐色	粘土質シルト	100R3/2(灰褐色)シルト質粘土を少量、100R3/4(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物粒を少量、腐化粒をやや多量含む。
	2	100R2/1	黄褐色	粘土質シルト	100R3/2(灰褐色)シルト質粘土を少量、100R3/4(褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物粒を少量、腐化粒をやや多量含む。

第30図 SK39・40・42土坑 平面図・断面図

## SK43 土坑 (第31図、図版17)

[位置] D2で検出した。

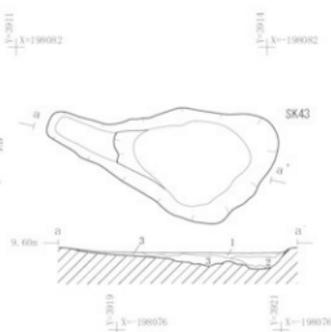
[重複関係] 他遺構との重複は無い。

[規模・形態] 平面形は不整形円形で、長軸約2.7m、短軸約1.3m、深さ約25cmである。断面形はU字型で、壁面は外傾しながら立ち上がる。底面は起伏し東側に向かい深くなる。

[主軸方位] 長軸でN-78°-Wである。

[堆積土] 3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



## SK44 土坑 (第31図、図版17)

[位置] D2・D3・E2・E3で検出した。

[重複関係] 小溝状遺構Ⅶ群より新しい。

[規模・形態] 平面形は不整形で、長軸約4.0m、短軸約1.5m、深さ約40cmである。断面形はやや不整形なU字形で、壁面はやや外傾しながら立ち上がる。底面は起伏し南端・北端は深さが15cm程度と浅い。

[主軸方位] 長軸でN-14°-Eである。

[堆積土] 3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



## SK45 土坑 (第31図、図版18)

[位置] D2・E2で検出した。

[重複関係] 小溝状遺構Ⅶ群より新しい。

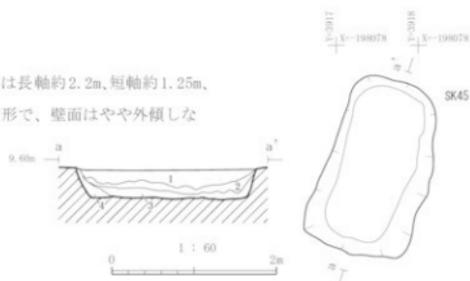
[規模・形態] 平面形は隅丸長方形で、検出規模は長軸約2.2m、短軸約1.25m、深さ約45cmである。断面形はU字形ないし箱形で、壁面はやや外傾しながら立ち上がる。底面は平坦である。

[主軸方位] 長軸でN-18°-Eである。

[堆積土] 4層を確認した。

人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK43	1	10B3/1	黒褐色	10B3/1 (褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量含む。10B3/2 (灰褐色) シルト質粘土を少量含む。炭化物粒を少量、酸化鉄粒をやや多量、マンガン粒をやや多量含む。
	2	10B3/2	黒褐色	10B3/2 (灰褐色) シルト質粘土を多量、10B3/3 (褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量含む。10B3/1 (褐色) シルト質シルトブロックを少量含む。炭化物粒を少量、酸化鉄粒をやや多量、マンガン粒をやや多量含む。
	3	10B3/3	にじみ状褐色	10B3/3 (黒褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量、10B3/4 (褐色) 粘土質シルトブロックを多量、10B3/2 (褐色) 粘土質シルトブロックを少量含む。酸化鉄粒を少量、酸化鉄を少量、マンガン粒をやや多量含む。
SK44	1	10B3/1	黒褐色	10B3/1 (灰褐色) シルト質粘土を少量、10B3/4 (褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量含む。炭化物粒を少量、酸化鉄をやや多量、マンガン粒を少量含む。
	2	10B3/2	黒褐色	10B3/2 (灰褐色) シルト質粘土を少量、10B3/3 (褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量含む。炭化物粒を少量、酸化鉄・マンガン粒をやや多量含む。
	3	10B3/3	にじみ状褐色	10B3/3 (黒褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量、10B3/2 (褐色) 粘土質シルトブロックを少量含む。酸化鉄をやや多量、マンガン粒を少量含む。
SK45	1	10B3/1	黒褐色	10B3/2 (灰褐色) シルト質粘土を少量含む。炭化物粒を少量、酸化鉄・マンガン粒をやや多量含む。
	2	10B3/2	黒褐色	10B3/2 (灰褐色) 砂質シルトブロックをやや多量含む。層位以下に10B3/3 (褐色) シルト質粘土が薄い層状に堆積する。粘土粒を少量、炭化物粒を少量、酸化鉄を多量、マンガン粒をやや多量含む。φ3~5mmの鉄を多量含む。
	3	10B3/3	黒褐色	10B3/3 (黒褐色) 砂質シルトブロックをやや多量含む。粘土粒を少量、酸化鉄を多量、マンガン粒をやや多量、φ3~5mmの鉄を多量含む。
	4	10B3/4	黒褐色	10B3/4 (褐色) 砂質シルトブロックをやや多量、10B3/1 (褐色) シルト質粘土を少量含む。炭化物粒を少量、酸化鉄を多量、マンガン粒をやや多量含む。

第31図 SK43~45土坑 平面図・断面図

### SK46 土坑 (第 32 図、図版 18)

[位置] F5 で検出した。

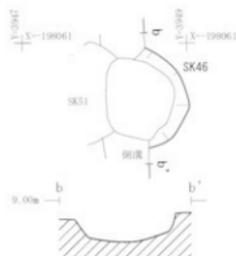
[重複関係] SK51 より新しい。

[規模・形態] 平面形は不整形形で、検出規模は長軸約 1.1m、短軸約 0.8m、深さ約 60 cm である。断面形は逆台形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。底面は平坦である。

[主軸方位] 長軸で N-3°-W である。

[堆積土] 1 層を確認した。自然堆積で埋没したと考えられる。

[遺物] 出土していない。



### SK47 土坑 (第 32 図、図版 18)

[位置] D3 で検出した。

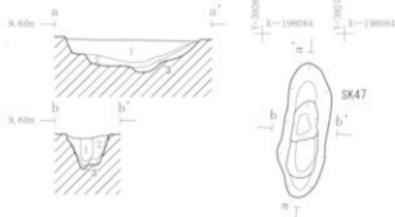
[重複関係] 他遺構との重複はない。

[規模・形態] 平面形は不整形円形で、検出規模は長軸約 1.65m、短軸約 0.54m、深さ約 20 ~ 40 cm である。断面形は逆台形で、壁面はやや外傾しながら立ち上がる。底面は起伏する。

[主軸方位] 長軸で N-5°-E である。

[堆積土] 3 層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



### SK48 土坑 (第 32 図、図版 18)

[位置] F5・G5 で検出した。

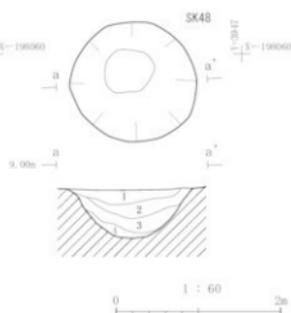
[重複関係] SK49 より新しい。

[規模・形態] 平面形は円形で、検出規模は長軸約 1.55m、短軸約 1.45m、深さ約 65 cm である。断面形は U 字形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。

[主軸方位] 長軸で N-79°-E である。

[堆積土] 4 層を確認した。自然堆積で埋没したと考えられる。

[遺物] 1 層から砥石片が出土した。K016 (図版 24-6) は使用により表面の左右側面方向に向かい斜めに傾斜している。裏面は比較的平らに使用しているが、刃物の縁が当たった部分がやや強めにえぐりこまれている。



遺構	層位	土色	土性	備考	
SK46	1	2.016/2	暗灰褐色	シルト・砂質シルト	グライ化、2.016/2 (暗灰褐色) 粘土がレンズ状に堆積、1019/1 (褐色) 砂の互層状堆積を含む。酸化鉄をやや多量含む。
	2	1019/1/2	灰黄褐色	粘土質シルト	1019/1/2 (近い黄褐色) 粘土質シルトブロックを極少量含む。
	3	1019/1/3	近い黄褐色	粘土質シルト	1019/1/3 (近い黄褐色) 粘土質シルトブロックを少量、015/1 (灰白) シルト質粘土を薄層状又はブロック状にやや多量含む。炭化物を少量。酸化鉄をやや多量、マンガンを少量含む。
SK47	1	1019/1/2	近い黄褐色	粘土質シルト	1019/1/2 (近い黄褐色) 粘土質シルトブロックを極少量、1019/1/3 (暗褐色) 粘土質シルトブロックを少量含む。酸化鉄をやや多量、0.3cm×3.0cm程度の塊を含む。
	2	2.016/2	暗灰褐色	シルト	グライ化、2.016/2 (暗灰褐色) 粘土がレンズ状に堆積する。酸化鉄分を多量含む。
	3	2.016/3	暗褐色	砂質シルト	グライ化、2.016/3 (暗灰褐色) 粘土がレンズ状に堆積する。部分的に 1019/1/1 (褐色) 砂の互層状堆積を含む。酸化鉄分をやや多量含む。
SK48	1	2.016/2	暗灰褐色	シルト	グライ化、2.016/2 (暗灰褐色) 粘土がレンズ状に堆積、砂の薄層を含む。酸化鉄分を多量含む。
	2	2.016/3	暗褐色	砂質シルト	グライ化、2.016/3 (灰色) 砂質シルト、1019/1 (褐色) 砂質シルトがレンズ状に堆積、砂の薄層を含む。酸化鉄分を多量含む。
	3	2.016/4	暗褐色	砂質シルト	グライ化、2.016/4 (灰色) 粘土、1019/1 (褐色) 砂質シルトが互層状に堆積、砂の薄層を含む。酸化鉄分を多量含む。

第 32 図 SK46 ~ 48 土坑 平面図・断面図

## SK49 土坑 (第33図、図版18)

[位置] F5 で検出した。

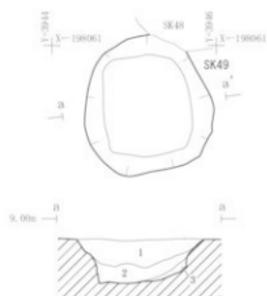
[重複関係] SK48 と重複関係にあり、SK49 が古い。

[規模・形態] 平面形は不整形形で、検出規模は長軸約 1.65m、短軸約 1.55m、深さ約 65 cm である。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦であり、壁面は外傾しながら立ち上がる。

[主軸方位] 南北方向で  $N-8^{\circ}-W$  である。

[堆積土] 3層を確認した。自然堆積で埋没したと考えられる。

[遺物] 出土していない。



## SK50 土坑 (第33図、図版18)

[位置] F5 で検出した。

[重複関係] 他遺構との重複はない。

[規模・形態] 平面形は円形で、検出規模は長軸約 1.15m、短軸約 1.0m、深さ約 30 ~ 40 cm である。断面形は逆台形で、底面は東側がやや深く、壁面は外傾しながら立ち上がる。底面に段差を有する。

[主軸方位] 長軸で  $N-26^{\circ}-W$  である。

[堆積土] 3層を確認した。自然堆積で埋没したと考えられる。

[遺物] 出土していない。



## SK51 土坑 (第33図、図版18)

[位置] F5 で検出した。

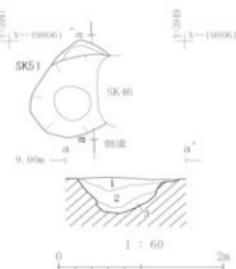
[重複関係] SK46 より古い。

[規模・形態] 平面形は不整形形で、残存規模は長軸約 1.16m、短軸約 0.7m、深さ約 45 cm である。断面形はU字形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。

[主軸方位] 長軸で  $N-22^{\circ}-E$  である。

[堆積土] 3層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考	
SK49	1	2.0105/2	暗灰黄色	粘土質シルト	グライセ、2.0105/2 (暗灰黄色) 粘土と 10100/1 (褐色色) シルトがレンズ状に堆積する。酸化鉄分を多量に含む。
	2	2.0105/2	暗灰黄色	粘土質シルト	グライセ、2.0105/2 (暗灰黄色) 粘土とレンズ状に堆積する。部分的に 10100/1 (褐色色) 砂の五層状堆積を含む。酸化鉄分をやや多量に含む。
	3	2.013/2	黒褐色	粘土質シルト	グライセ、2.013/1 (灰色) 粘土、10100/1 (褐色色) 砂質シルトが互層状に堆積する。砂の薄層を含む。酸化鉄分を多量に含む。
SK50	1	2.0105/2	暗灰黄色	粘土質シルト	グライセ、2.0105/2 (暗灰黄色) 粘土と 10100/1 (褐色色) シルトがレンズ状に堆積する。酸化鉄分を多量に含む。
	2	2.0105/2	暗灰黄色	粘土質シルト	グライセ、2.0105/2 (暗灰黄色) 粘土とレンズ状に堆積する。部分的に 10100/1 (褐色色) 砂の五層状堆積を含む。酸化鉄分をやや多量含む。
	3	2.0105/2	暗灰黄色	粘土質シルト	グライセ、2.0105/1 (灰色) 粘土、10100/1 (褐色色) 砂質シルトが互層状に堆積する。砂の薄層を含む。酸化鉄分を多量に含む。
SK51	1	2.0105/2	暗灰黄色	シルト	グライセ、2.0105/2 (暗灰黄色) 粘土と 10100/1 (褐色色) シルトがレンズ状に堆積する。酸化鉄分を多量に含む。
	2	2.0105/2	暗灰黄色	シルト	グライセ、2.0105/2 (暗灰黄色) 粘土とレンズ状に堆積する。部分的に 10100/1 (褐色色) 砂の五層状堆積を含む。酸化鉄分をやや多量含む。
	3	2.0105/2	暗灰黄色	砂質シルト	グライセ、2.0105/2 (暗灰黄色) 粘土とレンズ状に堆積する。部分的に 10100/1 (褐色色) 砂の五層状堆積を含む。酸化鉄分をやや多量含む。

第33図 SK49 ~ 51 土坑 平面図・断面図

SK52 土坑 (第 34 図、図版 18)

[位置] C2 で検出した。

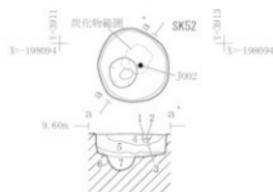
[重複関係] 他遺構との重複はない。

[規模・形態] 平面形は円形で、長軸約 0.9m、短軸約 0.88m、底面までの深さ約 20 cm である。断面形は箱形で、底面に直径 10 cm、深さ約 20 cm のピット状の落込みを持つ。

[主軸方位] 長軸で N-35° - E である。

[堆積土] 7 層を確認した。1 層は炭化物を多く含み、2・3 層は灰層である。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 1 層から舶載青磁の細片が出土した。



SK53 土坑 (第 34 図、図版 19)

[位置] C2 で検出した。

[重複関係] P665・675 より新しい。

[規模・形態] 平面形は隅丸長方形で、検出規模は長軸約 1.25m、短軸約 0.95m、底面までの深さ約 20 cm である。断面形は箱形で、壁面はやや外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦で工具痕が残る。

[主軸方位] 長軸で N-89° - W

[堆積土] 3 層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



SK54 土坑 (第 34 図、図版 19)

[位置] C2 で検出した。

[重複関係] P2 より新しい。

[規模・形態] 平面形は隅丸長方形で、検出規模は長軸約 1.70m、短軸約 0.9m、底面までの深さ約 30 cm である。断面形は逆台形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦で工具痕が残る。

[主軸方位] 長軸で N-80° - W である。

[堆積土] 5 層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考	
SK52	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3 (にがい) 黄褐色) 粘土質シルトを多数含む。炭化物を層上部に多量含む。方形プランを包含す。
	2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	灰を層底にやや多量含む。
	3		灰層		層底に堆積。
	4	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/2 (炭黄褐色) 砂質シルトブロックをやや多量、10YR4/4 (褐色) 粘土質シルト小ブロックをやや多量含む。壁土粒・炭化物粒を少量含む。
	5	10YR3/2	灰黄褐色	砂質シルトブロック	10YR3/2 (炭黄褐色) 砂質シルトブロック、10YR4/4 (褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量含む。壁土粒・炭化物粒を少量含む。
	6	10YR4/3	褐色	粘土質シルト	10YR3/2 (炭黄褐色) 砂質シルトブロック、10YR3/2 (炭黄褐色) 砂質シルトブロックをやや多量含む。壁土粒・炭化物粒を少量含む。
	7	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	10YR3/2 (炭黄褐色) 砂質シルトブロック、10YR4/4 (褐色) シルト質粘土ブロックをやや多量、10YR3/1 (黒褐色) 粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物、壁土粒を少量含む。
SK53	1	7.5YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/2 (炭黄褐色) シルト質粘土ブロックをやや多量含む。炭化物粒を少量、燐化鉄粒を少量、マンガン粒を少量含む。
	2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/2 (炭黄褐色) シルト質粘土ブロックをやや多量、10YR3/4 (黄褐色) シルトブロックをやや多量、10YR2/3 (暗褐色) 粘土質シルトブロックを少量含む。壁土粒・炭化物粒を少量、燐化鉄粒を少量に含む。マンガン粒をやや多量に含む。
	3	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/2 (炭黄褐色) シルトブロックを多量に含む。10YR3/4 (黄褐色) シルトブロックをやや多量、10YR3/3 (暗褐色) 粘土質シルトブロックを少量含む。壁土粒を少量、炭化物粒を少量、燐化鉄粒を少量、マンガン粒をやや多量含む。
SK54	1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/4 (黄褐色) 砂質シルトブロックを少量、10YR4/3 (黄褐色) シルト質粘土ブロックを少量含む。炭化物粒を少量、燐化鉄粒を少量、マンガン粒をやや多量含む。
	2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/4 (黄褐色) 砂質シルトブロックを少量、10YR4/3 (黄褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量含む。炭化物粒を少量、燐化鉄粒を少量、マンガン粒をやや多量含む。
	3	10YR4/2	にがい黄褐色	粘土質シルト	10YR3/1 (黒褐色) 粘土質シルトブロックを少量、10YR2/3 (暗褐色) 粘土質シルトブロックを多量含む。燐化鉄粒をやや多量含む。
	4	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/1 (黒褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量、10YR3/4 (黄褐色) 粘土質シルトブロックをやや多量含む。炭化物粒をやや多量含む。
	5	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/1 (黒褐色) 粘土質シルトブロックを少量、10YR3/4 (黄褐色) 粘土質シルト小ブロックを少量含む。燐化鉄粒をやや多量含む。

第 34 図 SK52 ~ 54 土坑 平面図・断面図



第35圖 遺構配置圖（東半部）



## 4. 溝跡

溝跡はSD1・2・5・6の4条を検出した。いずれも部分的な検出のため詳細は不明であるが、SD2・5・6の3条は調査区外へと延びることが確認されている。

## SD1 溝跡 (第36・37図、第9表、図版19)

[位置] B3・C3で検出した。

[重複関係] SK20・21より古い。北東端は河川跡内に確認されるII b層によって覆われている。

[規模・形態] 平面形は南西から北東方向へL字型に屈曲する。

検出長は屈曲部の南側で約3.6m、東側で約4.8mである。断面形は概ね逆台形を呈し、幅約25～80cm、確認面からの深さ約10～35cmである。

[主軸方位] 南西側N-16°-E・北東側N-8°-Wである。

[堆積土] 3層を確認した。いずれも自然堆積である。

[遺物] 出土していない。

## SD2 溝跡 (第35・37図、第9表、図版19)

[位置] F5～6・E6～8で検出した。

[重複関係] SK33、小溝状遺構I群より新しく、SD6、小溝状遺構IX群より古い。

[規模・形態] 検出長は約26.7mである。西端は河川跡に堆積するII b層によって覆われ、東端は調査区外へ延びる。断面形は概ね逆台形を呈し、幅約50～70cm、確認面からの深さ約15～20cmである。溝底面の標高は検出範囲東端で8.8m前後、西端で8.7m前後であり、西に向かい若干下り傾斜する。F6南西付近の底面では工具痕跡を明瞭に確認した。

[主軸方位] 方向はN-21°-Wである。

[堆積土] 4層を確認した。いずれも自然堆積である。

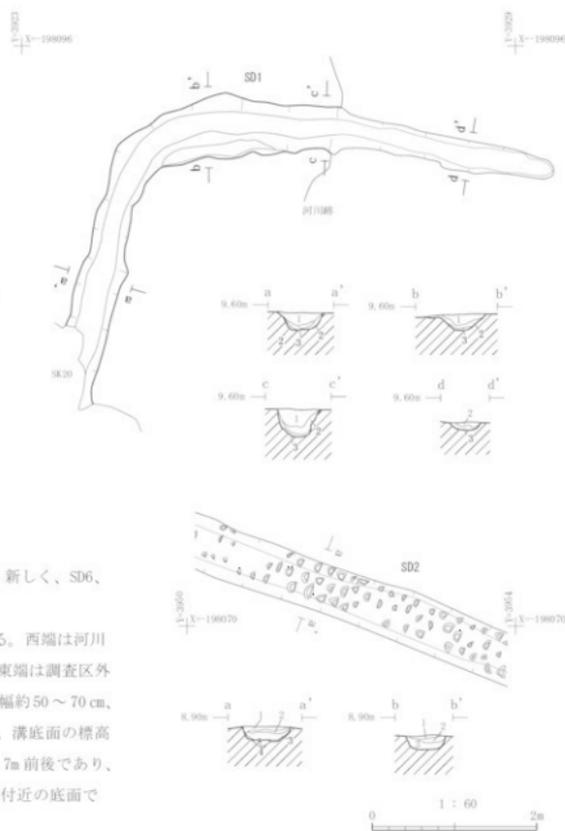
[遺物] E6・F5で縄文土器破片が若干出土しているが、E6・F6付近の基本層Ⅷ層で確認した遺物集中範囲からの混入と考えられる。他、非クロロ土器甕胴部破片、器種部位が不明な土器器細片が少量出土している。

## SD5 溝跡 (第35・38図、第9表、図版19・20)

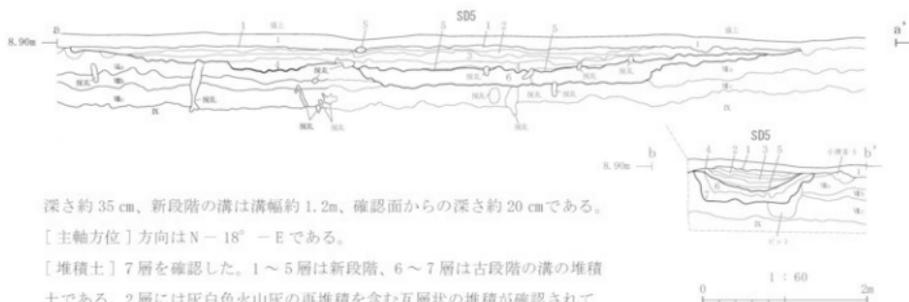
[位置] E9・F9で検出した。

[重複関係] 小溝状遺構II群・V群・VII群、SK39より新しい。

[規模・形態] 検出長は約9.0mで、南端及び北端は調査区外へ延びる。掘り下げは1条の溝として行ったが、断面観察により新旧2時期あると考えられる。古段階の溝は断面形は逆台形を呈し、幅約0.85～1.15m、確認面から



第37図 SD1・2 溝跡 平面図・断面図



第38図 SD5溝跡 断面図

深さ約 35 cm、新段階の溝は溝幅約 1.2m、確認面からの深さ約 20 cmである。

〔主軸方位〕方向は  $N-18^{\circ}-E$  である。

〔堆積土〕7層を確認した。1～5層は新段階、6～7層は古段階の溝の堆積土である。2層には灰白色火山灰の再堆積を含む互層状の堆積が確認されている。新段階の溝は自然堆積で埋没したと考えられる。古段階の溝はブロック土を多く含み、人為的に埋められた可能性がある。

〔遺物〕出土していない。

#### SD6 溝跡 (第35・39図、第9表)

〔位置〕D5・G5で検出した。

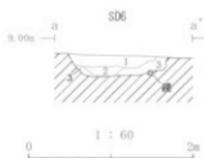
〔重複関係〕SD2、P672・677・680より新しい。

〔規模・形態〕検出長は約 33.4mで、南端及び北端は調査区外へ延びる。断面形は逆台形を呈し、幅約 0.6～1.36m、確認面からの深さ約 18.5～30 cm、調査区南壁断面の深さ約 50 cmである。

〔主軸方位〕方向は  $N-4^{\circ}-E$  である。

〔堆積土〕3層を確認した。いずれも自然堆積である。

〔遺物〕出土していない。



第39図 SD6溝跡 断面図

遺構	層位	土色	土性	備考	
300	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	2. 10YR/2(種戻黄褐色)シルト質粘土粘を多量、2. 10YR/1(黄褐色)シルト質粘土粘を少量含む。炭化粒を散在的にやや多量含む。
	2	2. 10Y/3	暗褐色	粘土質シルト	2. 10Y/3(黄褐色)シルト質粘を多量、2. 10Y/2(種戻黄褐色)シルト質粘土粘を少量、10Y/1(灰色)シルト質粘土粘を微量含む。
	3	2. 10Y/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	2. 10Y/3(黄褐色)シルト質粘を多量、10Y/1(灰色)シルト質粘土粘を微量含む。
300	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR/3(にぶい黄褐色)粘土質シルトをやや多量含む。
	2	10YR4/2	にぶい黄褐色	シルト	10YR/2(暗褐色)粘土質シルトをやや多量含む。
	3	10YR/4	褐色	シルト	10YR/3(にぶい黄褐色)粘土質シルトを多量、10YR/2(暗褐色)粘土質シルトを少量、10YR/1(褐色)砂を少量含む。
	4	10YR/4	褐色	シルト	10YR/2(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量、10YR/3(にぶい黄褐色)粘土質シルトをやや多量、10YR/1(褐色)砂を少量含む。互層状。
300	1	10YR/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。炭化粒を散在的に多量、白色粒を多量含む。
	2	10YR/3	暗褐色	粘土質シルト	ややグライイ色、2. 10Y/2(暗褐色)砂、2. 10Y/1(灰白色)シルト、2. 10Y/1(暗褐色)粘土質シルトが互層状に堆積する。炭化粒を散在的に多量含む。
	3	10YR/2	灰黄褐色	シルト	10YR/2(にぶい黄褐色)中細砂を多量、同色粘土質シルトを多量、10YR/1(黒褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。
	4	10YR/2	灰黄褐色	シルト	10YR/2(にぶい黄褐色)中細砂を少量、10YR/1(褐色)シルトブロックを少量、10YR/1(黒褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。
	5	2. 10Y/3	種オリーブ褐色	粘土質シルト	粘土粘を少量、炭化粒を散在的に多量含む。互層状に堆積する。
	6	10YR/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR/2(暗褐色)粘土質シルトブロックをやや多量、10YR/3(にぶい黄褐色)粘土質シルトブロックをやや多量含む。
	7	10YR/4	褐色	粘土質シルト	10YR/2(暗褐色)粘土質シルトブロックを多量含む。炭化粒を散在的に少量含む。
300	1	10YR/2	暗褐色	シルト質粘土	10YR/2(にぶい黄褐色)粘土質シルトブロックを少量、10YR/1(黒褐色)粘土質シルトブロックを少量、10YR/2(灰黄褐色)シルト質粘土粘を少量含む。炭化粒を少量、炭化粒を多量含む。
	2	10YR/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量、10YR/3(暗褐色)粘土質シルトブロックを少量含む。φ30mm以下のα3cm以下級砂を少量、炭化粒を多量含む。

第9表 SD1・2・5・6溝跡 土層註記表

## 5. 小溝状遺構群

畑の耕作に関連する遺構の可能性が指摘されている「小溝状遺構群」は、東西方向3群（小溝状遺構Ⅰ～Ⅲ群）と南北方向6群（小溝状遺構Ⅳ～Ⅸ群）のあわせて9群を検出した。本来的には基本層Ⅳ層が小溝状遺構群の堆積土と考えられ、調査では基本層Ⅴ層上面あるいはⅧ層上面にまで掘りこまれた溝の下部のみが検出された状況である。概ね調査区の全域に分布しているが、基本層Ⅳ層の堆積が確認された調査区北東部～北部においては検出密度が濃く、溝の深さも深い傾向が観察される。

確認された他の遺構との重複関係から、東西方向の小溝状遺構Ⅰ～Ⅲ群よりも南北方向の小溝状遺構Ⅳ～Ⅸ群の方が新しいと考えられるが、出土遺物が少ないことからどの程度の時間幅の中での出来事であるのか判断する事は出来なかった。また、小溝状遺構Ⅰ群とした17条の小溝は、野外調査時は同じ一群としており、整理作業においてⅠ-1～9とⅠ-10～17では方向に違いがある事が判明したが、ここでは現場での所見を優先し同じ小溝状遺構Ⅰ群とする。以下では、平行する溝間の間隔・分布域の違いなどから細分した9群の小溝状遺構群について記載する。

### 小溝状遺構Ⅰ群（第35・41図、第10表、図版21）

〔位置〕F9・G9で検出した。

〔重複関係〕小溝状遺構群Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群より古く、SK39より新しい。

〔規模・形態〕17条を確認した。確認規模は距離約15m・幅約12mで、溝幅約20～35cm、深さ約5～20cmである。

〔主軸方位〕N-80°-W

〔堆積土〕2層を確認した。

〔遺物〕出土していない。

### 小溝状遺構Ⅱ群（第35・41図、第10・11表）

〔位置〕E9・F9で検出した。

〔重複関係〕小溝状遺構群Ⅵ群・SD5溝跡より古く、SB2掘立柱建物跡より新しい。

〔規模・形態〕11条を確認した。確認規模は距離約6m・幅約10mで、溝幅約20～35cm、深さ約5～15cmである。

〔主軸方位〕N-72°-W

〔堆積土〕1層を確認した。

〔遺物〕出土していない。

### 小溝状遺構Ⅲ群（第35・41図、第11表）

〔位置〕G8～9・F9で検出した。

〔重複関係〕小溝状遺構群Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群より古く、小溝状遺構群Ⅰ群より新しい。

〔規模・形態〕10条を確認した。確認規模は距離約17m・幅約10mで、溝幅約20～35cm、深さ約10～20cmである。

〔主軸方位〕N-77°-W

〔堆積土〕2層を確認した。

〔遺物〕土師器の細片が出土している。

### 小溝状遺構Ⅳ群（第35・40・41図、第11表）

〔位置〕F8～9・G8～9で検出した。

〔重複関係〕小溝状遺構群Ⅴ群より古く、小溝状遺構群Ⅰ・Ⅲ群より新しい。

〔規模・形態〕12条を確認した。確認規模は距離約15m・幅約14mで、溝幅約25～35cm、深さ約10～15cmである。

[主軸方位]N-4°-E

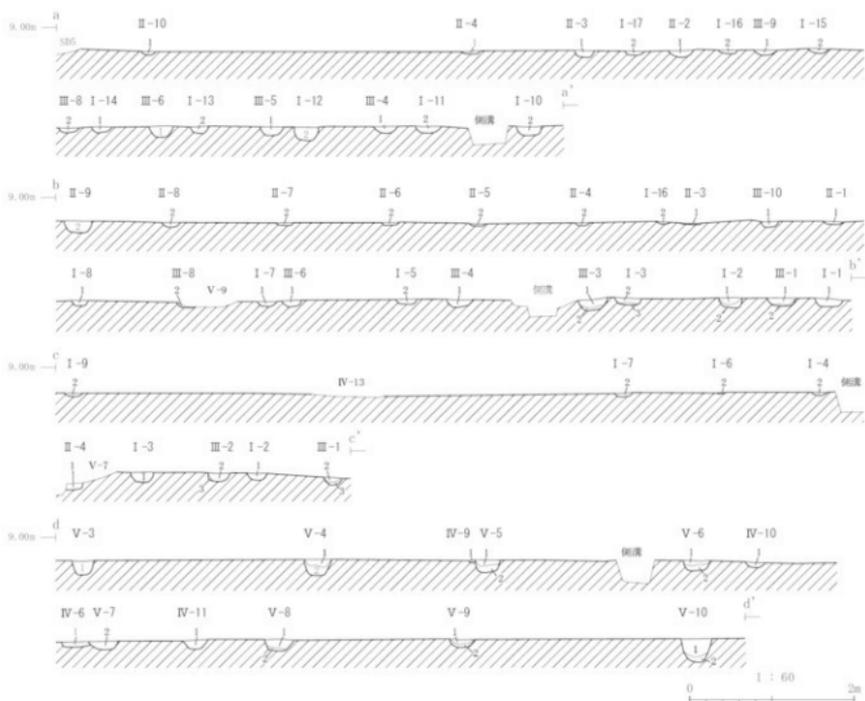
[堆積土]1層を確認した。

[遺物]IV-5より石鏃が1点出土しており、第41図に図示した。黒曜石製の石鏃で、先端部を使用に伴う衝撃剝離により欠損する。左右やや非対称で右側脚部が若干短い、全体的な形状は岡基のいわゆるアメリカ式石鏃である。

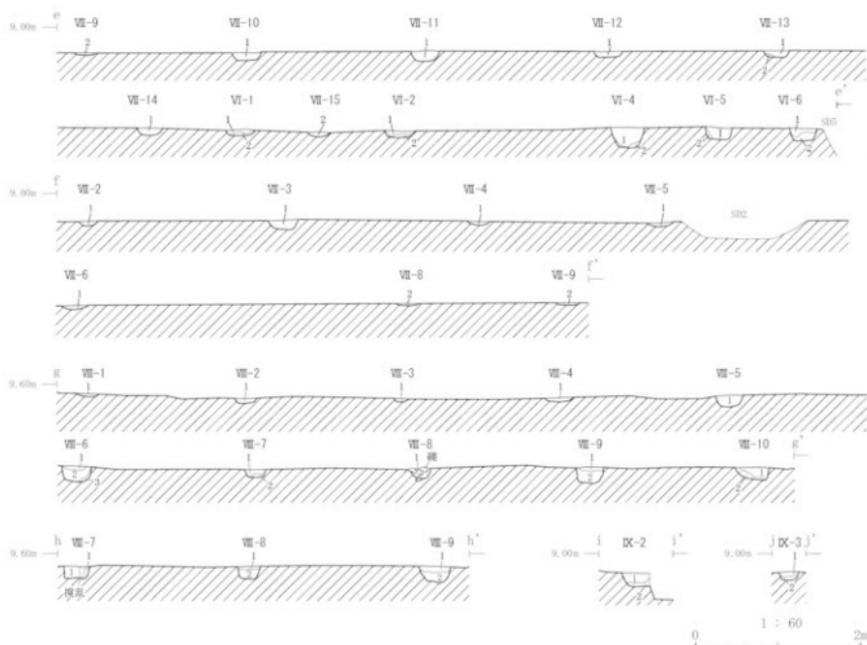


図版番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	図種	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	備考
第40図 1	K002	図版21-8	小溝IV-5 1層	打製石器	石鏃	黒曜石	12.00	1.30	0.28	10.81	先端部を衝撃剝離により欠損

第40図 小溝状遺構群 出土遺物



第41図 小溝状遺構群 断面図(1)



遺構群名	層位	土色	土性	備考
Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	1	10YR3/1 暗褐色	粘土質シルト	2.S15/2 (埋戻土) シルト質粘土ブロックを多量, 10YR3/1(黄) 砂質シルト小ブロックを少量含む。
	2	10YR3/2 濃い黄褐色	粘土質シルト	10YR3/1(暗褐色) シルト質粘土ブロックを少量, 2.S15/2 (埋戻土) シルト質粘土ブロックを少量含む。
	3	10YR3/1 褐色	粘土質シルト	10YR3/1(暗褐色) シルト質粘土ブロックを少量, 2.S15/2 (埋戻土) シルト質粘土小ブロックを少量含む。
Ⅴ	1	10YR3/1 暗褐色	シルト質粘土	10YR3/1(暗褐色) シルト質粘土ブロックを多量, 2.S15/2 (埋戻土) シルト質粘土ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。
	2	10YR3/2 濃い黄褐色	シルト質粘土	10YR3/1(暗褐色) シルト質粘土ブロックを多量, 10YR3/1(黄) 砂質シルト小ブロックを少量, 2.S15/2 (埋戻土) シルト質粘土ブロックを少量含む。

第42図 小溝状遺構群 断面図(2)

小溝状遺構Ⅴ群 (第35・41図、第11表、図版21)

[位置] F8～9、G7～9で検出した。

[重複関係] 小溝状遺構群Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ群より新しい。

[規模・形態] 11条を確認した。確認規模は距離約12m・幅約24mで、溝幅約20～40cm、深さ約10～30cmである。

[主軸方位] N-7°-W

[堆積土] 2層を確認した。

[遺物] Ⅴ-4より敲石が1点出土している。

小溝状遺構Ⅵ群 (第35・42図、第11表)

[位置] E9・F9グリッドで検出した。

[重複関係] SD5溝跡より古く、SB2・3掘立柱建物跡、小溝状遺構群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ群より新しい。

[規模・形態] 16条を確認した。確認規模は距離約14m・幅約8mで、溝幅約35～40cm、深さ約10～30cmである。

[主軸方位] N-6°-E

[堆積土] 2層を確認した。

[遺物] 出土していない。

**小溝状遺構VII群 (第35・42図、第11表)**

[位置] D6～7、E6～8、F7～9グリッドで検出した。

[重複関係] SD2溝跡、小溝状遺構群IX群より古く、S14堅穴住居跡、SB1掘立柱建物跡、SX3性格不明遺構より新しい。

[規模・形態] 15条を確認した。確認規模は距離約16m・幅約32mで、溝幅約25～40cm、深さ約5～15cmである。

[主軸方位] N-7°-E

[堆積土] 2層を確認した。

[遺物] 出土していない。

**小溝状遺構VIII群 (第36・42図、第11表)**

[位置] D3、E・F2～4グリッドで検出した。

[重複関係] SB4掘立柱建物跡、SK44土坑より古い。

[規模・形態] 11条を確認した。確認規模は距離約14m・幅約18mで、溝幅約20～40cm、深さ約5～25cmである。

[主軸方位] N-5°-W

[堆積土] 3層を確認した。

[遺物] 出土していない。

**小溝状遺構IX群 (第35・42図、第11表)**

[位置] F5・G5グリッドで検出した。

[重複関係] SD2溝跡より新しい。

[規模・形態] 3条を確認した。確認規模は距離約15m・幅約4mで、溝幅約25～35cm、深さ約10～20cmである。

[主軸方位] N-6°-W

[堆積土] 2層を確認した。

[遺物] 出土していない。

遺構名	長さ (m)	幅 (cm)	深さ (cm)	検出距離 (m)	重複関係	
					旧	新
I群	1	2.9	35	8.5		IV-8, V-9
	2	3.3	35	10		IV-5+6+8, V-7+9
	3	3.0	33	11		IV-2+6, V-6+8
	4	0.6	30	12		V-7
	5	1.0	35	10		V-8+9
	6	0.6	30	7.5		IV-11, V-7
	7	2.9	30	10		IV-10+11, V-7+9, M-10
	8	1.0	35	10		M-4
	9	0.5	30	10		M-11
	10	0.7	30	15		M-5, V-10
	11	0.9	35	8		F273, M-5, V-10
	12	0.9	30	8	F273	M-5, V-10
	13	1.0	30	12		M-6
	14	1.0	25	5		M-7+8, M-6
	15	0.9	30～30	7		F342, M-4+6
	16	0.8	30	5		F332, M-9, M-6
	17	1.0	25	5	SK39	M-3
II群	1	3.8	20～28	4	F266	IV-4
	2	0.3	30	10.5		IV-6
	3	0.3	25～35	4	SK39	IV-2+3+6
	4	0.3	25～30	4		IV-4+6
	5	2.0	20～30	6		IV-4

第10表 小溝状遺構群 計測表(1)

遺構名	長さ (m)	幅 (m)	高さ (m)	検出距離 (m)	遺構形状	発見関係	
						目	筋
Ⅱ期	6	0.20	20	4.5	約1.3	SRP3	IV-4
	7	3.5	20×20	3		IV-2+4	
	8	0.9	18×25	5		SRP4	IV-4, 埋込
	9	0.9	20×40	16		IV-3+4	
	10	0.7	20	8		SR2	SR, IV-5, -6
Ⅲ期	11	0.7	20×25	5	約1.6	SR	IV-7+8, V-6+10
	12	11.1	25×25	10×12		IV-3+8, V-3+10, 埋込	
	13	15.1	25×25	2×17		IV-7, V-9+11, 埋込	
	14	0.1	25×25	10×20		P28, IV-3+4, V-3+11, 埋込	
	15	0.8	25×20	15		V-10	
	16	0.8	25×23	6		F30, VI-6, V-9	
	17	0.6	20	9.3		I-7	埋込
	18	0.5	18×25	7		P30, I-7	V-9, VI-6
	19	0.6	22×20	10		I-9	IV-4, VI-6
	20	0.9	20	5		I-9	P31, P32, IV-4
Ⅳ期	1	1.3	20	5.5	約1.7		
	2	6.9	12	15.5			
	3	3.0	12×15	5		I-3, 埋-2+4	
	4	0.9	18×20	5		I-2, 埋-4	
	5	0.2	15×22	1		I-2+3, 埋-2	V-7
	6	0.8	15×20	6.5		I-2+3, 埋-2	
	7	0.9	16×18	2		I-3, 埋-1+2	埋込
	8	0.6	15×18	3		I-1+3, 埋-1+2	埋込
	9	0.2	20×28	6		P31	V-8, P31+SR+SR+SR+P33
	10	0.9	25×20	5×12		I-6	P34
	11	0.1	25×20	2		I-5+6	V-7, P31
	12	0.9	15×28	10		I-6	P32
	13	3.3	20×23	4			
Ⅴ期	1	0.0	15×20	9	約2.3		
	2	0.8	20×20	3			埋込
	3	13.0	15×40	4		P38+SR+SR	
	4	12.0	25×40	21		P30+SR+SR	P33
	5	10.2	25×22	9		P33+SR+SR+SR+SR, 埋-2+3, IV-9	P33
	6	10.2	25×28	12×20		P30+SR, I-3, 埋-1+2+4	埋込
	7	9.8	30×15	7×17		I-2+6, 埋-1+2+4, IV-10	
	8	16.0	28×42	12×18		I-2+3+5, 埋-1+2+4	埋込
	9	0.0	20×40	10×14		I-1+3, 埋-1+4+8	埋込
	10	0.1	30×40	16×27		P32+SR, I-3+5, 埋-1+3	埋込
	11	0.0	30	13		埋-3+4	埋込
Ⅵ期	1	0.6	30×40	11	約1.6	P39, 埋込	P39, 埋込
	2	14.0	30×45	6		SR-P3, P32, 埋-2+7	埋込
	3	0.0	30	9		埋-9	
	4	16.0	40×50	28		I-9+10, 埋-1+3+9, 埋-9+10	埋込
	5	0.0	30×35	14		P38, 埋-1+10	
Ⅶ期	6	0.0	28×48	10×15	約2.7	SR, SR9, P32+SR, I-7+9, 埋-2+4+10, 埋-6+8+9	
	1	2.5	20×20	3×10		P31	P19+SR
	2	0.2	25×20	3×10			埋込
	3	0.1	20×40	3×10			SR, 埋込
	4	3.1	25×20	10×15			SR, 埋込
	5	2.5	25×20	3×10		SR	SR
	6	8.0	20	3×10		SR	SR, P39, 埋込
	7	1.9	25×20	3×10			
	8	9.4	25×25	3×10			SR, P39
	9	16.0	20×40	3×10		S11	SR, 埋込
	10	15.0	25×25	15×20		S11	SR
	11	15.0	25×40	10×15			SR, P31
	12	15.1	30×40	10×15			P33+SR+SR+SR
	13	15.0	30×40	10×15		P38+SR	埋込
	14	14.2	30×40	3×10		SR-P2, I-10	
15	7.0	25×20	3×10	SR-P2			
Ⅷ期	1	0.7	25×20	15×20	約2.3		
	2	0.0	25×20	15×20			
	3	11.0	20	20×25			
	4	12.2	40	20×25			S8+P2, S813
	5	12.0	30	20×25			S8+P1, S814
	6	13.0	40	20×25			
	7	14.2	30	25×30			
	8	14.5	25	20×30			P615, 河川跡内土層
	9	11.6	30	25×30			P30+SR, 河川跡内土層
	10	0.0	40	25×30			埋込+河川跡内土層
	11	3.1	30	20×25			河川跡内土層
Ⅸ期	1	2.0	30	3×10	約2.5	SR	
	2	1.8	30	20×25		SR	
	3	0.1	30	3×10			

第11表 小溝状遺構群 計測表(2)

## 6. 性格不明遺構

### SX1 性格不明遺構 (第43図、図版21)

[確認] C2・3で検出した。

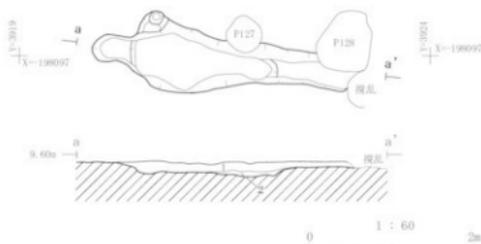
[重複関係] P127・P128と重複関係にあり、本遺構が古い。東側は攪乱される。

[規模・形態] 平面形は概ね不整な溝状を呈し、規模は長軸約3.1m以上、短軸約0.8m、深さ約15～20cmである。短軸の断面形は浅いU字形で、壁面は緩やかに立ち上がる。底面はやや凹凸がある。

[主軸方位] 長軸基準でN-84°-Wである。

[堆積土] 2層を確認した。人為的に埋められたと考えられる。

[遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考	
SX 1	1	109K3.2	黒褐色	シルト	2.015/11 黄褐色シルト質砂ブロックを多数、団粒物粒・塵土粒を微量含む。
	2	109K3.2	黒褐色	シルト	2.015/11 黄褐色シルト質砂ブロックを多数、団粒物粒を微量に少量含む。

第43図 SX1 性格不明遺構 平面図・断面図

### SX3 性格不明遺構 (第44図、図版21)

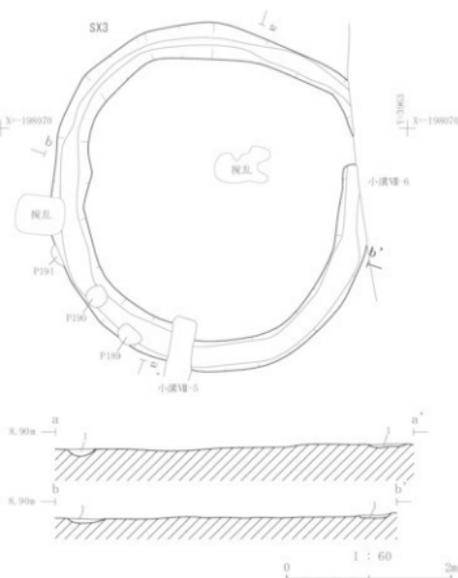
[確認] E6・E7で検出した。

[重複関係] 小溝VII-5・6、P189・190・191と重複関係にあり、本遺構が古い。西側の一部を攪乱される。

[規模・形態] 平面形は円周形の溝状で、規模は外縁で長軸約4.2m、短軸約4m、溝幅は約0.5mで深さ約3～9cmである。断面形は浅いU字形で、立ち上がりは残存状況が悪いため判然としない。

[堆積土] 1層を確認した。埋没過程は不明である。

[遺物] 出土していない。



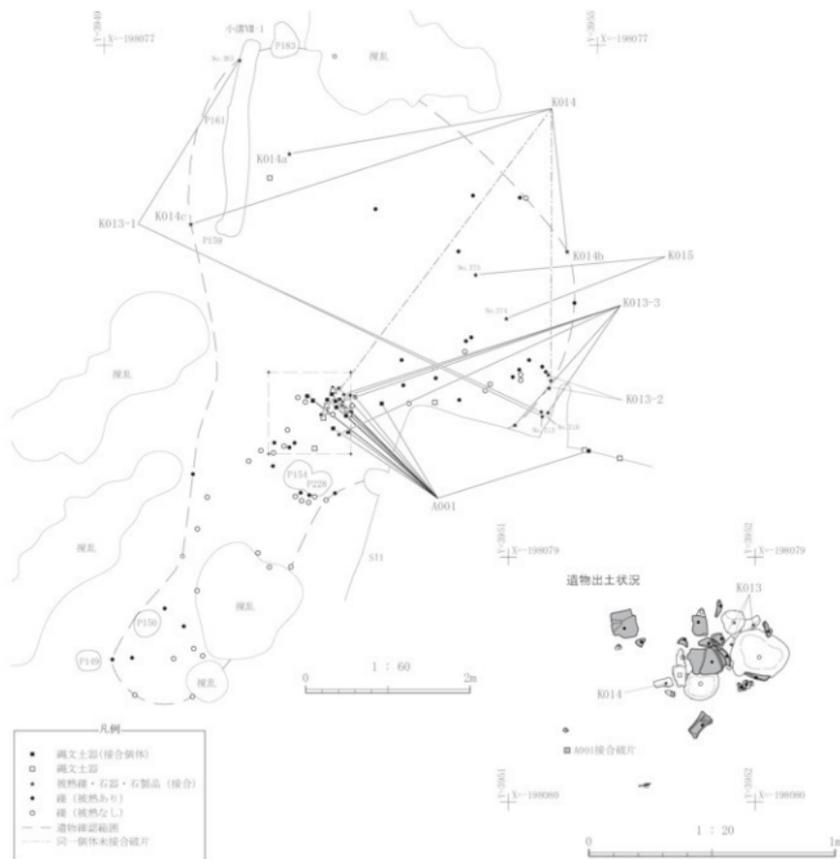
遺構	層位	土色	土性	備考	
SX 3	1	011/2	灰茶チープ色	シルト	015/21 灰茶チープ色シルトブロックを少量、団粒物粒・白色粒を少量含む。層全体アライ化。

第44図 SX3 性格不明遺構 平面図・断面図

## 第2節 遺構外出土遺物

## 1. 遺物集中範囲

遺構検出作業の過程において、D6・E6グリッドの西半部で縄文土器片と被熱礫、分割された礫などがまとまりを持って出土する地点が確認された（第45～47図・図版24・25）。遺物の出土層は基本層Ⅷ層中で、縄文土器が出土した範囲を中心に精査したがが炉跡や住居跡等の明瞭な遺構は確認することが出来なかった。このため、ここでは遺物集中出土地点として、その遺物の内容と出土状況について記載する。出土遺物の多くは被熱の影響で割れた礫であり、剥片剥離作業の痕跡が認められないため図示していないが、人の活動の結果として生じた状況であることを鑑み、特にK013についてはその接合状況を写真として掲載する（図版25）。



第45図 遺物集中範囲 平面図

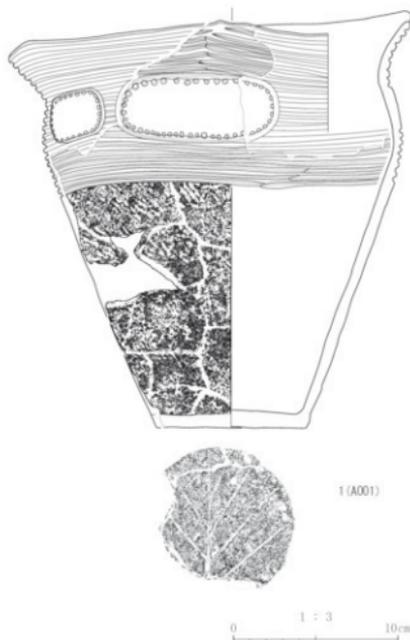
K013 はやや粗粒な頁岩の自然礫で、12 点の破片からなる。いずれの破片にも剥片剥離作業の形跡が認められないため、被熱によるハジケ割れや剥落により分割されていたものと考えられる。12 点の破片の合計重量は 6.8 kg で、11 点の破片が接合した（図版 25）。表面に観察される被熱による赤化範囲と接合した破片との間には明瞭な不整合が観察される事から、少なくとも 2 回は被熱していると考えられるが、出土箇所周辺の土壌には目立った被熱範囲は確認することが出来なかった。

1 回目の被熱により K013-1 と K013-2・3 の大きく二つに分割されている。K013-1 にはこの後、別に被熱した状況は観察されない。2 回目の被熱により K013-2 と K013-3 とが分割される。K013-3 は最終的に 6 点の破片に分割されるまで、継続的に被熱している。図 44 はこれらの接合関係図である。K013-2 と K013-3 は比較的近傍で出土しているが、K013-1 のみ若干離れた場所から出土している事から、1 回目の被熱と 2 回目の被熱との間には、時間的・空間的な差が生じていた可能性が推測される。

K014（図版 25）は 5 点の破片からなる被熱礫で、内 3 点が接合している。石材は粗粒の凝灰岩である。いずれの破片にも剥片剥離作業の形跡は認められない。

K015（図版 24-10）はやや扁平な自然礫を素材とする敲石で、2 点の破片が接合している。被熱の影響は認められない。下端部にわずかに敲打痕が観察されるが、内在する節理によって使用時に割れてしまったものと見られ、使用頻度はあまり高くない。上部端側を欠損するが、こちらも使用に伴って節理割れをおこしたものと考えられる。

A001（第 46 図-1）は 17 点の破片が接合したもので、底部から口縁部までの多くが残存する。口縁は 6 単位の緩やかな波状を呈し、口縁から上半部にかけて 20 条の平行沈線が横位に引かれている。頭部直下には長楕円形の沈線により区画された無文範囲が 7 か所存在し、区画の内側には円形刺突具による浅い刺突文が縁取り状に並ぶ。胴下半部は磨滅が顕著の為定かではないが、縄文が地文として施文されていたと考えられる。底部には木葉痕が残る。



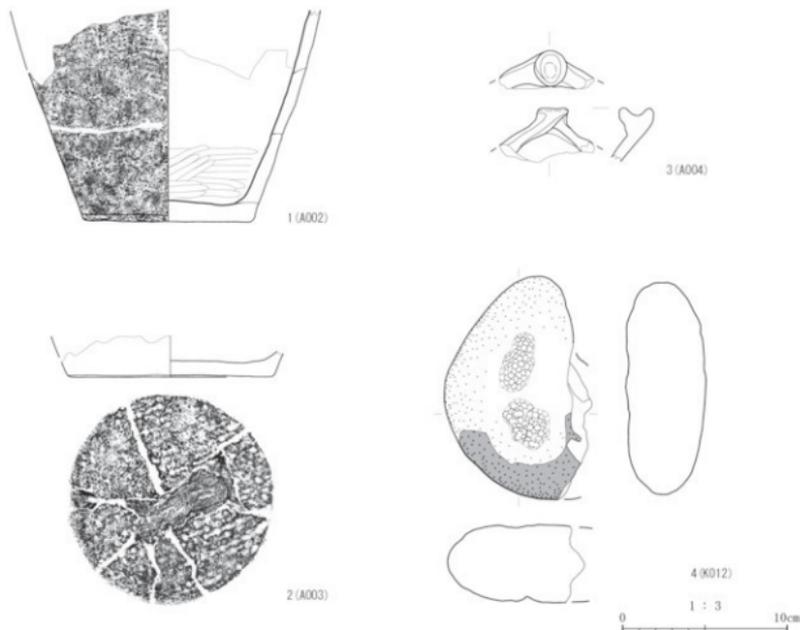
図版番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
第 46 図 1	A001	図版 29-9	埋藏	縄文土器	鉢	口縁部～ 胴部～底径 (口縁部まで)	21.7	35.5	9.3	平行沈線文 (20 条)、 刺突文、底部に木葉痕。	磨耗	本文は口縁部で 切断 (図版 29-9)

第 46 図 遺物集中範囲 出土遺物

## 2. その他の出土遺物

遺構外で出土した遺物は、前述したD6・E6に集中しており出土量も多くない。全体で約150点の遺物が出土しているが、そのほとんどが細片であり図示し得なかった。このうち4点を図示した。

図46-1はF8グリッドで出土した縄文土器である。磨滅が著しく判然としなが、地文にLR縄文が施文されている。2はG5グリッドの調査区北壁において基本層X層中より出土した縄文土器の底部破片である。3はE4グリッドの河川跡範囲内のX層上面より出土した。波状を呈する土器の口縁突起破片と見られるが詳細は不明である。4は基本層Ⅶ層上面より出土した礫石類である。比較的扁平な自然礫を素材とし、表裏面のほぼ中央部分に敲打痕の累積箇所が観察される。下半の一部が被熱により黒化している。



図版番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	部種	部位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	外面調整	内面調整	備考
第47図 -1	A002	図版 28-13	F8 グリッド	縄文土器	甕	胴部~底部	—	(12.9)	16.3	摩耗	底面下部~底面にヘラナマシ ヘアコ摩合	底文は摩耗で 判別不可
第47図 -2	A003	図版 28-16	G5層	縄文土器	甕	胴部~底部	—	(12.5)	12.4	胴部下部は細粒のケズリ。 底面磨代痕。		地文不明
第47図 -3	A004	図版 28-15	F1/A層	縄文土器	鉢	口縁部	—	—	—			器底口縁部見
図版番号	登録番号	写真番号	遺構/層位	種別	部種	石種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	備考	
第47図 -4	K012	図版 28-14	基本層Ⅶ	礫石類	礫石類	石英流石	13.67	8.92	4.96	(765.9)	右側縁部を一部欠損。一部黒化。	

第47図 その他の出土遺物

## 第4章 まとめ

### 第1節 検出遺構について

今回の調査区は、都市計画走路「川内・柳生線」の建設に伴う王ノ塚遺跡第1次調査区と配送センター建設に伴う第4次調査区に近接した位置にある。ここではこれらの調査成果と比較しながら各遺構についてまとめる。

#### ・竪穴住居跡

4軒の竪穴住居跡を、D・E-6～8グリッドで検出した。この範囲の標高は周辺に比べて若干高くなっており、このため、S12は現代の水田耕作により床面が削平され、掘り方のみを検出となった。

竪穴住居跡内の出土遺物が少ない中、S14からは比較的遺物がまるとまって出土した。主な出土遺物は非クロロ土師器で、有段で平底に近い丸底を呈する坏等があることから、国分寺下層式に比定され、8世紀前半のものと考えられる。また、S13・4の堆積土中から出土した遺物が接合したことから、これらの住居跡は近い時期に埋没したと考えられる。4軒の住居跡は出土遺物が主に非クロロ土師器であることから概ね奈良時代のものと考えられるが、同時に存在していたかは不明である。

今回の調査区の西側に隣接する王ノ塚遺跡第1次調査Ⅱ・Ⅸ区では、7世紀第3四半期後半から第4四半期前半頃の竪穴住居跡が1軒、8世紀初頭頃の竪穴住居跡が1軒確認されている。4軒の竪穴住居跡と第1次調査で検出した住居跡は時期が異なり、今回確認した河川跡を挟んで距離が100m以上離れていることから、直接的な関係はないと考えられる。

#### ・掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、河川跡の東側で3棟(SB1～3)、西側で2棟(SB4・5)を検出した。SB2は小溝状遺構Ⅱ・Ⅵ・Ⅶ群、SB3は小溝状遺構Ⅶ群より古く、SB4は小溝状遺構Ⅶ群より新しいことが確認できたが、直接的な重複や小溝との相互関係からこれらの時期はわからなかった。

第1次調査Ⅲ区では中世の掘立柱建物群を確認している。SB4・5から近い位置にあることから、SB4・5もこの建物群の一部である可能性がある。これに対して河川跡を挟んで東側にあるSB1～3は距離が離れており、小溝状以降群より古いことから直接的な関係はないと考えられる。

#### ・土坑

今回の調査で検出した40基の土坑は、重複関係がないものが多く、遺物もほとんど出土していない。そのため個々の性格が不明なものも多いが、SK1からは近世陶器片、SK40・52からは船載青磁片が出土していることから、SK1の時期は近世以降、SK40・SK52の時期は中世以降であることが考えられる。また、これらの土坑の中にはSK45・53・54のような方形のものや、SK42のような不整形のものがある。方形のものは底面が平坦で壁が急激に立ち上がり、堆積土も人為的に埋められたと考えられることから、土壇墓の可能性もある。不整形のものは浅く、底面に凹凸があり壁は緩やかである。また、堆積土が多くの小溝状遺構群と類似していることから畑の耕作痕の可能性もある。

#### ・溝跡

調査で検出した4条の溝跡は、遺物がほとんど出土していないため時期は不明である。SD1は東端と南端、SD2は北西端が途切れているが、人為的に止められたものか自然に消滅したのかは不明である。SD5は断面の状況から2時期あると考えられ、新段階の溝跡の堆積土からは平安時代に降下したと考えられる灰白色火山灰ブロックを確認した。このことから新段階のSD5は10世紀前葉以降に機能が停止したと考えられる。

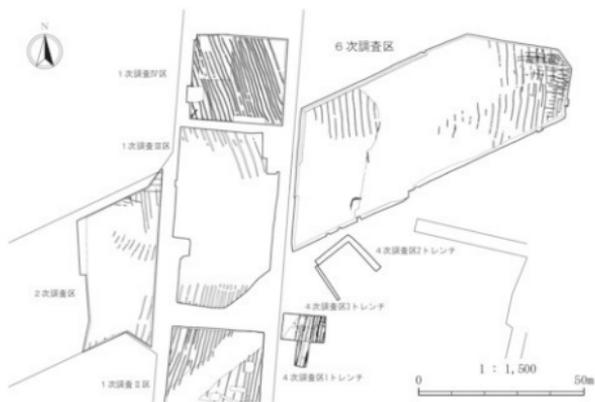
今回の調査区は第1次調査で確認された中世全体区画溝の北東側の延長線上にあるが、これらの溝跡群は確認できなかった。



### ・小溝状遺構群

小溝状遺構群は、東西方向3群（Ⅰ～Ⅲ群）、南北方向6群（Ⅳ～Ⅸ群）を検出した。調査区全域で確認しているが、特に調査区北東部での確認が多く、残存状況も良好である。一方で中央部は分布が希薄で残存状況も悪い。これは河川跡を含む東側が削平により段差が形成された際に、東側が低い地形であったため、この地区が大きく削平されたためと考えられる。小溝状遺構群は、細い溝が一定の間隔で平行し、様々な方向の群を形成して分布していることから、畑の耕作痕と考えられる。Ⅷ群を除き、南北方向のものは東西方向のものより新しいことが確認でき、Ⅶ群はSI4より新しいことから8世紀前半以降のものと考えられる。小溝状遺構群からは遺物がほとんど出土しておらず、多くの小溝状遺構群の詳細な時期は不明である。

今回の調査区が旧荒川に近い位置にあり、溝間の距離や方向が異なるものの、王ノ塚遺跡第1次調査、第4次調査でも小溝状遺構群が確認されていることから、地下鉄南北線富沢駅周辺で確認されている古墳時代から古代にかけての耕作帯がこの地区まで広がっていることを確認した。



第49図 小溝状遺構群の分布

### ・河川跡

調査区のほぼ中央で南北方向の河川跡を検出した。近世の水田耕作土の可能性のあるⅡ層が河川堆積層の上に堆積していることから、近世までに埋没した可能性が考えられる。河川跡は、上端の幅が10.5mであり、北から南へ流れていたと考えられるが、河川跡の南側延長線上に位置している王ノ塚遺跡第4次調査では確認されていない。また、第1次調査でも確認されていないことから、河川跡は南東に逸れていると考えられる。

## 第2節 出土遺物について

今回の調査では約700点の遺物が出土した。内訳は、縄文土器54点、土師器502点、須恵器14点、陶磁器26点、金属製品6点、石製品132点で、土器の多くは堅穴住居跡と堅穴住居跡付近のⅧ層遺物集中範囲から出土している。土器は小片がほとんどであり、器形が復元できるものは少ない。

### ・縄文土器

主に北壁断面トレンチⅨ層、中央トレンチX b層、Ⅷ層遺物集中範囲とその周辺から出土している。出土した土器片は、口縁が6単位の緩やかな波状を呈する鉢（A001・第46図-1）や口縁突起破片（A004・第47図-3）等で、縄文時代後期中葉頃のものと考えられる。Ⅷ層遺物集中範囲の周辺からは遺構が確認できなかったが、この付近の

標高は周辺に比べて若干高くなっており、第1次調査の微高地での縄文土器の出土状況と類似している。

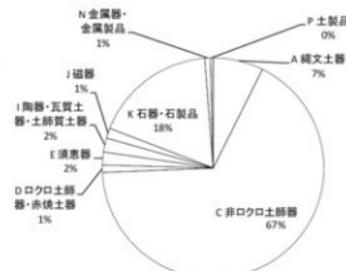
#### ・土師器、須恵器

土師器は、主にSI3・4 竪穴住居跡から出土しており、全て非クロロ土師器である。SI3 竪穴住居跡の遺物は、高坏(C002)と甕3点(C003～005)があり、坏は破片以外出土していない。高坏は脚部のみが出土しており、裾端部は大きく開く。甕は長胴型で胴部中央に膨らみを持つと考えられ、頸部と体部の境に弱い段を持つ。SI4 竪穴住居跡の遺物は、高坏3点(C006～008)、坏4点(C009・010・013・014)、埴(C011)、小鉢(C012)、甕4点(C015～018)がある。坏は体部と口縁部の境目にわずかな稜を持つもの(C013・014)、口径がやや大きく平底になりかかるもの(C010)等がある。また、小溝状遺構III群からは土師器の細片が少量出土している。

須恵器は坏・甕が出土しているが、時期のわかるものはない。

#### ・陶磁器

SK40・52土坑から、中国産の青磁碗破片が出土している。また、出土量は少ないが、河川跡内の落ち窪んだ範囲に堆積するII層からは、大塚相馬の陶器細片や肥前のくらわんか茶碗の破片等が出土している。



第50図 王ノ塚遺跡第6次調査の出土遺物

#### 参考・引用文献

- 仙台市教育委員会 1981 『仙台市大野田六反田遺跡発掘調査報告書—名取川下流域の縄文時代中期～平安時代の集落跡—』 仙台市文化財調査報告書第34集
- 仙台市教育委員会 1984 『六反田遺跡II』 仙台市文化財調査報告書第72集
- 仙台市教育委員会 1987 『富沢—仙台市都市計画道路長町・折立線建設に伴う富沢遺跡第15次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第98集
- 仙台市教育委員会 1988 『富沢遺跡—第28次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第114集
- 仙台市教育委員会 1989 『富沢遺跡・泉崎浦遺跡—仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書1』 仙台市文化財調査報告書第126集
- 仙台市教育委員会 1992 『郡山遺跡—第65次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第156集
- 仙台市教育委員会 1994 『元袋遺跡—第2次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第188集
- 仙台市教育委員会 1995 『伊古田遺跡—仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第193集
- 仙台市教育委員会 1995 『六反田遺跡—仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第199集
- 仙台市教育委員会 1999 『陸奥国分尼寺ほか発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第238集
- 仙台市教育委員会 2000 『大野田古墳群・王ノ塚遺跡・六反田遺跡—富沢駅周辺区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第243集
- 仙台市教育委員会 2000 『王ノ塚遺跡—都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書I—』 仙台市文化財調査報告書第249集
- 仙台市教育委員会 2001 『大野田遺跡—第2次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第252集
- 仙台市教育委員会 2003 『王ノ塚遺跡—第5次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第268集

仙台市教育委員会	2004	『元袋遺跡—都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ—』 仙台市文化財調査報告書第272集
仙台市教育委員会	2005	『郡山遺跡発掘調査報告書—総括編(1)—』 仙台市文化財調査報告書第283集
仙台市教育委員会	2005	『郡山遺跡発掘調査報告書—総括編(2)—』 仙台市文化財調査報告書第283集
仙台市教育委員会	2008	『大野田古墳群—第13次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第319集
仙台市教育委員会	2009	『元袋遺跡—第6次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第341集
仙台市教育委員会	2010	『大野田古墳群—第18次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第364集
仙台市教育委員会	2011	『富沢遺跡—第145次発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第382集
仙台市教育委員会	2011	『下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか—』 仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ—』 仙台市文化財調査報告書第390集
仙台市教育委員会	2011	『郡山遺跡31—平成22年度発掘調査概報 郡山遺跡・大野田官衙遺跡・法領塚古墳—』 仙台市文化財調査報告書第394集
仙台市教育委員会	2011	『郡山遺跡32—平成23年度発掘調査概報 郡山遺跡・与兵衛沼袋跡—』 仙台市文化財調査報告書第406集
仙台市教育委員会	2012	『六反田遺跡第9次調査 発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第398集
仙台市教育委員会	2012	『長町駅東遺跡第12次調査—仙台市あすと長町28街区・店舗建設工事に伴う発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第399集
仙台市教育委員会	2012	『仙台市平野の遺跡群—平成23年度発掘調査報告書—』 仙台市文化財調査報告書第404集
東北古代土器研究会		
福島・宮城支部	2005	東北古代土器集成—古墳後期～奈良・集落編—<宮城> 研究報告2

# 写真図版





1 年次調査 C3 付近遺構横切状況（西から）



1 年次調査 完掘状況（西から）

図版 1 1 年次調査区全景



2 年次調査 遺構検出状況（南西から）



2 年次調査 完掘状況（南西から）

図版 2 2 年次調査区全景



3 年次調査東側 遺構完掘状況（南から）



3 年次調査西側 遺構完掘状況（南から）

図版 3 3 年次調査区全景



3年次調査西側（南半）完掘状況（東から）



3年次調査 北壁 A-A' 断面（1）



3年次調査 北壁 A-A' 断面（2）

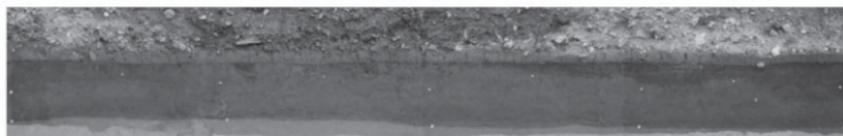


3年次調査 北壁 A-A' 断面（3）

図版4 3年次調査区全景・3年次調査区壁A断面



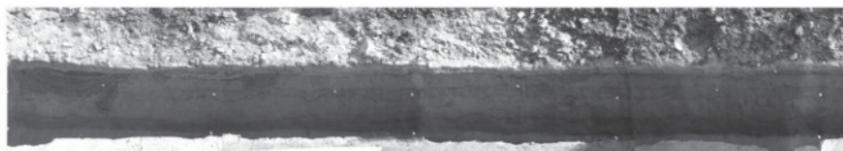
3 年次調査 中央トレンチ



2 年次調査 東壁 E-E' 断面 (1)



2 年次調査 東壁 E-E' 断面 (2)



2 年次調査 南壁 F-F' 断面 (1)



2 年次調査 南壁 F-F' 断面 (2)



2 年次調査 南壁 F-F' 断面 (3)

図版 5 3 年次調査区中央トレンチ、2 年次調査区壁 E・F 断面



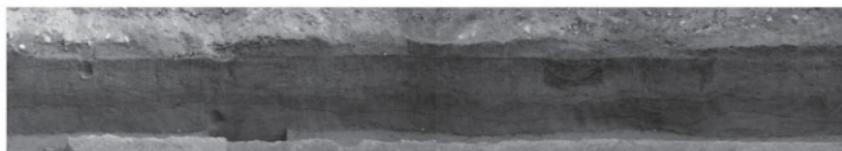
2 年次調査 南壁 F-F' 断面 (4)



2 年次調査 南壁 F-F' 断面 (5)



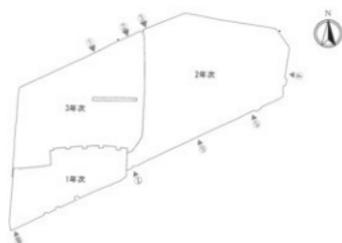
2 年次調査 南壁 F-F' 断面 (6)



1 年次調査 南壁 G-G' 断面 (1)



1 年次調査 南壁 G-G' 断面 (2)



壁断面写真位置

図版 6 2 年次調査区壁 F 断面、1 年次調査区壁 G 断面



3年次調査 北壁(写真位置①) (南から)



3年次調査 北壁(写真位置②) (南から)



2年次調査 北壁(写真位置③) (南から)



2年次調査 東壁(写真位置④) (西から)



2年次調査 南壁(写真位置⑤) (北から)



2年次調査 南壁(写真位置⑥) (北から)



2年次調査 南壁(写真位置⑦) (北から)



1年次調査 南壁(写真位置⑧) (北から)

図版7 1～3年次調査区壁断面



S11～4 完掘状況（北西から）



S11 B断面（西から）



S11 床面遺構完掘状況（南から）



S11 カマド完掘状況（南西から）



S11 カマド完掘状況（南から）

図版 8 S11 竪穴住居跡



S11-P1 完掘状況 (南から)



S11-P2 完掘状況 (南から)



S11-P3 完掘状況 (南から)



S11-P4 完掘状況 (南から)



S12 掘出状況 (北から)



S12 掘方完掘状況 (北から)



S13 南北A断面 (西から)

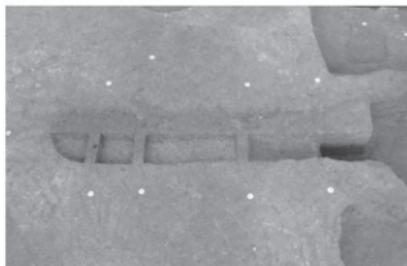


S13 床面遺構完掘状況 (南から)

図版 9 S11～3 竪穴住居跡



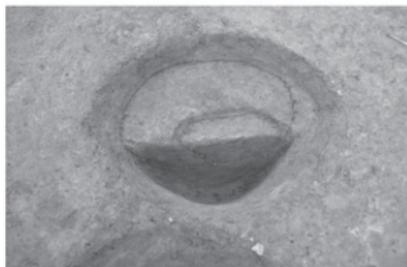
S13 カマド崩落土内出土状況 C005と軸支脚 C003(南から)



S13 窯道断面(西から)



S13 1層遺物出土状況 C004(北から)



S13-P1 断面(西から)



S13-P5 断面(西から)



S13-P7 断面(北から)



S13-SK1 断面(東から)



S13-SK2 断面(東から)

図版 10 S13 竪穴住居跡



S14 B断面（西から）



S14 床面遺構完掘状況（南から）



S14 カマド完掘状況（南から）



S14 カマド断面（南西から）



S14 カマド前出土状況C009（南から）



S14 Bブロック出土状況C015（南から）



S14-SK1 断面（北から）

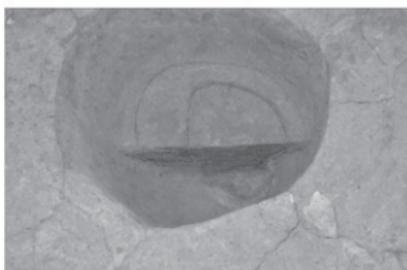


S14-SK2 南壁壁面（北から）

図版 11 S14 竪穴住居跡



SB1 検出状況 (南から)



SB1-P1 断面 (西から)



SB2 完掘状況 (南から)



SB2-P1 断面 (東から)



SB2-P5 断面 (南から)



SB2-P6 断面 (南から)



SB3 検出状況 (南から)



SB3-P1 断面 (南から)

図版 12 SB1 ~ 3 据立柱建物跡



SB3-P2 断面 (南から)



SB3-P3 断面 (南西から)



SB4 完掘状況 (南から)



SB4-P1 断面 (南から)



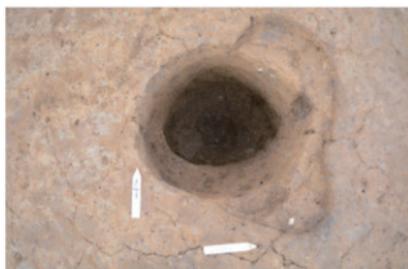
SB4-P2 断面 (南から)



SB4-P4 断面 (南から)



SB5 完掘状況 (南から)



SB5-P2 完掘状況 (南から)

図版 13 SB3～5 掘立柱建物跡



SK1 断面 (南から)



SK1 完掘状況 (南から)



SK3 断面 (南から)



SK3 完掘状況 (南から)



SK4 断面 (南から)



SK4 遺物出土状況 (南から)



SK5 断面 (西から)



SK5 完掘状況 (南から)

図版 14 SK1・3～5 土坑



SK7 断面 (西から)



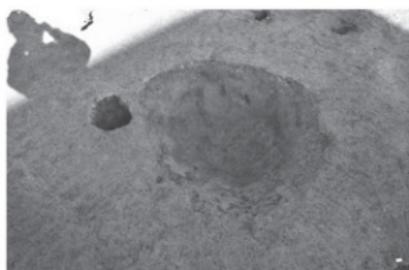
SK7 完掘状況 (南から)



SK8 完掘状況 (東から)



SK9 断面 (北から)



SK10 完掘状況 (南から)



SK11 断面 (西から)



SK12 完掘状況 (南東から)



SK16 断面 (北から)

図版 15 SK7 ~ 12・16 土坑



SK17 (左)・SK22 (右) 断面 (南西から)



SK17 (左)・SK22 (右) 完掘状況 (南西から)



SK18 断面 (南西から)



SK18 完掘状況 (南西から)



SK20 断面 (北から)



SK20 完掘状況 (南西から)



SK21 断面 (西から)



SK21 完掘状況 (北西から)

図版 16 SK17・18・20～22 土坑



SK23 断面（東から）



SK23 完掘状況（西から）



SK40 遺物出土状況（南から）



SK40 完掘状況（南から）



SK42・43 完掘状況（南東から）



SK43 断面（南から）



SK44 断面（南から）



SK44 完掘状況（東から）

図版 17 SK23・40・42～44 土坑



SK45 断面（東から）



SK45 完掘状況（東から）



SK46・48～51 検出状況（南から）



SK47 断面（南から）



SK47 完掘状況（東から）



SK49 断面（南から）



SK52 断面（東から）



SK52 1層出土船載青磁

図版 18 SK45～52 土坑



SK53・54 完掘状況（東から）



SK54 完掘状況（東から）



SK54 断面（南から）



SD1 溝跡 完掘状況（南東から）



SD2 断面（西から）



SD5 断面（南から）



SD2 底面工具痕跡（北西から）

図版 19 SK53・54 土坑、SD1・2・5 溝跡



SD5 完掘状況（南から）



調査区北東側 小溝状遺構群完掘状況（東から）



調査区東側（2年次） 小溝状遺構群完掘状況（西から）

図版 20 SD5 溝跡、小溝状遺構群



小溝状遺構群 I-2 断面 (東から)



小溝状遺構群 V-6~9 断面 (南東から)



SX1 (左)・P122 (右) A断面 (西から)



SX1 完掘状況 (南から)



SX3 断面 (西から)



SX3 完掘状況 (北から)



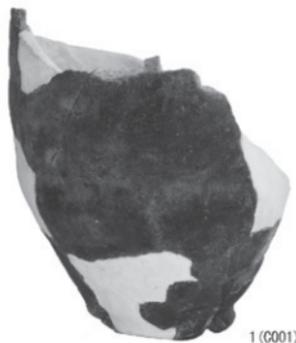
遺物集中状況 (南から)



遺物集中状況 (南から)

図版 21 小溝状遺構群、SX1・3 性格不明遺構、遺物集中状況

S11



1 (C001)



2 (K007)

S13



3 (C002)



4 (C003)

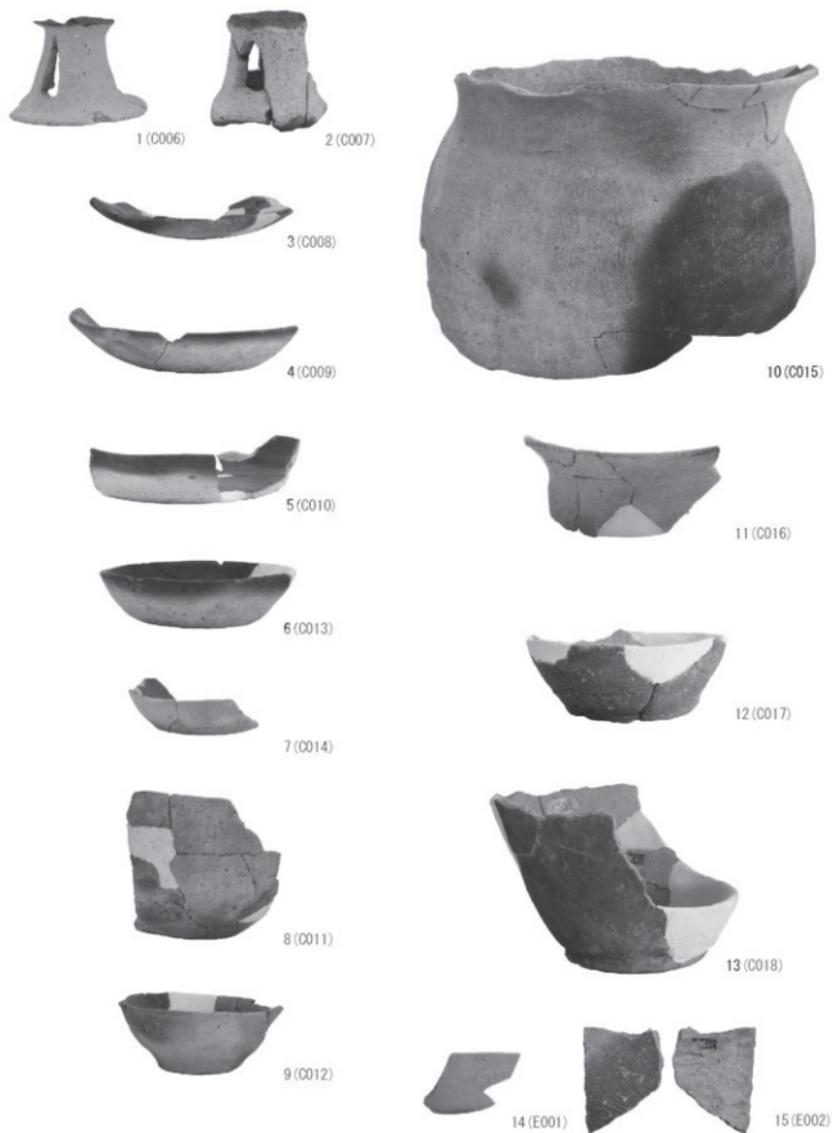


5 (C004)



6 (C005)

图版 22 S11·3 竖穴住居跡 出土遺物



図版 23 S14 竪穴住居跡 出土遺物

S11

SB3-P4



1:1  
1 (K003)

SK14



2 (No. 22)

SK17



3 (K001)

SK40



1:1  
4 (No. 312)



5 (K009)

SK48



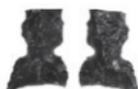
6 (K016)

SK52



1:1  
7 (No. 491)

小溝状遺構Ⅶ-13



1:1  
8 (K002)

Ⅷ層遺物集中範圍

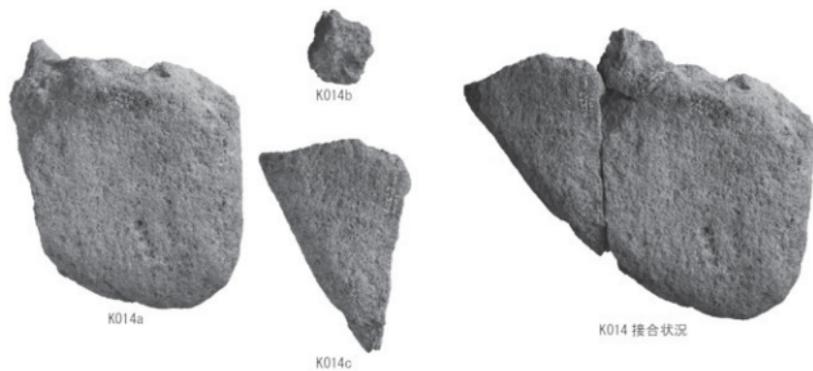
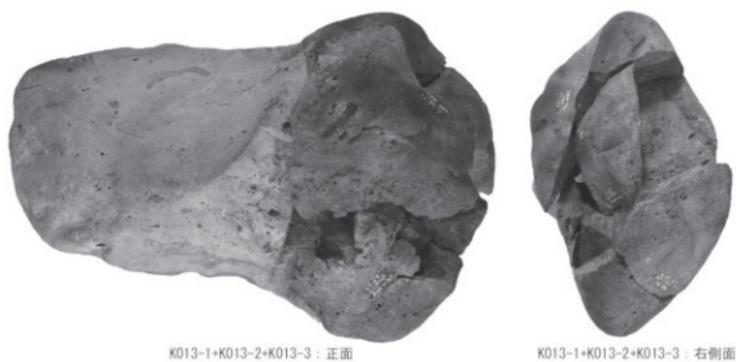


9 (A001)



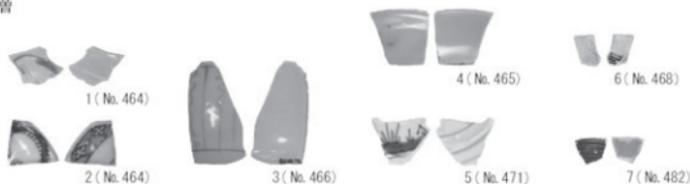
10 (K015)

圖版 24 SB3 掘立柱建物跡、SK14・17・40・52 土坑、小溝状遺構Ⅶ群、遺構外（Ⅷ層遺物集中範圍）出土遺物

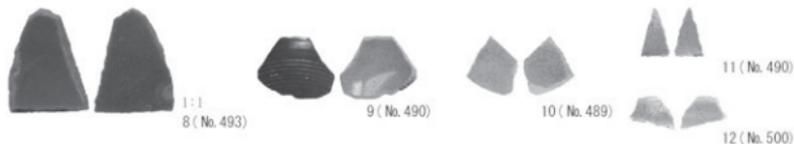


図版 25 遺構外（Ⅳ層遺物集中範囲）出土遺物

### 基本層Ⅰ層



### 基本層Ⅱ層



### その他の出土遺物

#### F8 グリッド



#### 中央トレンチX層



#### 北壁X層



図版番号	遺物・登録番号	写真番号	遺構 / 層位	種類	器種	部位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	外面調整	内面調整	備考
-	22	24-2	SK1	陶器	壺	胴部	-	-	-	平削面あり		調査中
-	312/3901	24-4	SK40 3層	彩釉	甗	胴部	-	-	-			青磁
-	491/3902	24-7	SK12	彩釉	甗	胴部	-	-	-			青磁調花文
-	361	26-1・2	I層	磁器	皿小	口縁	-	-	-			肥前
-	366	26-3	I層	磁器	甗	口縁~胴部	-	-	-			肥前 くらぶり 土手窯跡
-	365	26-4	草層上面	磁器	甗小	口縁	-	-	-			肥前
-	471	26-5	草層上面	磁器	甗	胴部	-	-	-			肥前
-	368	26-6	草層上面	陶器	甗	胴部	-	-	-			肥前
-	482	26-7	草層上面	甗	胴部	-	-	-	-			肥前・美濃小
-	493/3903	26-8	K3	彩釉	甗	胴部	-	-	-			青磁
-	490	26-9	草層上面	陶器	甗	胴部	-	-	-			大甗和瓦 肥前7輪
-	489	26-10	草層上面	陶器	甗小	胴部	-	-	-			大甗和瓦 肥前7輪
-	490	26-11	草層上面	陶器	甗	胴部	-	-	-			大甗和瓦
-	369	26-12	草層上面	陶器	甗	胴部	-	-	-			大甗和瓦

図版 26 遺構外（基本層Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・X層）出土遺物・写真掲載遺物観察表

### 報告書抄録

ふりがな	おらのだんいせきだい6じちようさーとしけいかくどうろ「こおりやまおりたてせん」かんけいへいせきほつくつちようさほうこくしょー							
書名	王ノ壇遺跡第6次調査―都市計画道路「郡山折立線」関係遺跡発掘調査報告書―							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第445集							
編著者名	佐藤淳 高橋純平 結城慎一 川又理枝 秋本雅彦							
編集機関	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課							
所在地	〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉一丁目5番12号 仙台市役所上杉分庁舎 TEL022(214)8899							
発行年月日	2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
おらのだんいせき 王ノ壇遺跡 だい6じちようさ 第6次調査	みやぎけんおらのだんいせき 宮城県仙台市 おいらくこほのだんいせき 太白区大野田二丁目 112 外	4100	01428	38° 12′ 50″	140° 52′ 39″	H25.08.27～ H26.11.11 H26.06.02～ H26.11.12 H26.09.14～ H26.11.02	700㎡ 1308㎡ 1,576㎡	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
王ノ壇遺跡	集落跡 墓跡 畑跡	古墳時代 古代 中世		彫穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 小溝状遺構 溝跡 河川跡		縄文土器 石器 土師器 須恵器 青磁		



仙台市文化財調査報告書 第 445 集

王ノ壇遺跡第 6 次調査

—都市計画道路「郡山折立線」関係遺跡発掘調査報告書—

2016 年 3 月

仙台市教育委員会

発行 宮城県仙台市青葉区上杉一丁目 5 番 12 号 仙台市役所上杉分庁舎  
生涯学習部文化財課 022 (214) 8899

今野印刷株式会社

印刷 宮城県仙台市若林区六丁の目西町 2 -10  
022 (288) 6123